

京都府埋蔵文化財調査報告書

平成 29 年度

京 都 府 教 育 委 員 会

京都府埋蔵文化財調査報告書

平成 29 年度

京 都 府 教 育 委 員 会

巻頭図版 恭仁宮跡第 97 次



(1) 朝堂院東面掘立柱罫 S A 5501 検出状況 (南から)



(2) 朝堂院東面掘立柱罫 S A 5501 検出状況 (北から)

序

京都府内では、平成 29 年に 271 件の発掘調査が行われ、各地で重要な発見が相次ぎました。

京丹後市史跡銚子山古墳では、史跡整備事業に先立ち発掘調査を実施したところ、墳丘長が約 201 m と推定できる成果が得られました。京都市平安京右京三条三坊五町跡では、平安時代前期の掘立柱建物跡 4 棟が見つかりました。調査区の中央で見つかった 1 棟は、平安京跡では最大級の規模を誇り、隣接地の調査でも同規模の建物が整然と配置された状況が確認されたことから、貴族の邸宅であったことがうかがえます。木津川市史跡恭仁宮跡では、朝堂院東辺区画施設である掘立柱塀の北端と想定される柱跡を確認しました。これは、北側に接する大極殿院の範囲を確定するための貴重な成果です。

また、京都府教育委員会では、暫定登録文化財制度を全国で初めて平成 29 年 4 月に創設しました。府内には、国・府の指定等はなされていないが、守るべき文化財が多く存在しており、多発する地震や豪雨等の自然災害による被害や、過疎化等に伴う担い手の減少による散逸の危惧が懸念されます。この制度は、対象を広げることにより散逸を防ぎ、文化財保護のすそ野を広げることを目的としています。今年度は 1,016 件の登録を行い、そのうち発掘調査で出土等した考古資料は 108 件です。また、学術的価値の高い貴重な考古資料については、今年度は 11 件を府指定にするなど、埋蔵文化財の分野においても、積極的に保護を行ってまいります。

本書は、平成 29 年度に京都府教育委員会が実施した発掘調査の概要をまとめたものです。この報告書の刊行を含め、発掘調査等に御協力いただいた多くの方々と関係機関に厚くお礼申し上げますとともに、本書が府の歴史や文化を御理解いただく上での一助となり、文化財の保護と活用に役立つこととなれば幸いです。

平成 30 年 3 月

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸三

凡 例

- 1 本書は平成 28・29 年度に京都府教育委員会が実施した埋蔵文化財調査関係の報告書である。
- 2 本書に収めた調査対象遺跡、執筆担当者は下表のとおりである。

	調査対象遺跡	執筆担当者
1	恭仁宮跡	古川 匠
2	府営農業農村整備事業関係遺跡	桐井理揮
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡	中居和志・桐井理揮・北山大照
4	平成 29 年府内遺跡試掘・確認調査	奈良康正・古川 匠・中居和志・岡田健吾
5	平成 28・29 年における埋蔵文化財の発掘	奈良康正・古川 匠・岡田健吾

- 3 本書の執筆は各担当者が行い、文責についてはそれぞれ文末に記した。編集は各担当者が行ったものを古川がまとめた。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト (<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>) に掲載する文化財GISデータを基に作成した。国土座標・方位のないものは、上位が北である。
- 5 本書で使用している測地系は、恭仁宮跡第 97 次は測量法改正 (2001 年 6 月 12 日改正、2002 年 4 月 1 日施行) 前の平面直角座標系 VI である。府営農業農村整備事業関係遺跡 (女布遺跡第 7 次) 及び国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡 (千代川遺跡第 29・31 次) は新座標 (国土座標 2000、平面直角座標系第 VI 座標系) である。
- 6 本書に使用した遺構番号の前には SA (築地・塀)、SB (掘立柱建物)、SD (溝)、SK (土坑)、SX (その他) 等の記号を付した。
- 7 本書で使用した方位記号は、矢羽根記号は座標北を表し、線縮き記号で磁北を表している。
- 8 本書に掲載している当課撮影の写真等の転載については、これを許可する。ただし、使用した場合は出典を明記すること。

目次

1	恭仁宮跡平成29年度保存活用調査報告（恭仁宮跡第97次調査）	1
2	府営農業農村整備事業関係遺跡平成29年度発掘調査報告	11
	〔1〕女布遺跡第7次調査	12
3	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡平成28・29年度発掘調査報告	27
	〔1〕平成28年度の調査（千代川遺跡第29次調査）	34
	〔2〕平成29年度の調査（千代川遺跡第31次調査）	45
4	平成29年府内遺跡試掘・確認調査等報告	49
	〔1〕川向遺跡試掘確認調査（第2・3次調査）	51
	〔2〕宮津城跡試掘確認調査（第18次調査）	53
	〔3〕花ノ木古墳試掘確認調査（第1次調査）	58
	〔4〕矢田遺跡試掘確認調査（第1次調査）	59
	〔5〕美濃山遺跡隣接地試掘確認調査	61
	〔6〕水主神社東遺跡隣接地試掘確認調査	62
	〔7〕小樋尻遺跡隣接地試掘確認調査	63
5	平成28・29年における埋蔵文化財の発掘	65
	〔1〕平成28・29年の動向	65
	〔2〕府内の主な発掘調査	67

CONTENTS

1	Overview of the excavation of the Kuni Palace site (from april 2017 to march 2018)	1
2	Overview of the excavation of the sites caused by pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager (from april 2017 to march 2018)	11
3	Overview of the excavation of the sites caused by government-managed urgent farmland reor- ganization maintenance project "Kameoka center district"	27
4	Overview of the trial excavation (2017)	49
5	General view of excavation in Kyoto prefecture (from 2016 to 2017)	65

挿図目次

恭仁宮跡（第97次調査）	
第1図 恭仁宮跡位置図（1/50,000）	1
第2図 調査地位置図（1/4,000）	3
第3図 恭仁宮跡主要遺構図（1/4,000）	4
第4図 I L 22 U-s トレンチ・周辺トレンチ平面図（1/500）	7
第5図 I L06 U-s トレンチ平面・土層断面図（1/100・1/150）	8
第6図 S P 17301 平面・土層断面図（1/40）	9
第7図 恭仁宮中心部の復元案（第1～3案）	10
府営農業農村整備事業関係遺跡	
〔女布遺跡第7次調査〕	
第8図 女布遺跡位置図（1/50,000 国土地理院「久美浜」）	13
第9図 調査トレンチ位置図（1/4,000）	14
第10図 第1～5トレンチ土層断面図（1/50）	15
第11図 第6トレンチ平面・南壁土層断面図（1/80）	16
第12図 第6トレンチ柱穴土層断面図（1/50）	17
第13図 出土遺物実測図（1/4）	17
第14図 第7～12トレンチ土層断面図（1/50）	18
第15図 地点A、B、C位置図（1/1,000）	19
第16図 地点B 検出土構平面・土層断面図（1/100・1/50）	20
第17図 地点A・B調査状況写真	21
第18図 地点A出土遺物実測図（1/4）	22
第19図 地点D出土遺物実測図（1/4）	23
国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡	
〔千代川遺跡第29次調査〕	
第20図 調査対象遺跡及び周辺主要遺跡分布図（1/60,000）	31
第21図 平成28年度 千代川遺跡第29次調査トレンチ配置図（1/6,000）	34
第22図 第29次調査 第2～7トレンチ平面・土層断面図（1/80）	37
第23図 第29次調査 第8～13トレンチ平面・土層断面図（1/80）	38
第24図 第29次調査 第14～19トレンチ平面・土層断面図（1/80）	39
第25図 第29次調査 第20～27トレンチ平面・土	

層断面図（1/80）	40
第26図 第29次調査 第28～32トレンチ平面・土層断面図（1/80）	41
第27図 第29次調査出土遺物実測図1（1/4）	43
第28図 第29次調査出土遺物実測図2（1/2）	44
〔千代川遺跡第31次調査〕	
第29図 平成29年度千代川遺跡第31次調査トレンチ配置図（1/6,000）	46
府内遺跡試掘・確認調査等	
第30図 平成29年度試掘・確認調査地位置図	49
〔川向遺跡試掘確認調査（第2・3次調査）〕	
第31図 川向遺跡位置図（国土地理院1/25,000「網野」）	52
第32図 川向遺跡調査地位置図（1/2,000）	52
第33図 第2次調査区土層断面模式図（1/100）	52
第34図 第3次調査地西側斜面の地輪	52
第35図 第3次調査区断面土層模式図（1/100）	52
〔宮津城跡試掘確認調査（第18次調査）〕	
第36図 宮津城と周辺城館位置図（1/25,000）	54
第37図 宮津城跡調査地位置図（1/1,000）	54
第38図 遺構平面・SW 2見通図（1/50）	55
第39図 遺構検出状況（北西から）・土層断面図（1/50）	55
第40図 出土遺物写真・実測図（1/4）	55
第41図 調査地周辺の遺構想定復元図（1/1,000）	56
〔花ノ木古墳試掘確認調査（第1次調査）〕	
第42図 花ノ木古墳位置図（国土地理院 1/25,000「河守」）	59
第43図 花ノ木古墳調査地位置図（1/1,000）	59
第44図 調査区土層断面図（1/80）	59
〔矢田遺跡試掘確認調査（第1次調査）〕	
第45図 矢田遺跡位置図（国土地理院1/25,000「亀岡」「法貴」）	60
第46図 矢田遺跡調査地位置図（1/1,000）	60
第47図 調査区平面・土層断面図（1/50）	60
〔美濃山遺跡隣接地試掘確認調査〕	
第48図 美濃山遺跡隣接地位置図（国土地理院1/25,000「淀」）	61
第49図 調査トレンチ配置図（1/3,000）	61
〔水主神社東遺跡隣接地試掘確認調査〕	
第50図 水主神社東遺跡隣接地位置図（国土地理院1/25,000「宇治」）	62
第51図 水主神社東遺跡隣接地調査トレンチ配置図（1/5,000）	63

第52図 第1トレンチ北壁土層断面図(1/100)……63 [小樋尻遺跡隣接地試掘確認調査]	
第53図 小樋尻遺跡隣接地位置図(国土地理院 1/25,000「宇治」)……………63	
第54図 調査トレンチ配置図(1/2,500)……………64	
第55図 第1・3トレンチ島畑検出状況……………64	

付表目次

府営農業農村整備事業関係遺跡	
付表1 平成29年度調査遺跡一覧表……………11	
付表2 女布遺跡第7次調査出土遺物観察表……………25	
国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡	
付表3 各機関が実施した調査……………28	
付表4 千代川遺跡発掘調査履歴一覧……………29	
付表5 第29次調査グリッド調査概要……………35	
付表6 第29次調査出土遺物観察表……………48	
府内遺跡試掘・確認調査等	
付表7 平成29年試掘・確認調査等一覧……………50	
平成28・29年における埋蔵文化財の発掘	
付表8 平成28年度埋蔵文化財担当者及び埋蔵文化 財包蔵地数市町村別一覧……………71	
付表9 平成28年度埋蔵文化財関係届出・通知件数 市町村別一覧……………72	
付表10 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧 ……………73	
付表11 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧 ……………73	
付表12 埋蔵文化財認定件数一覧……………73	
付表13 平成29年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧 ……………74	
付表14 平成29年度(公財)京都府埋蔵文化財調査 研究センター委託事業一覧……………75	
付表15 平成28年度発掘調査報告書等刊行状況……………77	
付表16 平成28年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告 一覧……………80	

巻頭図版

恭仁宮跡第97次

- (1) 朝堂院東面掘立柱群SA 5501 検出状況(南から)
- (2) 朝堂院東面掘立柱群SA 5501 検出状況(北から)

図版目次

恭仁宮跡第97次

- | | |
|------|---|
| 図版第1 | (1) IL 22 U-sトレンチ全景(西から) |
| | (2) IL 06 U-sトレンチ全景(南から) |
| 図版第2 | (1) IL 06 U-sトレンチ全景(北から) |
| | (2) IL 06 U-sトレンチSA 5501 近景(北から) |
| 図版第3 | (1) IL 06 U-sトレンチS P17301(南東から) |
| | (2) IL 06 U-sトレンチS P17301 東西土層断
面(南から) |
| 図版第4 | (1) IL 06 U-sトレンチS P17301 南北土層断
面(西から) |
| | (2) IL 06 U-sトレンチ西壁断面(南東から) |

府営農業農村整備事業関係遺跡(女布遺跡第7次)

- | | |
|-------|--------------------------|
| 図版第5 | (1) 調査地遠景(北から) |
| | (2) 調査地遠景(東から) |
| | (3) 第1トレンチ土層断面(北西から) |
| 図版第6 | (1) 第2トレンチ南東壁土層断面(北西から) |
| | (2) 第3トレンチ南東壁土層断面(北西から) |
| | (3) 第4トレンチ南東壁土層断面(北西から) |
| 図版第7 | (1) 第5トレンチ南東壁土層断面(北西から) |
| | (2) 第6トレンチ調査前(東から) |
| | (3) 第6トレンチ南壁土層断面(北東から) |
| 図版第8 | (1) 第6トレンチ遺構検出状況(南から) |
| | (2) 第6トレンチSP2・4掘削状況(東から) |
| | (3) 第6トレンチSP3・4掘削状況(東から) |
| 図版第9 | (1) 第6トレンチ遺構完掘状況(南東から) |
| | (2) 第6トレンチ全景(南西から) |
| | (3) 第6トレンチ全景(北東から) |
| 図版第10 | (1) 第6トレンチ出土遺物① |
| | (2) 第6トレンチ出土遺物② |
| | (3) 第6トレンチ出土遺物③ |

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」

関係遺跡(千代川遺跡第29次)

- | | |
|-------|-----------------|
| 図版第11 | (1) 調査地遠景(北西から) |
| | (2) 調査地遠景(南東から) |
| | (3) 調査地遠景(北西から) |

- 図版第 12 (1) 第 2 トレンチ遺構検出状況 (北から)
(2) 第 3 トレンチ遺構検出状況・北壁土層断面 (南から)
(3) 第 4 トレンチ遺構検出状況 (東から)
- 図版第 13 (1) 第 5 トレンチ南壁土層断面 (北から)
(2) 第 6 トレンチ遺構検出状況 (西から)
(3) 第 6 トレンチ東壁土層断面 (西から)
- 図版第 14 (1) 第 8 トレンチ遺構検出状況 (西から)
(2) 第 9 トレンチ東壁土層断面 (西から)
(3) 第 10 トレンチ南壁土層断面 (北西から)
- 図版第 15 (1) 第 11 トレンチ遺構検出状況 (北から)
(2) 第 14 トレンチ遺構検出状況 (北から)
(3) 第 14 トレンチ南壁土層断面 (北西から)
- 図版第 16 (1) 第 15 トレンチ遺構検出状況 (北から)
(2) 第 16 トレンチ遺構検出状況 (北から)
(3) 第 16 トレンチ南壁土層断面 (北から)
- 図版第 17 (1) 第 17 トレンチ南壁土層断面 (北西から)
(2) 第 18 トレンチ南壁土層断面 (北西から)
(3) 第 19 トレンチ掘削状況・北壁土層断面 (南から)
- 図版第 18 (1) 第 20 トレンチ掘削状況・南壁土層断面 (北から)
(2) 第 22 トレンチ北壁土層断面 (南から)
(3) 第 23 トレンチ南・西壁土層断面 (北東から)
- 図版第 19 (1) 第 26 トレンチ遺構検出状況 (西から)
(2) 第 26 トレンチ遺構断面状況 (西から)
(3) 第 27 トレンチ遺構検出状況 (北から)
- 図版第 20 (1) 第 30 トレンチ南壁土層断面 (北から)
(2) 第 31 トレンチ遺構検出状況 (西から)
(3) 第 32 トレンチ遺構検出状況 (西から)

1 ^{くにきゅうせき} 恭仁宮跡平成 29 年度保存活用調査報告

(恭仁宮跡第 97 次調査)

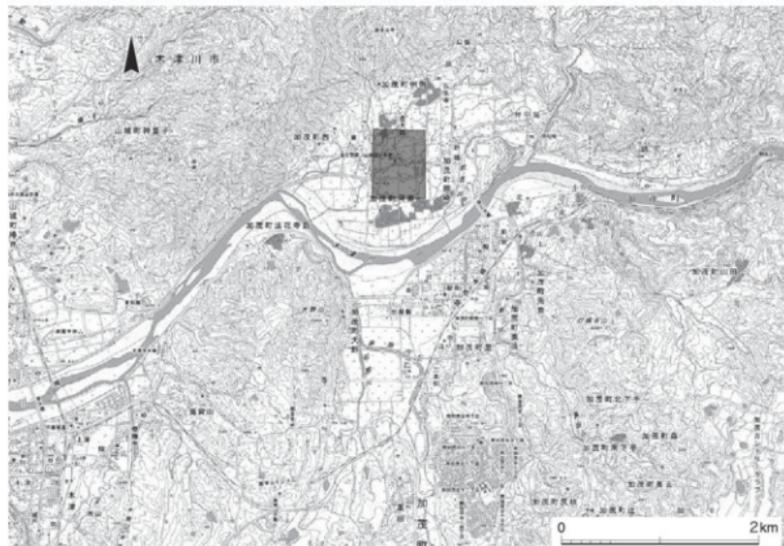
1 はじめに

恭仁京は、聖武天皇により天平 12 (740) 年から同 16 (744) 年まで足かけ 5 年にわたって営まれた古代宮都である。京都府教育委員会では、近隣に及び始めた諸開発に備え、恭仁宮跡の実態解明を目的として、昭和 48 年度から継続的に調査を実施し、平成 8 年度には恭仁宮跡の四至を確定した。

昭和 32 年に史跡山城国分寺跡として指定され、平成 19 年に史跡恭仁宮跡 (山城国分寺跡) と名称変更・追加指定され、平成 20 年、22 年、27 年、29 年、30 年にさらに史跡範囲の追加指定が行われた。

平成 9 年度からは、恭仁宮跡の保存及び活用を図るため、宮内のより重要な地区についての詳細な内容把握を目的として、保存活用調査に着手した。内裏地区では、大極殿の北方に 2 つの区画施設が設けられていることを確認し、平成 16 年度には、その併設された内裏地区それぞれの範囲を確定するに至った。平成 24 年度からは、中心部の内部構造の解明を目的とした 10 箇年計画を策定し、調査を進めている。

平成 15 年度からは大極殿院地区の範囲内容確認調査も実施しており、平成 19 年度には大極殿院回廊の西北隅付近を確認し、大極殿院の解明が大きく進捗することとなった。平成 18 年度からは朝堂院・



第 1 図 恭仁宮跡位置図 (1/50,000)

朝集院地区における調査を開始しており、平成 24 年度には、恭仁宮跡ではじめてとなる朝堂建物跡、平成 26 年度には朝堂院南門跡、平成 27 年度には宝幢（幢旗）遺構を検出し、平成 28 年度には朝集院の四至を確認した。本報告では、第 97 次調査の略報を行う。

《調査組織・平成 29 年度》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部理事 文化財保護課長事務取扱 磯野浩光

専門家会議

委員長 上原真人（京都大学名誉教授）

副委員長 井上和人（桃山学院大学非常勤講師）

委員 玉田芳英（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長）

箱崎和久（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長）

調査指導 文化庁、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

技術協力 金田明大（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部遺跡・調査技術研究室長）

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎善久

副主査 古川 匠

副主査 中居和志

技 師 岡田健吾

調査事務局 京都府立山城郷土資料館

調査協力 木津川市、木津川市教育委員会、京都府山城教育局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

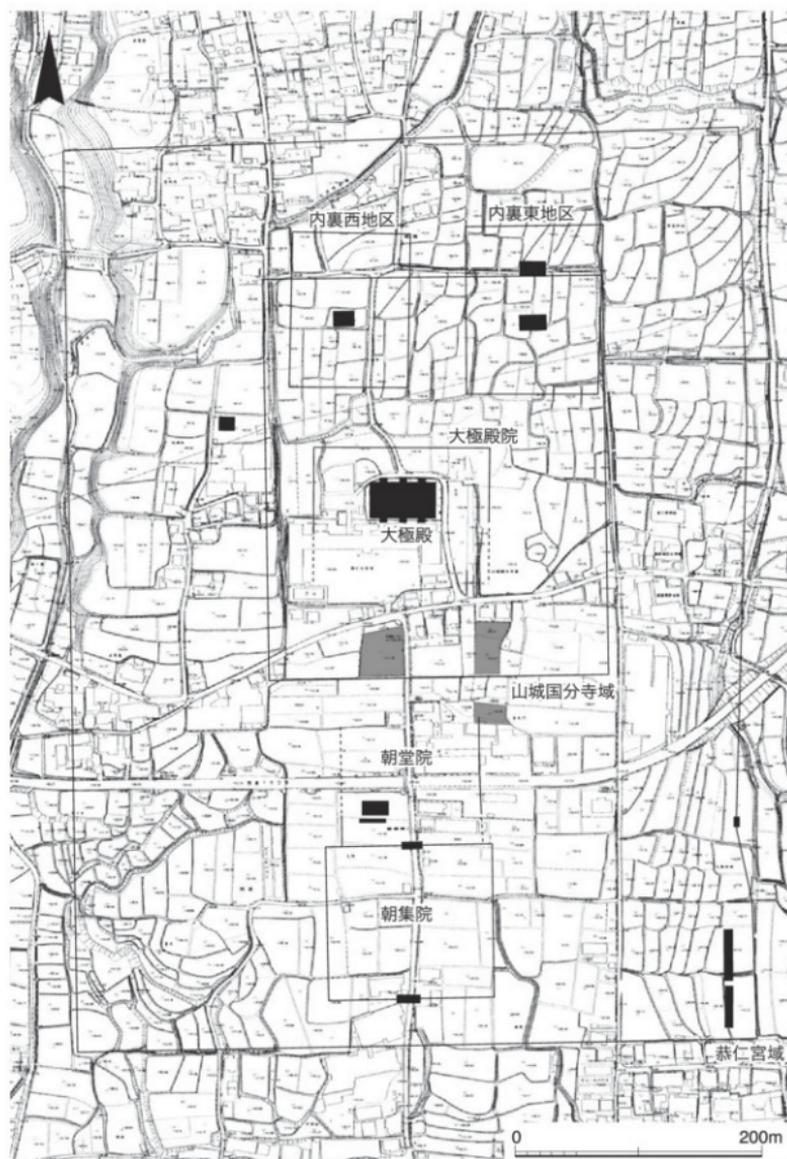
現地調査及び整理作業に当たっては、多数の方々にご多大な協力を得た。心より感謝したい。

また、本調査専門家会議で平成元年度から委員として、懇切丁寧にご指導をいただいた和田 翠先生が平成 29 年 3 月をもってご勇退された。長年に渡りご指導に、心から感謝申し上げます。

2 調査経過

京都府教育委員会による恭仁宮跡の調査は昭和 48 年度から実施しており、今年度で 45 年目を迎えた。昭和 48 年度の分布調査及び文献調査を経て、昭和 49 年度からは発掘調査に着手した。昭和 50 年度から昭和 61 年度は、宮内の重要施設を確認するため宮跡中枢域において発掘調査を実施し、大極殿院や朝堂院の区画施設、内裏に関連すると想定される建物や塀等の遺構を確認した。

平成 4 年度から平成 8 年度に実施した調査によって、宮の四至が南北約 750 m、東西約 560 m であることが確定した。その後も、恭仁宮跡の保存活用を検討する上で、必要な資料を得ることを目的として継続的に調査を進めている。宮跡主要地区での調査成果の概要は下記のとおりである。



第2図 調査地位位置図 (1/4,000)



第3図 恭仁宮跡主要遺構図（1/4,000）

内裏地区

平成9年度の調査により、大極殿院の北方に、東西に並ぶ2つの区画施設の存在を確認した。他の宮都では、内裏が存在する位置にあるこれらの区画施設については、現時点ではその性格等の把握が十分ではないため、暫定的に両者を含め「内裏地区」とし、両者を区別する場合には、「内裏西地区」、「内裏東地区」とそれぞれ呼称している。

「内裏西地区」は、東西約97.9m（約330尺）、南北約127.4m（約430尺）の範囲を掘立柱塼で区画するものである。区画内部の建物配置は、中心建物と思われる四面庇の東西棟建物S B 5303のほかに2棟の存在が確認されている。

「内裏東地区」は、中心建物と見られる2棟の東西棟庇付き建物が南北に並び、東・西・南の3辺を築地、北辺を掘立柱塼で区画する。東西約109.3m（約370尺）、南北約138.9m（約470尺）の規模に復元することができる。

大極殿院地区

大極殿院地区では、昭和51年度に大極殿基壇S B 5100を調査し、13基の礎石痕跡と階段等を検出し大極殿の規模が確定した。また、昭和53年度には、大極殿の東方で南北に2列に並んだ柱列S A 5301・5302を検出し、回廊構築に伴う足場杭列との判断がなされた。しかし、これら以外には、大極殿院地区に係る施設（築地回廊や後殿の配置等）についての手がかりは得られていなかった。

こうした中、平成15年度から大極殿院回廊の解明を目的とした新たな調査に着手し、平成17年度の大極殿院北東部における調査において、掘立柱建物S B 0501を検出した。南北4間、東西10間の総柱建物で、南北11.34m、東西42.75mを測る。この建物は、恭仁宮の仮設的な建物あるいは僧坊など山城国分寺の関連施設と考えられる。また、平成18・19年度に大極殿の西北側で実施した調査で、大極殿院築地回廊の西北隅付近を確認した。両年度の調査では、大極殿院西面築地回廊に係る礎石抜き取り痕跡を計10基9間分、北面築地回廊に係る同様の礎石抜き取り痕跡を5基検出した。さらには北・西辺の外側を廻る雨落溝を検出し、西北隅部を明らかにすることができた。この成果により、大極殿院の東西幅は480尺（141.5m）で設計されたものと判断され、北面築地回廊（S A 0701）南側柱と大極殿基壇北端の間におよそ95尺（約28.1m）の空地が存在していたことが判明した。

大極殿院回廊の南北長を明らかにするため平成22年度から平成24年度にかけて調査を行った。これらの調査においては、南面回廊の礎石の抜き取り痕跡の可能性のある遺構S X 12101（第4図）などを検出したが、確定には至らなかった。

朝堂院・朝集院地区

朝堂院の区画は、北辺を除く区画施設については、その徴候のある遺構が確認されてきたが、平成21年度調査によって、西辺と南辺がそれぞれS A 0902、S A 0901に訂正されることとなった。この成果によって、朝堂院の東西幅は390尺（約115.8m）であることが確定し、大極殿の中心から朝堂院南辺のS A 0901までの距離は、940尺（約280m）となった。平成26年度調査では、朝堂院南門を検出した。また、平成24年度調査において、朝堂建物跡をはじめて検出した。この建物は平成25・26年度の調査で南北2棟が重複する東西棟の掘立柱建物であることが判明したが、全容の解明

には至っていない。

朝集院の区画については、西辺が S A 5901、南辺が S A 6202 であることが確定している。また、朝集院南門と考えられる S B 6305 の存在も確認されている。平成 28 年度の調査で北東隅を確認したことで、朝集院の四至が確定し、規模は南北が 420 尺、東西は 450 尺であることが確定した。

3 第 97 次調査

平成 29 年度第 97 次調査は、大極殿院南面回廊の検出を目的に実施した。5 月 15 日から 17 日に、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の技術協力を得て大極殿院・朝堂院・朝集院地区で地中レーダー探査を実施した。探査の結果については次年度以降報告する。9 月 1 日からトレンチ設定予定地点の測量などを実施し、9 月 4 日から掘削作業を開始した。10 月 4 日には恭仁小学校児童を対象に体験発掘を実施した。恭仁宮跡調査専門家会議を 11 月 28 日に開催し、調査成果の検討を行った。12 月 9 日には現地説明会を実施し、約 180 名の参加者を得て終了した。12 月 19 日に埋め戻しを含めた現地での作業を全て完了した。調査面積は 350m²で、瓦や埴などコンテナ 24 箱分の遺物が出土した。

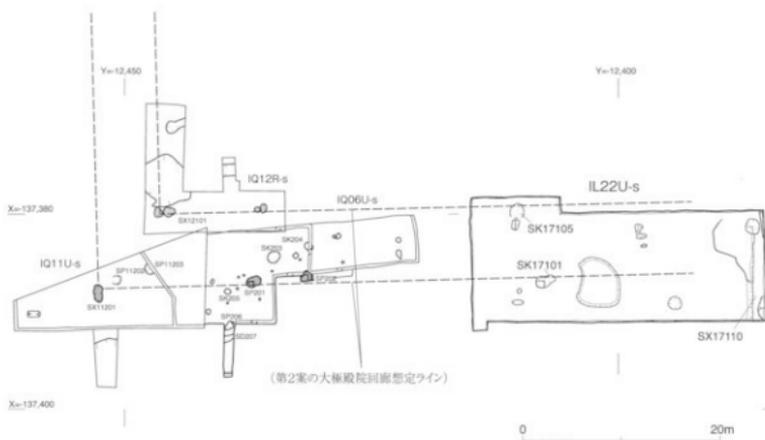
（1）既往の調査成果と今年度の調査トレンチの位置（第 3・4 図）

これまで未確定の大極殿院地区と朝堂院地区の境界を解明するため、近隣地点では断続的に調査が実施されてきた。

大極殿院地区では、平成 22 年度から 24 年度に実施された第 88、89、90 次調査⁽¹⁾で、大極殿院西面及び南面回廊の検出を目的とした調査が実施されている。大極殿正面の恭仁小学校南面には幅 100m 以上の高低差が存在し、平成 22 年度以前に想定された復元案（第 1 案）⁽²⁾では、大極殿院南限地点に相当する。恭仁小学校校門付近に設定した第 88 次 I L 23 G -s トレンチでは、ほぼ垂直に 0.8 m 以上落ちる中世以前の段差 S X 101 を検出し、人為的な盛土で形成されたことが推定された。第 1 案を補強する成果である。しかし、I L 23 G -s トレンチから約 65 m 南の第 88 次 I Q 06 U -s トレンチ及び第 89 次 I Q 11 U -s トレンチで、大極殿院南面回廊礎石の抜取り痕跡の可能性のある遺構 S P 201、S P 202、S X 11201 が検出された。この結果、大極殿院南限を第 1 案よりも南に復元する案が新たに提示された（第 2 案）。ただし、大極殿院南面回廊礎石抜取り痕跡の可能性のある遺構は残存状況が悪く、また、埋土内には礎石に伴う根石等が確認されていない。遺構単体では礎石抜取り痕跡と確定できず、性格は不明である。

朝堂院地区では、東面独立柱塼 S A 5501 の南北方向の柱穴列が検出されている。ただし、平成 4 年度の第 36 次 I M 04 I -s トレンチ⁽³⁾検出例を北端とし、以北のトレンチでは柱穴列が確認されていない。大極殿院復元案第 1、第 2 案の両案で朝堂院北部と想定される地点で掘立柱塼が未検出であることから、恭仁宮の廃絶以降に朝堂院地区内部で大規模な削平が為された可能性が想定されてきた。

平成 29 年度調査では、第 88 次 I Q 06 U -s トレンチの東に隣接して、I L 22 U -s トレンチを設定した。大極殿の正面にあたり、第 1 案では朝堂院地区、第 2 案では大極殿院南面回廊及び大極殿院



第4図 I L 22 U -s トレンチ・周辺トレンチ平面図 (1/500)

南門に相当する位置である。また、I L 22 U -s トレンチから約 60 m 東に I L 06 S -s トレンチを設定した。第 1 案では朝堂院東面掘立柱塼 S A 5501、第 2 案では大極殿院南面回廊と朝堂院東面掘立柱塼 S A 5501 の接続地点と想定される地点である。さらに、I L 06 S -s トレンチから約 50 m 南で、I L 06 U -s トレンチを設定した。第 1・2 案の両案で朝堂院掘立柱塼 S A 5501 が想定される位置である。

(2) I L 22 U -s (第 4 図)

遺構面直上の遺物包含層からは大量の遺物が出土した。出土遺物整理作業の途中であるが、遺物の概略を述べると、恭仁宮及び山城国分寺所用の古代瓦が多数を占める。瓦は摩耗が著しく、廃棄後の二次的な移動が想定される。また、ごく少量ながら瓦器椀片や白磁片などの中世遺物が共伴する。

遺物包含層の直下で地山面を検出した。遺構面はトレンチ東部で台状 (S X 17110) に高くなる。S X 17110 の位置は山城国分寺南門の真北にあたることから、山城国分寺参道遺構の可能性がある。しかし、S X 17110 以外には顕著な遺構は確認されていない。土坑状遺構 (S K 17101、17105) が散在するが、どの遺構も非常に浅く、埋土は上層の遺物包含層と近似する。人為的な遺構ではなく、自然の窪地が埋没したものである可能性が高い。

(3) I L 06 S -s

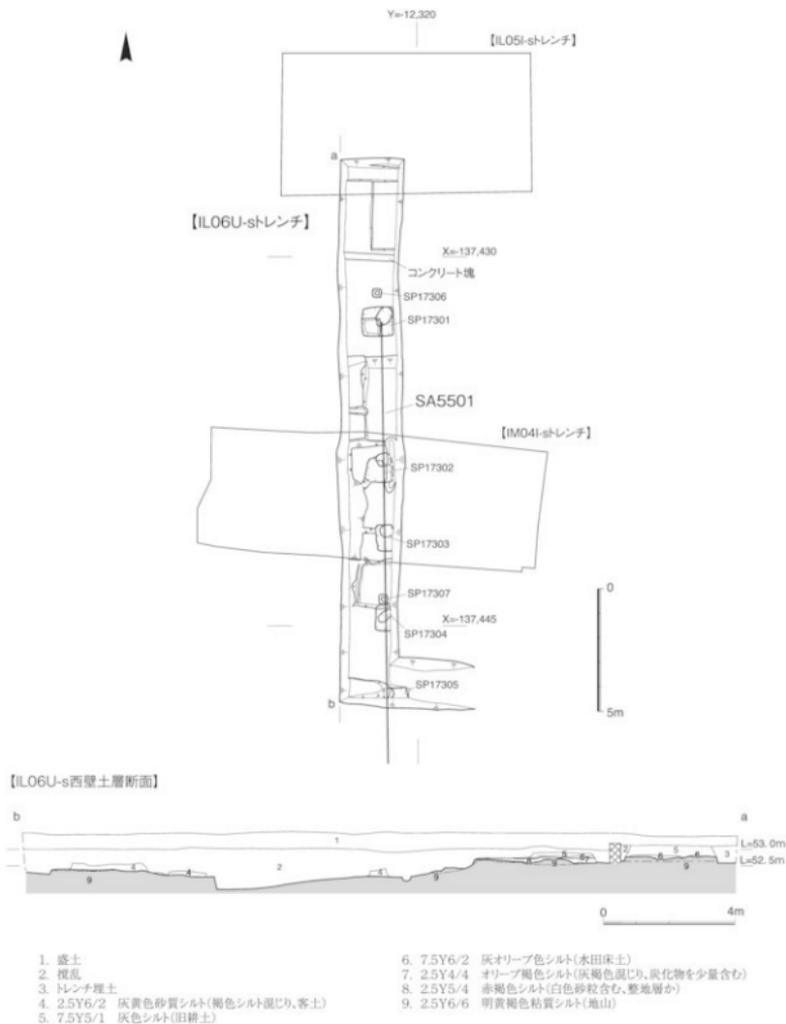
朝堂院掘立柱塼の柱穴列の検出が想定されたが、トレンチ全面で遺構が検出されなかった。

(4) I L 06 U -s (第 5・6 図)

朝堂院東面掘立柱塼 S A 5501 が確実に検出されている I M 04 I -s トレンチと、その北に位置し

遺構が検出されていない I L 05 I -s トレンチと一部重複させてトレンチを設定した（第 5 図）。

トレンチ中央部から東寄りで南北の柱穴列を検出した。既往の調査成果との照合から、朝堂院東面掘立柱塚 SA5501 であることは確実である。SP 17301 と 17302 の間に柱穴が存在するはずだが、削



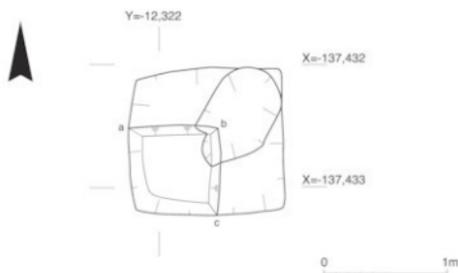
第 5 図 I L 06 U -s トレンチ平面・土層断面図 (1/100・1/150)

平のため検出されなかった。また、S P 17301 及び 17304 の北に隣接して小柱穴 S P 17306、17307 を検出した。S A 5501 に伴う足場穴の可能性はあるが、性格は不明である。

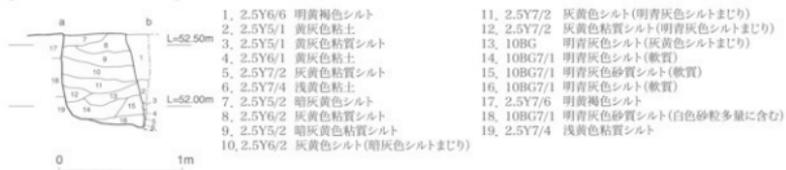
S P 17301 (第6図) の平面規模は南北1.2 m、東西1.25 mでほぼ正方形である。柱は北東方向に抜き取られている。遺構深度及び柱中心の位置の確認を目的として南西部を掘削したところ、遺構面から柱穴底までの深さは0.85 mを測ることが判明した。柱穴底で確認した柱当りの検出位置から推定される柱中心の座標は、X=-137.4327、Y=-12.3215である。

S P 17301 より南は攪乱の影響により遺構面が削平されているが、S A 5501 を構成する柱穴 S P 17302 ~ 17305 が検出された。一方、S P 17301 より北は、遺構面の残存状況が良好にも関わらず、柱穴は確認されない。I L 06 U-s トレンチ以北のトレンチでも同様である。したがって、仮に掘立柱塼が特殊な構造で一部が礎石立でもない限り、S P 17301 が S A 5501 の北端柱穴と考えられる。

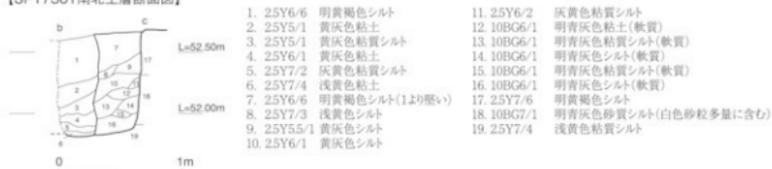
【SP17301平面図】



【SP17301東西土層断面図】



【SP17301南北土層断面図】



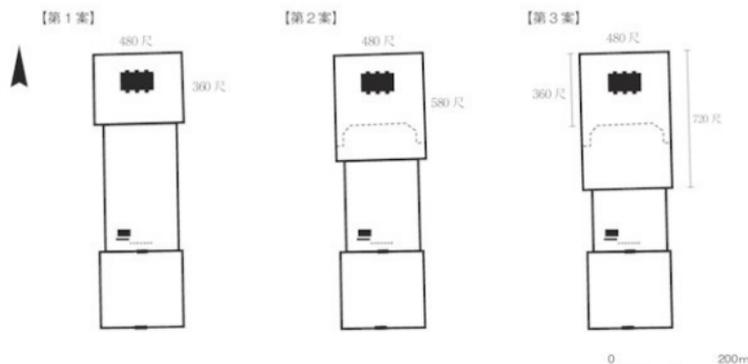
第6図 SP 17301 平面・土層断面図 (1/40)

4 まとめ

平成 29 年度の調査では、朝堂院東面掘立柱塼 S A 5501 の北端柱穴が、従来の第 1・2 案の想定よりも南に位置することが判明した。したがって、I L 06 U - s トレンチ S P 17301 付近に大極殿院南限を想定する第 3 案を新たに提示する（第 7 図）。

第 3 案の大極殿院は、第 2 案よりさらに長く、南北全長 720 尺となる。東西全長は 480 尺と確定しているため、東西と南北の比率は 2 : 3 となる。また、第 1 案で大極殿院南限とされた段差は、第 2 案の想定を踏襲し龍尾壇に比定するが、第 3 案の龍尾壇の位置は、大極殿院北辺及び南辺からの距離が各 360 尺で等しく、大極殿院を均等に二分する位置にあたる。

ところで、第 3 案の大極殿院南門想定地点の付近では、礎石が埋没していたことが明治年間に紹介されている⁽⁵⁾。当時は山城國分寺南門の遺構と推測されたが、今年度の調査によって、恭仁宮大極殿院南門の遺構である可能性が新たに浮上した。今後の周辺の調査が期待される。（古川 匠）



第 7 図 恭仁宮中心部の復元案（第 1～3 案）

（注）

- (1) 京都府教育委員会 2011「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 22 年度）」
京都府教育委員会 2012「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 23 年度）」
京都府教育委員会 2013「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 24 年度）」
- (2) 恭仁小学校南面を大極殿院地区と朝堂院地区の境界とする論考として、下記が挙げられる。
足利健亮 1969「恭仁京の歴史地理学的研究 第 1 報－現景観の観察・測定にもとづく朝堂院・内裏・宮城および右京「作り道」考－」『史林』52－3 史学研究会
奈良康正 2011「恭仁宮大極殿院考」『京都府埋蔵文化財論集』第 6 集 財団法人京都府埋蔵文化財調査センター
- (3) 加茂町教育委員会 1993「恭仁宮跡発掘調査概要（加茂町文化財調査報告）」第 11 集
- (4) 京都府教育委員会 2007「京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 18 年度）」
- (5) 大西源一 1909「山城恭仁京及山城國分寺遺址實査」『考古界』第七篇第十號 考古学會

2 府営農業農村整備事業関係遺跡

平成 29 年度発掘調査報告

京都府教育委員会では、府農林水産部が進める府営農業農村整備事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて同部農村振興課と協議を行い、埋蔵文化財の保護と同事業との調整を図っている。事業着手前には、事業地内における埋蔵文化財包蔵地に対し、試掘・確認調査を実施して遺構・遺物の広がり等の詳細な内容を把握するとともに、やむを得ず本調査の必要な部分については、それぞれ関係する広域振興局と府及び各市町教育委員会との間で協定書を締結し、発掘調査を実施している。

平成 29 年度の府営農業農村整備事業に係る発掘調査は、京都府教育委員会、京丹後市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施した。その内訳は、本調査 3 件である。

平成 29 年度の調査組織及び関係機関は以下のとおりである。調査期間中に協力いただいた関係機関及び関係者の方々には記して感謝したい。

〈調査組織〉

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部理事 文化財保護課長事務取扱 磯野浩光

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎善久

副主査 中居和志

技 師 桐井理揮

技 師 北山大照

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町女布区、京都府農林水産部農村振興課、京都府丹後広域振興局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、京都府丹後教育局、京都府立丹後郷土資料館

また、現地調査、整理作業に当たっては、以下の方々の協力・助言を得た。心より感謝したい。

荒木順奈、小笠原順子、奥田栄吉、高野陽子、竹原一彦、筒井崇史（敬称略、五十音順）

付表 1 平成 29 年度調査遺跡一覧表

1 京都府教育委員会が実施した調査

遺跡名	所在地	現地調査期間
女布遺跡（第7次）	京丹後市久美浜町女布地内	平成 29 年 5 月 26 日～平成 29 年 9 月 8 日

2 その他の機関が実施した調査

遺跡名	所在地	調査機関
女布遺跡（第6次）	京丹後市久美浜町女布地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
女布遺跡（第8次）	京丹後市久美浜町女布地内	京丹後市教育委員会

[1] 女布遺跡第 7 次調査

1 はじめに

女布遺跡は、京丹後市久美浜町字女布に所在する。府営農業農村整備事業が実施されることから、関係部局との調整を経て、今年度は事業予定地のなかで地下の遺構面に影響が及ぶ水路部分及び工事によって切土が行われることが確実である箇所にトレンチを設定し、発掘調査を実施した（第 9 図）。また、施行期間内に工法等により影響の及ぶ箇所についても適宜協議の上、調査を行った。現在遺物は整理途中であるが、今回はその成果の一部も併せて報告することとする。

現地調査の期間は、平成 29 年 5 月 26 日、平成 29 年 6 月 26 日から同 7 月 7 日及び同 9 月 7・8 日で、調査面積は 58m²である。

2 位置と環境

女布遺跡は、佐濃谷川右岸の扇状地上に位置する縄文時代から近世にかけての散布地である。遺跡内には、佐濃谷川流域で唯一、式内社に比定される賣布神社が位置している。女布遺跡の報告は、昭和 28 年の耕地整理に伴い安井良三氏によって調査が行われたのが初出であり、弥生時代中期後半から古墳時代中期前半の土器、大型の石包丁及び奈良時代の土師器・須恵器が当遺跡出土遺物として報告されている。遺物が出土した詳細な位置は明らかではないが、小字黒田の近辺で 45cm 程掘削したところで黒色土層がみられ、その 15～60cm 下層から出土したという⁽¹⁾。また、『熊野郡誌』の記述によると、賣布神社の参道から南に約 70m の地点で寺院の礎石と推定される「巨石」が存在したとされるが、安井氏が耕地整理に伴って現地に赴いた際にはすでに取り除かれた後であったといい、詳細は不明である。これまでの調査では、遺跡地内の広い範囲で径 40cm を超える大礫を含む堆積を確認しており、この「巨石」も自然堆積物の可能性はあるが、今後の開発の際には注意が必要である。平成 4 年度には京都府教育委員会が立会調査を行ったが、顕著な遺物・遺構は確認されず、女布遺跡の実態は不明瞭なままであった。

近年、遺跡地内におけるは場整備事業が計画され、平成 23 年度及び同 28 年度に京丹後市教育委員会によるグリッド調査が行われ、包蔵地内の広い範囲に弥生時代から中世の遺物包含層が存在することが確認されている。また、平成 28 年度には公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターと当教育委員会によって調査が行われ、弥生時代後期の堅穴建物や中世の土坑等が検出され、女布遺跡の具体的な様相が次第に明らかになりつつある。

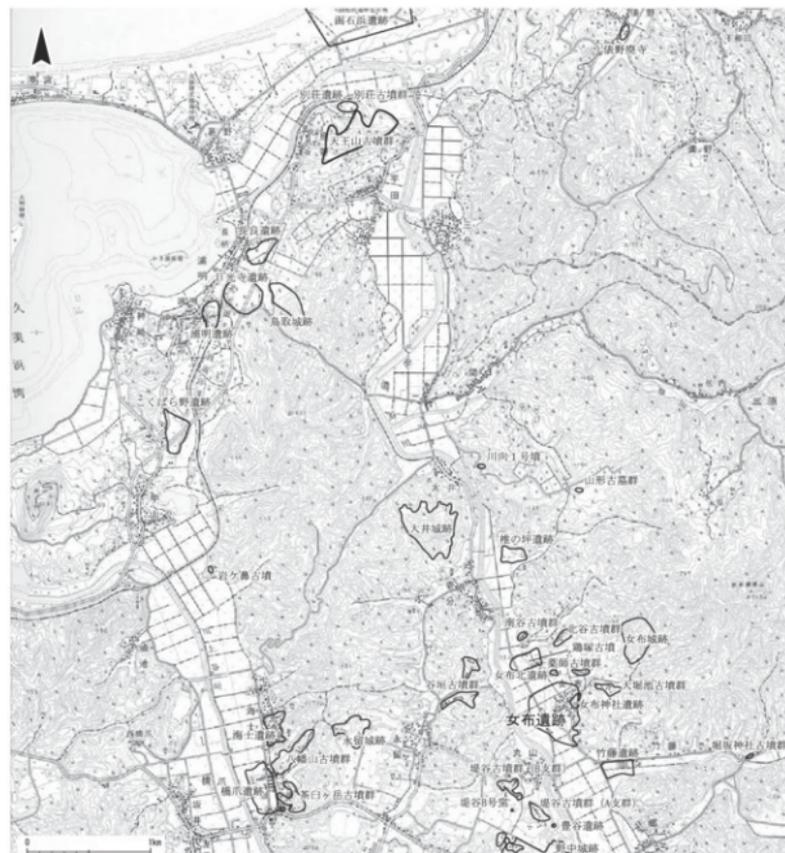
次に、調査地周辺における歴史的環境について概観する。

久美浜町周辺では、弥生時代前期以前に遡る遺跡としては、旧石器時代のもと考えられるスクレイパーが出土した鳥取城跡下層や、縄文時代早期とみられる押形文土器の破片が出土した女布北遺跡

の例があるが、いまだ不明瞭な点が多い。

海浜部の浦明遺跡や函石浜遺跡（史跡函石浜遺物包含地）では、弥生時代前期末から中期初頭に属する遺物がややまとまって出土しており、この時期には当地域にも安定した居住域が形成されはじめる。弥生時代中期になると、当地域でも遺跡数の増加がうかがわれ、先述の浦明遺跡のほか、橋爪遺跡などでも大規模な居住域が検出されている。女布遺跡の南西では畿内第Ⅱ様式並行期に豊谷墳墓群が形成され、1号墓の埋葬施設からは打製石剣や石鏃等が出土している。

後期前半の遺跡としては、鳥取城跡下層や茶臼ヶ岳古墳群などの墳墓が知られるものの、集落は不明瞭な点が多い。この傾向は、久美浜町周辺だけでなく丹後地域全域に共通し、後期前半の集落の検出例はほとんど知られていない。一方、後期後半には、先述の橋爪遺跡のほか、外面にタタキをもつ



第8図 女布遺跡位置図 (1/50,000 国土地理院「久美浜」)

畿内系とされる土器が出土した椎ノ坪遺跡や直径 8 m の円形堅穴建物が検出された西谷遺跡、海土遺跡、竹藤遺跡など小規模な遺跡が谷筋に多く出現する。

古墳時代は前期の集落が女布遺跡・女布北遺跡、中期の集落が別荘遺跡で調査されている。古墳は 1990 年代前後の国営農地整備事業に伴い多く調査され、堤谷古墳群（前期から中期）、天王山古墳群（前期から後期）、谷垣古墳群（前期後葉から中期）、別荘古墳群（中期）、川向 1 号墳（後期）、鶏塚古墳（後期）などで、その内容が明らかとされた。女布遺跡の東側丘陵上には 10 基からなる北谷古墳群があり、そのうち 5 基が調査された。1 号墳からは、鉄製刀剣類や碧玉製紡錘車形石製品、土師器等の豊富な副葬品が出土しており、当地域を代表する有力者の古墳として評価されている。

古代の遺構が検出された遺跡としては、今回の調査地に北接する女布北遺跡での調査が特筆される。女布北遺跡では数棟の掘立柱建物や土器溜まり等の遺構が検出されており、一帯では縄文時代以降、地点を変えながらも継続的に土地利用が行われたことが判明しつつある。また、別荘遺跡や河口部の



第 9 図 調査トレンチ位置図 (1/4,000)

日光寺遺跡でも、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物がやまとまって検出されている。この時期の生産遺跡としては堤谷窯跡群があげられる。堤谷窯跡群では3基の登窯が調査され、7世紀から8世紀前半にかけて操業されたことが、出土した須恵器から明らかにされている。特に、3号窯跡では8世紀前半の須恵器に伴って瓦が出土しており、佐野小学校保管の採集品や矢田八幡神社保管品の中にも当窯跡出土資料とされる瓦がみられることは注目される。熊野郡に該当する久美浜町域では、この時期の官衙や寺院の存在が不明のため供給先は未詳であるが、今後の調査が期待される。

3 調査の概要

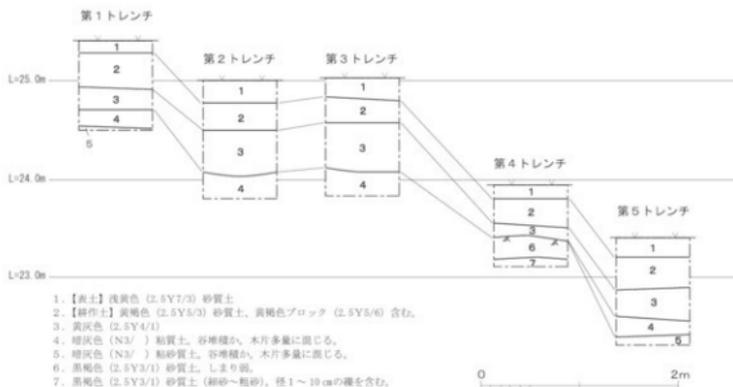
(1) 第1～5トレンチの調査（第10図）

水路部分の掘削に合わせて2m×2mの調査区を5箇所に設定し、バックホーによる掘削を行った。耕作土を除去し、表土下1.0～1.2mまで掘削したところ、第1～3、5トレンチでは、近世の遺物をわずかに含む沼地状の堆積土（第3～5層）を確認したのみであり、安定地盤を確認することはできなかった。また、第4トレンチでは表土下0.6mで礫を含む砂層を検出したが、顕著な遺構、遺物は認められなかった。

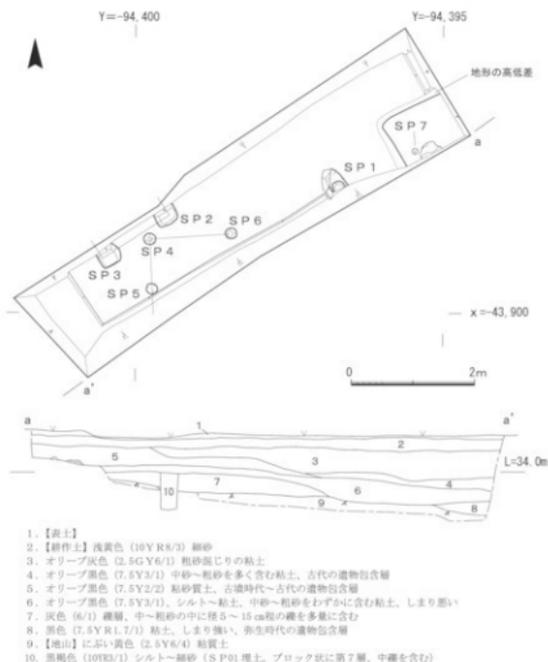
(2) 第6トレンチの調査

①調査区の概要と基本的な層序（第11図）

水路部分の掘削範囲に合わせ、幅2m、長さ8mの調査区を設定し、バックホーにより第7層まで掘削を行った。第4～6層はオリブ黒色を呈する遺物包含層であり、古代以降の遺物がわずかに含



第10図 第1～5トレンチ土層断面図 (1/50)



第11図 第6トレンチ平面・南壁土層断面図 (1/80)

まれる2次包含層であると考えられる。その下層には、部分的には厚さ30cmほどにもなる礫層（第7層）が調査区北東側を中心に堆積している。この層中の礫は径10cmを超える大礫も含まれており、同様の堆積が、過去の京丹後市教育委員会の調査でも東側の丘陵でも確認されており、土石流による堆積層であると考えられる。その礫層を除去したところで、シルト質の安定地盤（第9層）を検出した。この安定地盤面は東から西に向かって傾斜しており、調査区の西端で落ち込むような地形となる。

なお、落ち込み中には黒色粘質土（第8層）が堆積しているが、付近での京都府埋蔵文化財調査研究センターの調査成果を参考にすると、弥生時代から古墳時代の包含層であると考えられる。遺構はすべて9層の上面で検出した。

②検出遺構

検出した遺構は、方形の柱穴2基、円形のビット5基である。上層に古代の土器を含む包含層が堆積しており、これらは古代の遺構であると考えられる。

SP1 径40cm、深さ60cmを測る円形のビットである。周囲に不整形の掘方と考えられる落ち込みがみられる。断面の観察では第7層の礫層から切り込んでいるようだが、他の遺構が第7層から掘削されていることが確認されなかったため、柱が抜き取られる以前に第7層が堆積し、柱部分が腐敗し



第12図 第6トレンチ柱穴土層断面図 (1/50)

たものとする。埋土中より土師器の細片が出土した。

SP 2 一辺40cm程度、深さ50cmを測る方形の柱穴である。中央に認められた柱痕跡は径20cmを測る。第9層から切り込んでいる。埋土中より須恵器、土師器が出土した。

SP 3 一辺40cm、深さ25cmを測る方形の柱穴である。方形の掘方の北側で径20cm程の柱痕跡と考えられる堆積を断面観察によって確認した。埋土中より土師器の細片が出土した。

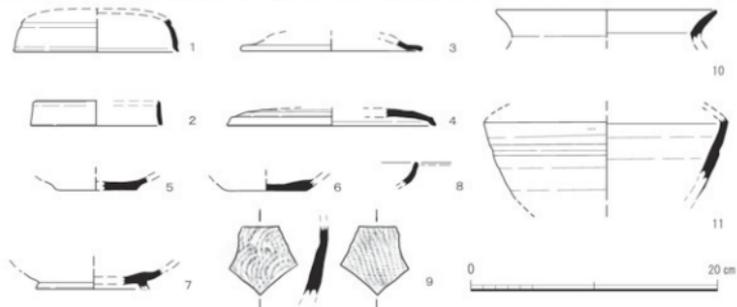
なお、SP 2、3は、規模や土層の堆積状況から一連の遺構と考えられ、掘立柱建物の可能性がある。SP 4～6 径、深さ30cm程度の円形のピットである。断面形状は緩いU字状となる。埋土が類似しており、同一のものと考えられる。ほぼ正方位の掘立柱建物の可能性があるが、大部分は調査地外となるため明らかではない。

SP 7 径10cm、深さ16cmを測る円形のピットである。埋土中より弥生土器の細片が出土した。

③出土遺物 (第13図)

第6トレンチ出土遺物には弥生土器と土師器、須恵器があり、整理箱1箱分である。その多くは細片であるが、器形の判明する資料を中心に以下で報告する。

1、8はSP 2から出土した須恵器である。1は小片ながら口縁端部に沈線をもつ杯蓋の可能性が高い。MT15～TK10並行期だが、混入品である可能性が高い。8は杯ないし碗の口縁部と考える。



1・8 SP2 第1層、2・3・5～7・11 重機掘削中、4・9・10 南壁5・6層

第13図 出土遺物実測図 (1/4)

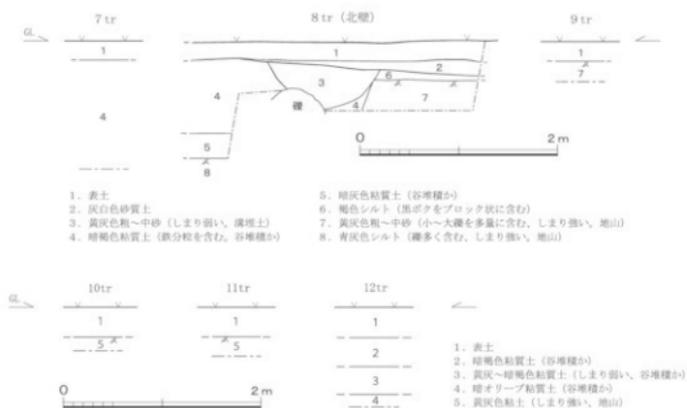
それ以外の遺物は重機掘削中ないしトレンチ壁面清掃中に、主に5、6層から出土した。2から4は須恵器蓋である。2は天井部を欠くが、屈曲部から判断すると壺蓋の可能性が高い。3はやや新相を示す遺物で、9世紀代に下る可能性がある。4は鋭く屈曲するかえり部をもち、外面にケズリが施された天井部はやや平坦となる。5から7は杯・碗類である。5は内黒の黒色土器である。11・12世紀のものであろう。6は須恵器底部である。外面にはへら切りの痕跡が残る。7は貼り付け高台をもつ須恵器杯の底部である。9は須恵器甕の体部である。外面には縦方向のタキ目が残る。焼成が甘く、断面は浅黄色を呈する。11は長頸壺の体部と思われる。体部中位には1条の沈線がめぐり、体部上位にはケズリが認められる。10は土師器甕の口縁部である。頸部内面にはケズリが施され、口縁部と胴部の間の稜は明瞭である。

今回図示した遺物は、8世紀代を中心とするものであり、検出した遺構も主にこの時期のものである可能性が高い。また、図化しえなかったが、弥生土器と思われる破片も数点出土したほか、1や5のように、古墳時代及び中世の遺物もわずかながら出土した。

(3) 第7～12トレンチの調査（第14図）

女布遺跡の遺物包含層、遺構面の広がりを確認するため、工事による切土が確実な地点に設定した調査区である。調査トレンチはバックホーのバケット幅に合わせて設定し、基本的には工事による切土が及ぶ深度までバックホーによって掘削を行った。その結果、顕著な遺構・遺物は認められなかったため、地表面からの簡易な記録を作成し、調査を終了した。以下、各調査区の概要を記す。

第7・8・9トレンチ 京丹後市教育委員会が実施した第5次調査G2・3の北側に設定した調査区である。第7トレンチでは湿地状の堆積、第9トレンチでは安定地盤を検出した。また、中央に設定した第8トレンチでは、調査区中央部で西側に傾斜するように地山の落ちを検出した。第8トレンチ



第14図 第7～12トレンチ土層断面図（1/50）

で近代以降のものと考えられる溝を確認したが、顕著な遺物は出土していない。

第10・11・12トレンチ 京丹後市教育委員会が実施した第5次調査G-2・3trの北側に設定した調査区である。いずれの調査区でも安定面を検出しているため、今回の調査区でも安定面の存在が想定された。第10・11トレンチではそれぞれ表土直下、地表面から0.3m下層で黄灰色粘土の地山を検出したが、遺構は認められなかった。第12トレンチでは湿地状の堆積を確認した。第2層中から、弥生土器の可能性のある土器片が1点出土したが、器面の摩滅が著しく、二次堆積によるものであろう。表土下1.0mまで掘削を行ったが、安定面の存在は確認されなかった。

（4）地点A～Dの調査

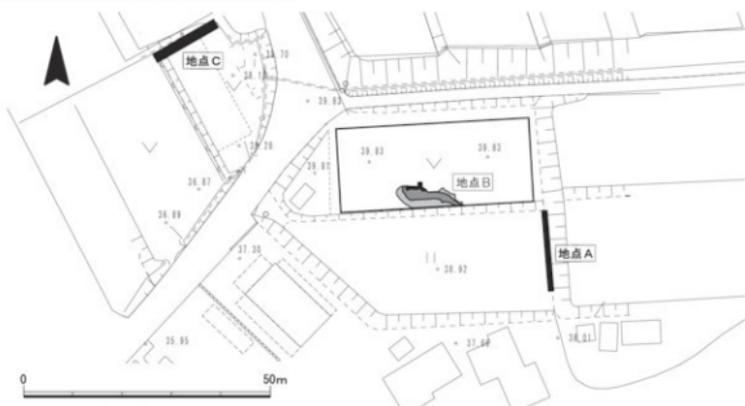
①調査の経過

上記の調査終了後、当初予定した第1～12トレンチ以外にも、工事予定範囲内で遺構の存在が推定された。4箇所で緊急的に調査を実施したが、国土座標を用いた測量や、標高の記録等は行うことができなかった。各地点を地点A～Dと呼称し（第9図・第15図）報告する。

②調査区の概要

地点A 賣布神社北側で、既設水路の取り外し、新設に伴って調査を行った地点である。水路の掘削幅に合わせて、掘削が及ぶ深度まで確認を行った。既設水路は黒色粘質土の中に設置されており、現地ではすでに土器の細片が散布している状況であった。

バックホーによって既設水路の取り外し及び掘削を行ったところ、黒色粘質土は地表面から0.3mほど堆積しており、それ以下まで掘削すると浅黄色の地山層となることが判明した。この黒色粘質土層は未掘削部分にも広がっており、遺構埋土である可能性も否定できないが、今回の調査のみでは明らかにしえない。黒色粘質土上層からは弥生時代後期初頭を中心とする土器がややまとまって出土した。浅黄色の層からの出土遺物はない。



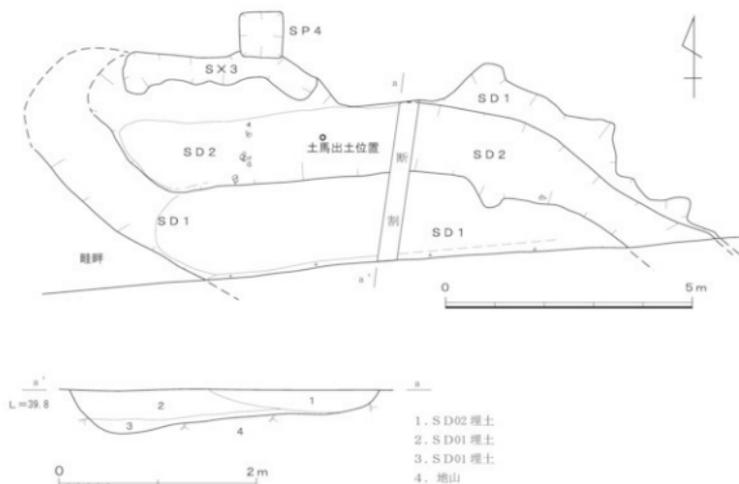
第15図 地点A、B、C位置図（1/1,000）

地点 B（第 16 図） 賣布神社北側の工事地内において調査を行った。工事中に遺構と考えられる黒色の土色変化を確認したため、調査を行い、急速平面的な記録の作成と掘削を行った。特に遺物の散布が顕著であった地点を中心に遺構の平面的な検出を試みた結果、溝状遺構 2 条と方形の柱穴 1 基、不整形の溝状遺構 1 条を検出した。

SD 1 は最大幅約 3.5 m を測る。南東端では検出面からの深さ約 1.0 m 程であるが、北西にかけて次第に浅くなる。現地に向いた際に北西端付近の浅い部分ではすでに遺物が露出していたのに対し、南東側の深度の深い部分では溝底付近で多くの遺物が出土したことから、北西側では後世の改変により、溝の上部が失われていると考えられる。

SD 2 は SD 1 に切り合うようにして検出した、最大幅 1.3 m を測る溝状遺構である。遺構の南肩は平面的に認識することができたが、北肩は SD 1 とほぼ共有しており、SD 1 と同様、北西端にかけて次第に浅くなる。精査することができなかったが、切合関係ではなく、SD 1 の一部である可能性も残る。上層から須恵器大甕や土馬の頭部等が出土した。

SX 3 は、SD 1、2 の北東端で検出した幅 0.5 m、長さ 4.0 m の溝状遺構である。埋土はしまりのない黄褐色の砂質土であり、地山のブロックを多く含む。埋土中より遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明である。SP 4 は SX 3 を切り込むようにして検出した一辺 0.8 m を測る隅丸方形のピットである。



第 16 図 地点 B 検出遺構平面・土層断面図 (1/100・1/50)



地点A 土層断面（北東から）



地点A 土層断面（北から）



地点B 全景（南東から）



地点B SD1・SD2断割（北西から）

第17図 地点A・B調査状況写真

これらの遺構の平面的な記録を作成したのち、遺物の回収を行った。

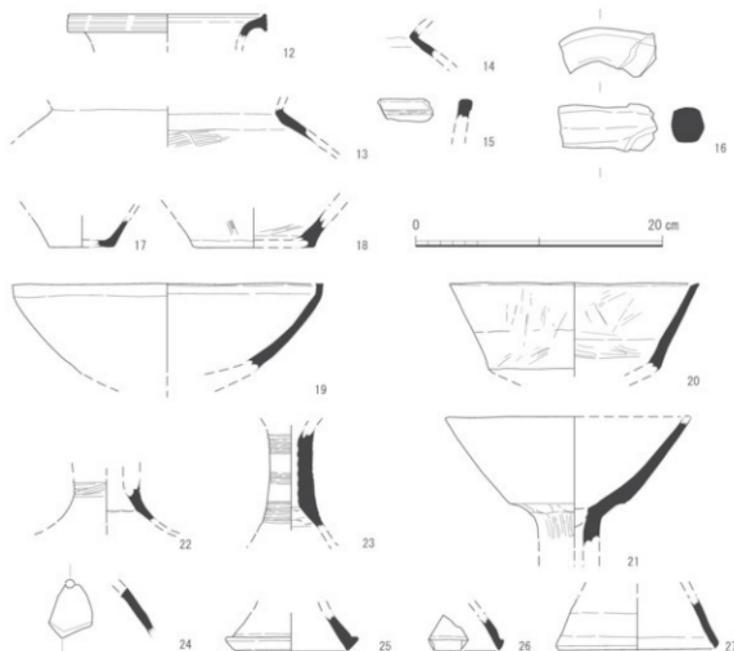
地点C 第6トレンチの東の延長上に予定された水路部分で行った調査である。水路の掘削幅に合わせて、掘削が及ぶ深度まで調査を行ったが、第10図第4層から第6層に対応する黒褐色土層を確認したのみであり、遺構、安定地盤まで掘削は及ばなかった。顕著な出土遺物はない。

地点D 第6次調査第2-aトレンチの南側で行った調査である。水路の掘削幅に合わせて、水路による掘削が及ぶ深度まで掘削を行った。表土直下で安定地盤を検出したものの、遺構の存在を確認することができなかった。遺構面は存在しなかったか、すでに後世の改変によって大部分が失われたものと考えられる。表土掘削中に土師器・須恵器の細片が出土した。

③出土遺物

地点AからDの調査で出土した土器の総量は整理箱5箱分である。そのなかでも、土馬や須恵器稜碗等を含む多くの遺物が出土した地点Bに関しては、現在整理中であるため次年度以降に報告することとし、今回はそれ以外の地点のものについて報告することとした。

地点A（第18図12～27） 第18図は地点Aで出土した弥生土器である。器種には甕、壺、高杯、水差しがある。先述のように水路取り外しの際に出土した遺物であり、出土層位の記録作成等を行うことができなかったが、すべての資料は黒色粘質層から出土しており、時間的にも一定のまとまりが



第18図 地点A出土遺物実測図（1/4）

みられる資料である。

12は、甕ないし壺の口縁部である。口縁端部を上下に拡張し、端面には3条の凹線がめぐる。14も甕の口縁から肩部と考えられるが、端部を欠く。体部内面のケズリは屈曲部まで及んでおらず、屈曲部直下は板ナデが認められる。

壺は多くの破片が出土しているものの、図化しえたものはほとんどない。口縁端部の形状がわかるものは認められず、頸から胴部の破片が多く得られている。いずれも浅黄色を呈し、器面はやや粗いハケで仕上げられる。13は壺の肩部であろう。外面は摩滅は著しいが、内面はハケで仕上げられている。16は壺、ないし水差しの把手である。半輪状の芯に粘土板を巻き付けることによって成形したものであり、楕円形ないし五角形の断面形状を持つ。

15は鉢の口縁部の可能性があるが、判然としない。厚手で外傾気味であり、外面には凹線文と考えられる沈線が1条認められる。

17は甕底部、18は壺の底部である。17はかなり薄く仕上げられ、底面の接合痕跡から、底部を輪台状に作り出したのちに内面に粘土を充填していると考えられる。内面にケズリ痕跡は認められない。

19～27は高杯である。胎土が類似しており同一個体と考えられるものも含むが、接点がなく、明

らかではない。杯部には、口縁部から屈曲部までが直に伸び、杯部下部に段を残す、脚台付き鉢状のもの（a類：20、21）と、口縁部直下でわずかに内傾し、脚部まで直線的に伸びるもの（b類：19）の2種が認められる。

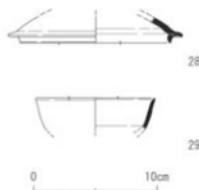
21は口縁部を欠損するがほぼ杯部から脚部の形をうかがうことができるものである。杯部は単純な鉢形を呈しており、脚部につながる。脚部から杯部までは一体で製作されており、欠損しているものの杯底部はあとから充填されたものと思われる。20もa類の杯部であり、内外面に粗いミガキが認められる。端部には明瞭な面を持たせるように整形する。19はb類としたものである。杯部は脚部から直線的に口縁部に延び、口縁部直下で緩く屈曲して立ち上がる。杯部の端面は面を持たせるように整形する。

22は高杯脚柱部と考えられる。23も中空の脚柱部であり、外面には上部から6条、3条、6条の凹線文で施文される。24～27は脚裾部である。25、26は端面を上下に拡張し、明瞭な屈曲を持つことなく脚柱部につながるものであり、弥生時代中期後葉から後期前葉に認められる型式である。内面には時計回り方向のケズリが認められる。27は小片のため判然としないが、高杯脚裾部として図化した。ナデによって成形され、やや内湾するように端部に続く。

地点D（第19図28・29） 弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器の小片が出土した。

28は須恵器杯蓋である。かえりがやや伸長し、胎土には径1～2mm程度の砂粒を多く含む。29は須恵器椀である。砂粒をほとんど含まない密な胎土で製作されており、焼成も硬質である。ともに飛鳥時代前半のものと考えられる。

これまで、当遺跡周辺では飛鳥時代に属する遺物の出土は知られていなかった。地点D出土須恵器は小片ながら飛鳥時代に属すると判断される遺物である。集落本体の場所は不明ながら、当時期の遺構も周辺に存在する可能性が高い。



第19図 地点D出土土器（1/4）

4 まとめ

今回の調査は、範囲が限られており、遺構の面的な広がりを確認することはできなかったが、第6トレンチで古代のものと考えられる方形の柱穴や掘立柱建物跡と考えられるピット数基を検出した。このことによって、これまで女布遺跡で確認されていた遺構の広がりが、さらに東の丘陵上まで続くことが明らかとなった。また、第1から5トレンチでは谷状の地形を確認したが、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターや京丹後市教育委員会が近隣で実施した調査成果を参考にすると、周辺では遺構面が検出されており、第1から5トレンチ付近が谷部端部にあたるとということが判明した。第7から第12トレンチでも同様に地山の急激な落ちを検出しており、遺構面・遺物包含層の広がる範囲について重要な情報を得ることができた。

賣布神社の北側で行った調査地点でも弥生土器、須恵器等が多量に出土したことは特筆される。地点A出土の弥生土器は、遺構出土資料ではないものの、弥生時代後期初頭のまとまった資料である。

近隣の調査ではほぼ同時期の資料としては、鳥取城跡下層土坑 2 出土土器を挙げることができるが、今回出土の資料は高杯の脚部に凹線がめぐるものがあり、中期的な様相をより色濃く残す段階のものであるといえる。丹後地域全域でも、左坂墳墓群 18 号墓第 2 主体、もしくは今市墳墓群などごく限られた資料しか得られておらず、丹後地域の集落出土の資料としてはこれまでほとんど例のないものであり、包含層とはいえ、集落出土資料として新たな資料を提示することができた。

地点 B では古代の土器が多量に出土した。これらの資料は現在整理中であるが、8 世紀代のまとまった資料であり、その中にはほぼ完形の稜椀や土馬等のやや特殊な遺物も含む。次年度以降、報告を行うとともに検討を加えたい。律令制下における熊野郡ではこれまで 7 点の土馬が知られており、都城を除くと府内でも土馬が多く出土する地域のひとつである。表採資料も多いため、詳しい年代や製作技術の地域性についてここで詳細に検討することはできないが、その背景に関しては今後議論が必要となろう。

以上のように、女布遺跡周辺では平成 26 年度からの継続的な調査によって、これまで不明とされてきた遺跡の実態が次第に明らかになりつつある。詳細な各時期の遺構・遺物の展開、あるいは旧地形に関する情報も得られつつあり、断片的な成果が多いものの、ある程度当遺跡における人間活動の痕跡を復元することが可能な状況である。これらの結果から考えると、女布遺跡の居住域は現在の集落域、ないし賣布神社近辺に存在した可能性が高いと考えられるが、遺跡地内の広い範囲で各時期の遺構・遺物が点在する状況も次第に明らかとなってきた。

今後これらの成果をもとに、女布遺跡とその周辺の動向を整理し、女布遺跡の実態を明らかにすることが望まれる。

（桐井理揮）

付表2 女布遺跡第7次調査出土遺物観察表

報告 番号	種別	器種・ 器形	出土地点 調査区	遺構等	層位・ 状況	法量 (cm)			残存率	胎土	色調	焼成	備考
						口径	器高	底径					
1	須恵器	杯蓋	6 tr	SP 2	1層	(134)	-	-	1/12以下	密	灰 (N6/)	良好	MT15 ~ TK10
2	須恵器	密蓋	6 tr	重機掘 削中		-	(20)	-	1/12以下	密	灰 (N5/)	良好	8世紀代
3	須恵器	蓋	6 tr	重機掘 削中		14.8	-	-	1/12	密	灰 (N5/)	良好	9世紀後半
4	須恵器	蓋	6 tr	包含層	5・6層	17.0	1.4	-	1/12	密	灰 (N5/)	良好	8世紀前半
5	黒色土器	碗・杯	6 tr	重機掘 削中		-	-	6.4	3/12	密	黒灰 (10YR4/1)	やや軟質	
6	須恵器	碗小	6 tr	重機掘 削中		-	-	6.4	3/12	密	灰 (N5/)	良好	7世紀代か
7	須恵器	杯	6 tr	重機掘 削中		-	-	9.2	2/12	密	灰白 (10YR8/1)	良好	杯B、8世紀代
8	須恵器	杯小瓶	6 tr	SP 2	1層	-	-	-	1/12以下	密	灰 (N5/)	良好	
9	須恵器	壺	6 tr	包含層	5・6層	-	-	-	1/12以下	やや密。径1～2 mm程の石英・長石 をわずかに含む	灰 (N6/)	良好	
10	土師器	壺	6 tr	包含層	5・6層	18.0	-	-	1/12	やや粗。径1mm程 の石英・長石・黒 色粒等5%含む	にぶい黄緑 (10YR7/2)	良好	
11	須恵器	長頸壺	6 tr	重機掘 削中		-	-	-	胴部 2/12	やや密。径1mm程 の石英・長石をわ ずかに含む	灰 (N5/)	良好	8世紀前半
12	弥生土器	壺小壺	地点A	包含層	黒色粘 質土	(16.1)	-	-	1/12以下	やや密。径1mm以 下の白・シャモツ トを5%程含む	にぶい黄緑 (10YR7/4)	良好	口縁部凹線文
13	弥生土器	壺	地点A		黒色粘 質土	-	-	-	1/12以下	やや密。径1mm以 下の白・シャモツ トを3%程含む	浅黄緑 (10YR8/3)	やや軟質	
14	弥生土器	壺小壺	地点A		黒色粘 質土	-	-	-	1/12以下	密。径1mm以下の 白色粒をわずかに 含む	にぶい黄緑 (10YR7/4)	良好	
15	弥生土器	鉢?	地点A		黒色粘 質土	-	-	-	1/12以下	やや粗。径1～2 mmの長石・黒色粒 を10%含む	外：黄緑 (7.5YR7/8)、内： 黒灰 (10YR6/1)	良好	口縁部凹線文
16	弥生土器	壺小水 差し	地点A		黒色粘 質土	-	-	-	把手のみ	粗。径1～4mmの 石英・長石を10% 含む	灰白 (10YR8/2)	良好	
17	弥生土器	壺	地点A		黒色粘 質土	-	-	5.3	3/12	やや粗。径1～3 mmの石英・長石を 5%含む	灰白 (10YR8/2)	良好	
18	弥生土器	壺	地点A		黒色粘 質土	-	-	10.0	1/12	やや粗。径1mm以 下の石英・長石を 5%含む	にぶい黄緑 (10YR7/4)	やや軟質	
19	弥生土器	高杯	地点A		黒色粘 質土	25.3	-	-	1.5/12	やや粗。径1～4 mmの石英・長石・ シャモツト等を 5%含む	外：浅黄緑 (10YR8/4)、内： 緑 (7.5YR7/6)	良好	
20	弥生土器	高杯	地点A		黒色粘 質土	20.2	-	-	2/12	やや密。径1mmの 石英・長石をわず かに含む	浅黄緑 (10YR8/3)	良好	
21	弥生土器	高杯	地点A		黒色粘 質土	18.9	-	-	2.5/12	やや密。径1～4mmの 石英・長石10%以 上含む	にぶい緑 (7.5YR7/4)	良好	

報告 番号	種別	器種・ 器形	出土地点 調査区	遺構等	層位・ 状況	法量 (cm)			残存率	胎土	色調	焼成	備考
						口径	器高	底径					
22	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		-	-	-	1/12	やや粗。径1～3 mmの石英・長石 10%含む	外：橙（5 Y6/8）、内：灰 黄緑（10YR5/2）	良好	
23	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		-	-	-	脚柱部： 12/12、 脚細部： 1/12	粗。径1～3mmの 石英・長石10%以 上含む	にぶい橙 （7.5YR7/4）	良好	
24	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		-	-	-	1/12以下	やや粗。径1～2 mmの石英・長石 10%含む	外：にぶい黄 橙（10YR6/3）、 内：浅黄橙 （10YR8/4）	良好	円形透孔
25	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		90	-	-	15/12	やや粗。径1～2 mmの石英・長石 10%含む	外：橙 （7.5YR7/6） 内：浅黄橙 （10YR8/4）	良好	
26	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		-	-	-	1/12以下	やや粗。径1mm程 の石英・長石・黒 色粒等5%含む	にぶい黄橙 （10YR7/4）	やや軟質	
27	弥生土器	高杯	地点A	黒色粘 質土		125	-	-	1/12	やや密。径1～3 mm程の石英・長石 をわずかに含む	橙（7.5YR7/6）	良好	
28	須恵器	杯蓋	地点D	重機掘 削中		（122）	-	-	1/12以下	粗。径1mm程の石 英・長石を多量に 含む	灰白（10YR7/1）	やや軟質	飛鳥Ⅱ
29	須恵器	瓶	地点D	重機掘 削中		97	-	-	1/12	密	灰白（2.5Y7/1）	良好	飛鳥Ⅱ

(注)

- (1) 安井良三 1953「丹後熊野郡に於ける彌生式遺跡—佐濃谷川流域—」（『史想』第2號 紫野史学会）
- (2) 田中彰太 2013「京都府佐濃谷川流域の遺跡再考—久美浜町における古墳再考—」（『同志社考古』第13号 同志社大学考古学研究会）
- (3) 京都府教育委員会 1993「3、国営農地開発事業関係遺跡平成4年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報（1993）』
- (4) 京丹後市教育委員会 2013「女布遺跡発掘調査報告書（京都府京丹後市文化財調査報告書第9集）」
- (5) 京丹後市教育委員会 2016「女布遺跡発掘調査報告書Ⅱ（京都府京丹後市文化財調査報告書第13集）」
- (6) 京都府教育委員会 2017「女布遺跡第4次調査」『京都府埋蔵文化財調査報告書（平成28年度）』
- (7) 京丹後市教育委員会 2017「女布遺跡発掘調査報告書Ⅲ（京都府京丹後市文化財調査報告書第15集）」
- (8) 京丹後市史編さん委員会 2010「京丹後市史資料編 京丹後市の考古資料」
- (9) 竹原一彦 1981「丹後における黒色土器について」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- (10) 高野陽子 2001「北近畿における弥生時代後期前半期の土器とその時間列」『京都府埋蔵文化財論集』第4集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- (11) 財団法人京都府埋蔵文化財調査センター 1989「(5)鳥取城跡」『京都府遺跡調査概報』第34冊

3 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡 平成 28・29 年度発掘調査報告

亀岡市の中央を流れる桂川（大堰川）の右岸で、近畿農政局による国営緊急農地再編整備事業が計画された。対象となったのは、亀岡市千代川町、大井町、本梅町、曾我部町、余部町、穂田野町、追分町にまたがる農地等である。

事業対象地では、多くの埋蔵文化財が調査対象となることが予想されたことから、近畿農政局、京都府、京都府教育委員会、亀岡市、亀岡市教育委員会の間で協議を重ねた。その結果、切土施行等によりやむを得ず埋蔵文化財が影響を受ける部分について、記録保存を前提とした発掘調査を実施することで合意に達している。

平成 27 年 2 月 12 日付けで近畿農政局長、京都府知事、亀岡市長の 3 者間において「国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」を交換した。今年度は、この覚書に基づき、平成 29 年 4 月 3 日付けで近畿農政局長、京都府教育委員会教育長、亀岡市長の 3 者間において「平成 29 年度国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する協定書」を締結した上で、京都府教育委員会、亀岡市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの 3 機関において発掘調査を分担して実施することとなった。

近畿農政局と土地所有者の皆様には、京都府の歴史理解の上で重要な遺跡について御理解と御協力をいただいたことについて感謝申し上げます。

調査組織及び調査機関は以下のとおりである。現地調査及び整理作業に当たっては、関係機関をはじめ、多数の方々のご協力を得た。心より感謝したい。

《調査組織》

平成 28 年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部理事 文化財保護課長事務取扱 磯野浩光

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎善久

主 査 奈良康正

主 任 中居和志

技 師 桐井理揮

平成 29 年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部理事 文化財保護課長事務取扱 磯野浩光

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎善久

主 査 奈良康正

副主査 中居和志

技 師 桐井理揮

技 師 北山大照

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 亀岡市教育委員会、亀岡市産業観光部農地整備課、亀岡市千代川町自治会、千代川町営ほ場整備推進協議会、近畿農政局、京都府農林水産部農村振興課、京都府南丹広域振興局、京都府南丹教育局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

付表 3 各機関が実施した調査

1 京都府教育委員会が実施した調査

遺跡名	所在地	現地調査期間
千代川遺跡（第 29 次）	亀岡市千代川町地内	平成 28 年 8 月 22 日～平成 29 年 2 月 28 日
千代川遺跡（第 31 次）	亀岡市千代川町地内	平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 14 日

2 その他機関が実施した調査

遺跡名	所在地	調査機関
井手遺跡（第 4 次）	亀岡市本梅町西加舎地内	亀岡市教育委員会
佐伯遺跡（第 10 次）	亀岡市禰田野町佐伯地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

今回報告する千代川遺跡第 29 次調査、第 31 次調査は、亀岡市千代川町の千々川以北において実施した調査である。次年度以降のほ場整備事業に伴う工事に先立ち、第 29 次調査では 32 の調査区を設定した。うち 1 箇所は 391㎡の面調査区（第 1 トレンチ）であり、31 箇所は 3m 四方のグリッド調査区（第 2～32 トレンチ）である。調査期間は平成 28 年 8 月 22 日から平成 29 年 2 月 28 日で、平成 29 年度に整理等作業を実施した。本報告では平成 28 年度の調査の中で、整理等作業が完了したグリッド調査区の成果について報告を行う。第 31 次調査では 3m 四方のグリッド調査区を 100 か所に設定し、調査を行った。調査期間は平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 14 日である。

平成 28 年度に実施した第 29 次調査の面調査区及び本年度に実施した第 31 次調査の成果は、現在整理作業中であるため概略のみを報告することとし、次年度以降に整理作業が完了した段階で報告する予定である。

（桐井理揮）

付表4 千代川遺跡発掘調査履歴一覧

年度	回数	調査機関	原因	主な成果	文献
昭55	1	府教委	9号バイパス	国府推定城南西部の調査	府埋概(1981-2)
昭56	2	府理七	9号バイパス	弥生～古墳時代の掘立柱建物5棟、古代の掘立柱建物5棟	府埋概第1冊
昭57・58	3	府理七	日吉ダム関係	古墳時代前期の集落	府埋概第12冊
昭58	4	府理七	丹波養護学校	奈良～平安の遺構確認	府埋概第10冊
昭58	5	府理七	9号バイパス	弥生後期～古墳時代前期の集落、古代の掘立柱建物	府埋概第11冊
昭58	6	府理七	府道拡幅	弥生時代の方形周溝墓、桑寺庵寺関連の遺構確認	府埋概第14冊
昭59	7	府理七	府道拡幅	弥生時代の水田域	
昭59	8	府理七	丹波養護学校	古代の掘立柱建物	
昭60	9	府理七	9号バイパス	古代の掘立柱建物ほか	府埋概第16冊
昭61	10	府理七	9号バイパス		
昭62	11	市教委	日吉ダム関係	縄文時代溝3条	亀市報第15集
昭62	12	府理七	9号バイパス	古代の掘立柱建物ほか	府埋概第16冊
昭63	13	府理七	9号バイパス		
平元	14	府理七	9号バイパス		
平2	15	府理七	9号バイパス		
平2	16	府理七	府道拡幅	多くの縄文土器(中期)、古代の掘立柱建物	府埋概第44冊
平4	17	市教委	市道拡幅	古代から中世の小柱穴	-
平6	18	市教委	範囲確認	古墳時代の堅穴建物、南北方向の溝	亀市報第30集
平6	19	市教委	範囲確認	古墳時代の堅穴建物1棟、古墳時代?の掘立柱建物1棟、古代の国府関連と思われる南北溝3条、中世?の掘立柱建物3棟	亀市報第33集
平7	20	府理七	千々川改修	中世掘溝	府埋概第72冊
平7	21	市教委	範囲確認	弥生時代の方形周溝墓1基、古墳時代の堅穴建物1棟、奈良時代の掘立柱建物2棟	亀市報第37集
平8	22	市教委	NTT千代川別館	古墳時代の堅穴建物3棟	亀市報第40集
平8	23	市教委	範囲確認	弥生時代方形周溝墓2基、古墳時代の堅穴建物1棟、奈良時代掘立柱建物3棟(清草・千原ヶ前)	亀市報第39集
平9	24	市教委	範囲確認	弥生時代の方形周溝墓1基、古代の掘立柱建物2棟	亀市報第47集
平10	25	市教委	範囲確認	弥生時代の方形周溝墓、瓦・墨書土器5点	亀市報第50集
平11	26	市教委	範囲確認	弥生時代中期の堅穴住居1棟、方形周溝墓1基、古墳時代の溝、土坑など、灰輪陶器を埋納した地鎮?遺構	亀市報第55集
平25	27	市教委	ほ場整備	グリッド調査	亀市報第85集
平27	28	府教委	ほ場整備	グリッド調査	府報平27・28
平28	29	府教委	ほ場整備	平安時代の掘立柱建物2棟、中世の南北溝など	府報平28・本報告
平28	30	市教委	ほ場整備	古墳時代～古代の溝など、墨書土器出土	亀市報第93集
平29	31	府教委	ほ場整備	グリッド調査	本報告
平29	32	市教委	個人住宅	試掘調査	今年度実施

※調査機関：府教委…京都府教育委員会、府理七…公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、市教委…亀岡市教育委員会

※文献：府埋概…京都府埋蔵文化財調査概報、府報…京都府埋蔵文化財調査報告書、府道概…京都府道跡調査概報、亀市報…亀岡市文化財調査報告書

1 位置と環境

（1）地理的環境

亀岡市は、京都府のほぼ中央に位置し、北は南丹市、東は京都市、南は大阪府高槻市・茨木市、西は大阪府豊能郡に接している。面積は約2249㎡で、東西約24.6km、南北約20.5kmの広さをもつ。北東部に若丹山地、南西部を摂丹山地の両山地に囲まれて、中央部に亀岡盆地が広がっている。これらの山地は丹波帯と呼ばれ、泥質岩、砂岩、チャートを主とした堆積岩で、一部に石灰岩を含んでいる。盆地内には多数の断層が存在し、現在の亀岡市の地勢に大きく影響している。特に亀岡断層、神吉・越畑断層、猪倉断層、埴生断層など西北から東南に弓なりに曲がって形成された断層が多く、さまざまな地点で断層崖を確認することができる。それらの断層に沿うように桂川水系の大堰川が流れ、兩岸に河岸段丘が発達している。大堰川は淀川の支流であり、京都盆地を経て大阪湾へと注ぐ。盆地内では大堰川に直交するように北東から南西方向に流れる大小の支流が複数存在し、河岸段丘を形成している。このような地理的環境によって亀岡盆地内は山麓の傾斜面から大堰川に向かって断層崖と扇状地、平坦な河岸段丘というように階段状の地形をなす。

調査地である千代川町は亀岡市の北部、大堰川西岸に位置し、南丹市に隣接している。西側には行者山（標高431m）、南丹市八木町の境界にあたる城山（標高330m）が控える。山麓斜面には扇状地が広がり、千々川などによって段丘状をなしている。亀岡市の最低所（大堰川保津橋地先三角点）が標高約90mであり、千代川遺跡から南東部に向かって徐々に標高が低くなる。

（北山大照）

（2）歴史的環境

千代川遺跡は亀岡盆地の北端の千代川町に位置する、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代中期以前の遺構は未検出であるが、有舌尖頭器や縄文時代早期の押型土器が出土しており、亀岡盆地の中では最も古くから継続している遺跡の一つである。また、第16次調査では縄文時代中期末から後期前半、第11次調査では晩期の凸帯文期の土器がまとまって得られており、今後近隣の調査ではこれらの時期の居住域が検出されることも期待される。特に第11次調査では凸帯文土器と少量の弥生時代前期の土器が出土しており、亀岡盆地における弥生文化の成立を考える上では貴重な成果であるといえよう。弥生時代の遺構の広がりは不明瞭な点が多く残るが、現在の府道73号線付近の調査では畿内第Ⅳ様式並行期の方形周溝墓、住居跡等が確認されており、この付近の微高地上に集落が形成されていたものと考えられる。弥生時代後期から古墳時代にかけての遺構も、千原・拝田地区を中心に遺跡地内の広い範囲で確認され、古墳時代前期の堅穴建物等が検出されている。千代川遺跡では、縄文時代以降、地点を変えながらも継続的に土地利用が行われたことをうかがうことができる。

古代の律令制下では、亀岡盆地は丹波国のうち桑田郡にほぼ相当する。千代川遺跡の範囲内にその存在が想定されている桑寺廃寺は、郡名を冠する「桑田寺」が転訛したものと考えられる説があり、古くから注目されてきた。しかし、過去の調査では西端の基壇状の高まりと東端の柵列の可能性がある遺

構が検出されたのみで、その詳細は明らかではない。ただし、出土した多くの瓦は素弁蓮花文をもち、丹波地域でも最古級のものとして評価することができ、白鳳期に付近に寺院等の何らかの施設が存在した可能性は高い。また、千代川町内には「国司牧」「国主ヶ森」「大門」「学堂」などの国府に関連すると考えられる小字が存在することや、正方位の地割がみられることなどから、木下良氏らによって古代における丹波国府の有力候補とされてきた。丹波国府の所在地については千代川遺跡のほかにも大堰川東岸の池尻遺跡や南丹市の屋賀とする考えもあり、未だ意見の一致をみておらず、今後の調査研究が期待される。

中世以降の千代川遺跡周辺は、これまでの調査では耕作に伴う溝や柱穴等が多数検出され、遺物包含層も広い範囲で確認されているものの、集落の実態は明らかではない。丹波国府も12世紀には大堰川東岸に移動したという説が定説となっており、相対的に遺物の密度は低くなったと考えられる。近世以降には遺跡の東端には南北方向に近世山陰街道が、北端には東西方向に愛宕道が通り、おおよそ現在の景観が形成されたと考えられる。遺跡の北側の山麓斜面に位置する小松寺は、寺伝では平重盛の寵臣がその引いて養和元（1181）年に観音堂を建立したことに始まるとされており、境内には街道沿いに設置されていた高卒塔婆が移設されている。

次に、千代川遺跡が位置している大堰川流域を中心に、⁽¹⁾ 亀岡盆地の遺跡を概観する。

縄文時代では早期の押型土器とされる土器片が千代川遺跡や南条遺跡などで得られているものの、中期以前の遺構が検出された遺跡数はいまだ寡少である。遺跡数の増加をうかがうことができるのは縄文時代後期以降であり、とくに凸帯土器は千代川遺跡湯井地区、北金岐遺跡などでややまとまって出土している。北金岐遺跡では、出土土器の6割近くが角閃石を多量に含むいわゆる生駒西麓産胎土とされるもので占められ、当該期の地域間交流を考える上で重要な資料である。

弥生時代前期の集落として太田遺跡が挙げられる。太田遺跡では全長約40m、幅約2～4mの環濠が検出され、東西130m、南北100mの範囲が数条の環濠で囲まれた環濠集落であったと推定される。環濠内外に形成された土坑、方形周溝墓あるいは環濠内からは多量の土器、石器、木器などが出土した。出土土器には東海系土器や無文土器系土器も出土しており、広範囲に及ぶ交流があったことを示唆している。太田遺跡はⅢ様式以降には継続せず、Ⅲ様式以降には盆地内の広い範囲で大規模な集落が形成されるようになる。千代川遺跡の約2.5km南東に位置する余部遺跡^{あまのべ}では、竪穴建物、方形周溝墓などが検出され、玉作り関連遺物も出土した。南丹地域では数少ない弥生時代の玉作りを行った集落であり、中期中葉における大堰川西岸の中心的な遺跡である。

古墳時代になると、有力な前期古墳は盆地東南部に多くみられ、中期以降には大堰川東岸に比較的大型の前方後円墳が築造されるようになる。亀岡盆地ではこれまで前期の前方後円墳は未発見であるが、園部盆地^{そのべかいち}では園部垣内古墳^{そのなかわて}や中暖古墳が継続して築造されており、この時期の南丹地域の中心は園部盆地にあったと考えられる。中期以降には亀岡盆地でも保津車塚古墳や千歳車塚古墳など大型の前方後円墳が築造される。坊主塚古墳は一辺38mの中規模の方墳ながら、鉄製武器類を中心に豊富な副葬品が出土した。大堰川西岸で古墳の築造が盛んになるのは古墳時代中期末以降であり、中小規模の群集墳が多数確認されている。200基以上の古墳からなり、府内最大の群集墳とされる小金岐古

墳群や大堰川西岸最大の前方後円墳である拝田 16 号墳を擁する拝田古墳群、あるいはウイリアム・ガウランドによって調査された鹿谷古墳群など、石室に石棚や石障を伴う特異な古墳が多くみられ、当地域の古墳文化の特徴の一つとなっている。集落遺跡も中期から後期において多く存在し、100 棟を超える堅穴建物が検出された鹿谷遺跡をはじめ、余部遺跡などを挙げることができる。

古代の亀岡盆地内では、先述の桑寺廃寺をはじめ複数の古代寺院の存在が知られており、大堰川西岸でも野寺廃寺や興能廃寺を挙げることができるが、古代における大堰川西岸の様相については不明瞭な点が多い。他方、大堰川東岸では国営農地整備再編整備事業や丹波国分寺跡・国分尼寺跡の範囲確認調査が行われ、その実態がある程度判明している。池尻廃寺では奈良時代後半の瓦積基壇や礎石建物が検出され、寺院あるいは官衙的な施設の存在が想定されるが、平安時代初頭には廃絶したとされる。池尻廃寺の約 2.5km 南東では奈良時代中頃に国分寺・国分尼寺が造営された。丹波国分寺跡では約 220 m 四方の寺域が復元され、三彩火舎等の鎮壇具が出土したほか梵鐘製造遺構も検出され、国史跡に指定されている。

池尻遺跡、時塚遺跡、車塚遺跡では奈良・平安時代の大型掘立柱建物が多数検出されており、池尻廃寺、丹波国分寺・国分尼寺の建立に伴い地域の開発が大きく進展したと評価されている。生産遺跡としては、国分寺・国分尼寺の創建瓦が焼成された三日市遺跡や、盆地東南部の篠窟跡群を挙げることができる。7 世紀に操業を開始した篠窟跡群は 9～10 世紀には最盛期を迎え、篠窟産の須恵器及び緑釉陶器は、平安京を中心に宮城県多賀城跡から宮城県小山尻東遺跡までの広域で確認されている。

中世の遺構は大堰川西岸の広い範囲で検出されている。国道 9 号バイパス建設工事に伴い調査が行われた北金岐遺跡や太田遺跡では、多数の掘立柱建物、井戸等が見つかり、中世に継続的に利用されたことが判明している。これらの遺跡から出土した瓦器碗は「丹波型瓦器碗」と呼称されるものであり、当地域の中世土器の編年の基準資料となっている。

室町時代以降には市内北部・西部を中心に山城が多く築造された。千代川遺跡の北側の城山にある八木城跡は丹波守護代内藤氏の拠点として機能しており、その規模は畿内でも最大級を誇る。その後、丹波平定の命を受けた明智光秀によって拡張・整備された。明智光秀の丹波平定以降、丹波の拠点は八木城から亀山城へと移ることとなる。江戸時代には岡部長盛が丹波亀山藩主として封じられ、「天下普請」によって近世城郭として亀山城を大改修し、現在の亀岡市街の礎が築かれた。

このように千代川遺跡周辺は縄文時代以降継続的に利用され、とくに古代においては寺院や官衙の存在が想定されるなど、丹波地域の中核地として機能してきたといえる。したがって、こうした環境の中にあつた当遺跡は地域の歴史を語る上では欠くことのできない重要な遺跡である。

（桐井理揮・北山大照）

[1] 平成 28 年度の調査（千代川遺跡第 29 次調査）

1 調査の概要

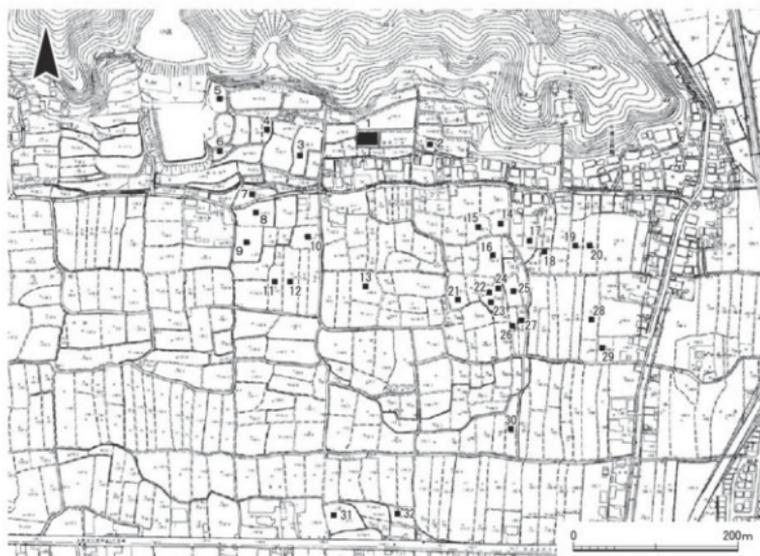
今回報告する第 29 次調査は、千代川町千原の範囲内において実施した。来年度以降のほ場整備事業に伴う工事に先立ち、ほ場整備工事の切土が遺構面まで達することが確実な地点について 391m²の面的な発掘調査（第 1 トレンチ）を行った。さらに、遺構の有無と遺構面までの深さを確認するためのグリッド調査区（第 2～32 トレンチ）を 31 箇所を設定した。調査期間は平成 28 年 8 月 22 日から平成 29 年 2 月 28 日までである。また、平成 29 年 1 月 26 日には第 1 トレンチの調査成果について一般向けの現地説明会を開催し、61 名の参加を得た。

調査期間や整理期間等の関係から、面的調査を行った第 1 トレンチの詳細に関しては概要のみを報告することとし、主にグリッド調査区の報告を行う。

（1）第 1 トレンチの調査

南北約 16 m、東西約 25 m の調査区を設け、表土を重機で除去した後、床土以下を人力にて掘削し、遺構面の検出を進めた。

表土直下では、近世の素掘りの井戸や柱穴、耕作に伴う溝等を検出した。第 2 面は中世の遺構面で



第 21 図 平成 28 年度 千代川遺跡第 29 次調査トレンチ配置図（1/6,000）

あり、12～15世紀代を中心とする多数の柱穴、幅約1mの南北方向の溝などを検出した。

第3面では平安時代と推定できる方形掘方をもつ掘立柱建物2棟(2×3間、3以上×2間)を検出した。この成果によって、木下良による国府推定地より北側にも、平安時代の遺構が展開していることが明らかとなった。また、この面では平安時代以前の遺構として、調査区中央で時期不明の円形土坑と流路跡を検出した。遺物は、弥生時代から中世にかけての土器などが出土した。

(桐井理揮)

(2) 第2～32 トレンチの調査

グリッド調査では、調査の同意の得られた耕作地に、1辺3m四方の調査区をそれぞれ1～2箇所設定して行った。耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力にて掘削し、遺構面の検出を進めた。調査地は来年度以降の作付けを行うため、床土以下に遺構面が確認できない場合、埋戻しを考慮して調査区全面の掘り下げは行わず、約30cm幅の断割を実施してさらなる下位の遺構面の有無や層序の把握に努めた。各調査区からは、溝や柱穴などを検出しており、弥生時代から中世にかけての遺物が出土する包含層を多くの調査区で確認した。一方、埋没谷と考えられる地点や、表土直下で地山が検出され、すでに包含層や遺構面が削平されていると考えられる地点もある。出土遺物及び検出遺構等

付表5 第29次調査グリッド調査概要

トレンチ番号	小字	主な検出遺構	出土遺物						備考
			弥生土器	土師器	須恵器	輪軸陶器	瓦器	陶磁器	
2	東斉ノ本	ビット、土坑、素掘溝	●						
3	西斉ノ本	ビット、柱穴		●	●		●	●	柱穴は古代か
4	西斉ノ本	ビット、素掘溝		●	●				
5	西斉ノ本	ビット、柱穴				緑釉	●	●	チャート製石器
6	西斉ノ本	柱穴		●	●		●		古代瓦
7	西斉ノ本								表土直下で地山検出。
8	大門	土坑、素掘溝		●				●	
9	大門	土坑、素掘溝		●	●				
10	大門						●	●	湧水のため遺構検出不能
11	大門	素掘溝		●	●	緑釉	●	●	
12	大門	素掘溝		●	●		●	●	
13	学堂			●	●			●	湧水のため遺構検出不能
14	大門	ビット、土坑、素掘溝		●	●		●	●	
15	大門	ビット、素掘溝		●	●		●	●	不明鉄器
16	大門	ビット、素掘溝	●	●	●		●		
17	大門	素掘溝	●	●	●		●	●	
18	大門	ビット		●	●		●	●	布留形変
19	大門			●	●		●	●	顕著な遺構なし
20	大門			●	●	灰釉	●		チャート製石器
21	学堂			●	●		●		顕著な遺構なし
22	学堂	土坑		●	●		●	●	土坑中より土器器皿出土
23	学堂	土坑	●	●	●		●	●	
24	学堂	ビット		●	●				
25	学堂			●	●			●	顕著な遺構なし
26	学堂	ビット、土坑		●	●		●	●	
27	学堂	ビット、素掘溝		●	●		●	●	
28	学堂	素掘溝		●	●		●	●	
29	学堂		●	●	●		●	●	顕著な遺構なし
30	清草		●	●	●				顕著な遺構なし
31	千原ヶ前	素掘溝	●	●	●		●		布留形変
32	千原ヶ前	素掘溝	●	●	●		●		布留形変、鉄釘

の概要は付表5に示すとおりである。

以下、顕著な遺構を確認した調査区を中心に調査の概要を報告する。

第2トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、黒褐色を呈する遺構面（第6層）を検出した。この面では径20～30cmのピット13基、径約80cmの円形の土坑、南北方向の溝を検出した。第6層以下は面的な掘削は行っていないが、調査区南辺の断削によって断面観察を行った結果、第8層を切り込むように径40cmのピットが切り込んでいることが判明した。埋土の状況から、古代以前の遺構である可能性が高い。

第3トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、地表下0.2mの地点で近世の造成土を確認した。さらに平面的に掘り下げた所、北半分では黒ボク層（第8層）を検出した。黒ボク層を切り込むように5基のピットを検出したが、これらのピットの埋土は第3層と同一のものである。その後、北端で断削を行ったところ、断面で1辺50cmの方形堀方をもつ柱穴（SP290301）を確認した。

第5トレンチ 今回の調査では最高所に設定した調査区である。第2・3層は遺物をほとんど含まない均質な砂層であり、0.4m程堆積している。第4層の上面でピット4基、方形の掘方をもつ柱穴SP290501を1基検出した。遺構埋土（第5層）は黒色粘質土であり、第1トレンチの調査の状況等から考えて、古代の遺構である可能性が高いと考えられる。4層の直上で緑釉陶器（第27図16・17）が出土した。

第6トレンチ 表土を除去したところ、南側で自然流路状の砂質土を検出した。その下層の6層からは、方形掘方を持つ柱穴と考えられる土坑、溝を検出した。また、表土掘削中に古代のものと考えられる、軟質でタキ成形の瓦片が出土した。

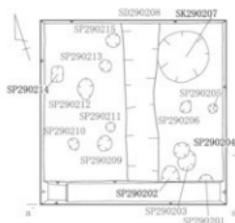
第9トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、自然流路状の灰オリーブ色の砂質土（第3層）を検出した。その下層からは、中世から近世にかけての耕作に伴う溝、時期不明の円形の土坑を検出した。これらの遺構は黒ボク土（5層）から切り込んでいる。調査区南側に設定した断削で土層の堆積を観察した結果、この黒ボク層は0.3m以上あり、西から東へ傾斜するように堆積していることを確認した。

第12トレンチ 表土を除去したところ、中世から近世にかけての耕作に伴う溝を検出した。調査区の北側に断削を設定し、土層を確認したところ、表土下0.2mで古代の遺物を含む黒ボク層（第5層）に達することが判明した。しかし、湧水が激しく、中世以前の遺構の有無を確認することはできなかった。

第14トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、灰オリーブ色極細砂の地山（第7層）を検出した。地山検出面からは複数の溝、小柱穴、土坑を検出した。土坑SK291403は、備前焼播鉢片が出土した中世の遺構である。小柱穴は、出土遺物はないが埋土の状況からSK291403に近い時期の遺構が多いと判断できる。溝SD291411は、調査区の東半を占める南北方向の溝である。東端を確定するために調査区を拡張したが、暗渠のため東端は確定できなかった。

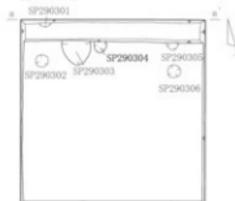
第15トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、黒褐色粗砂の地山（第6層）を検出した。この地山は砂質が多いことから自然流路に由来する可能性がある。地山検出面からは中世以降の素掘溝の

第2トレンチ



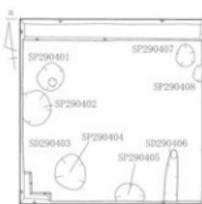
1. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂～中砂【表土】
2. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 極細砂～細砂
3. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細砂～細砂、粘性やや強
4. 黒褐色 (10YR3/2) 極細砂～細砂、粘性やや強
5. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細砂～細砂、黒色ブロック含む、粘性やや強
6. 黒褐色 (10YR3/1) 極細砂～細砂、径1mm程の白色粒含む、粘性中、しまり強
7. 黒色 (10Y2/1) 極細砂、径1mm程の白色粒含む、粘性・しまり強
8. 黒褐色 (2.5Y3/1) 極細砂、しまり強
9. オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト～極細砂、しまり強【地山】

第3トレンチ



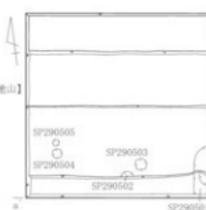
1. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂～中砂【表土】
2. 灰オリーブ褐色 (2.5Y3/2) 細砂、砂質土、しまりやや弱、マンガンド含む
3. 暗灰褐色 (2.5Y5/2) 細砂、砂質土
4. 灰黄褐色～黒褐色 (10YR4～3/2) 極細砂～細砂
5. 暗灰黄色 (2.5YR4/2) 細砂～細砂、粘性・しまりやや弱【SP290301】
6. 褐色～黒褐色 (10YR4～2/1) 細砂～粗砂、粘性弱、しまりやや弱【SP290301】
7. 黒色 (10YR1.7/1) 極細砂～細砂、灰黄～黒褐色ブロック含む
粘性強、しまりやや強【SP290301】
8. 黒褐色 (10YR2/2) 極細砂～細砂、粘性強、しまり強
9. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂、砂質土、粘性強、しまり弱

第4トレンチ



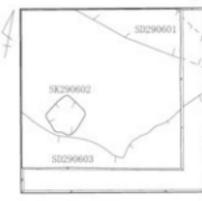
1. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 極細砂～細砂
しまりやや弱【表土】
2. 黒褐色～黒色 (2.5Y3～2/1) シルト～細砂、しまりやや強【地山】
3. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト～細砂【地山】

第5トレンチ



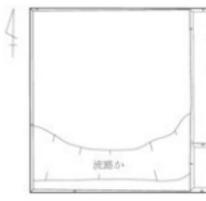
1. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 極細砂～細砂【表土】
2. 暗灰黄 (10YR4/2) 細砂～粗砂、粘性弱
3. 黒色 (10YR4/2) 細砂～粗砂、粘性やや弱
4. 黒～黒褐色 (10YR2/1～2) 極細砂～細砂、しまりやや強
5. 黒 (10YR1.7/1) 極細砂
粘質土【SP290501】
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細砂【地山】

第6トレンチ



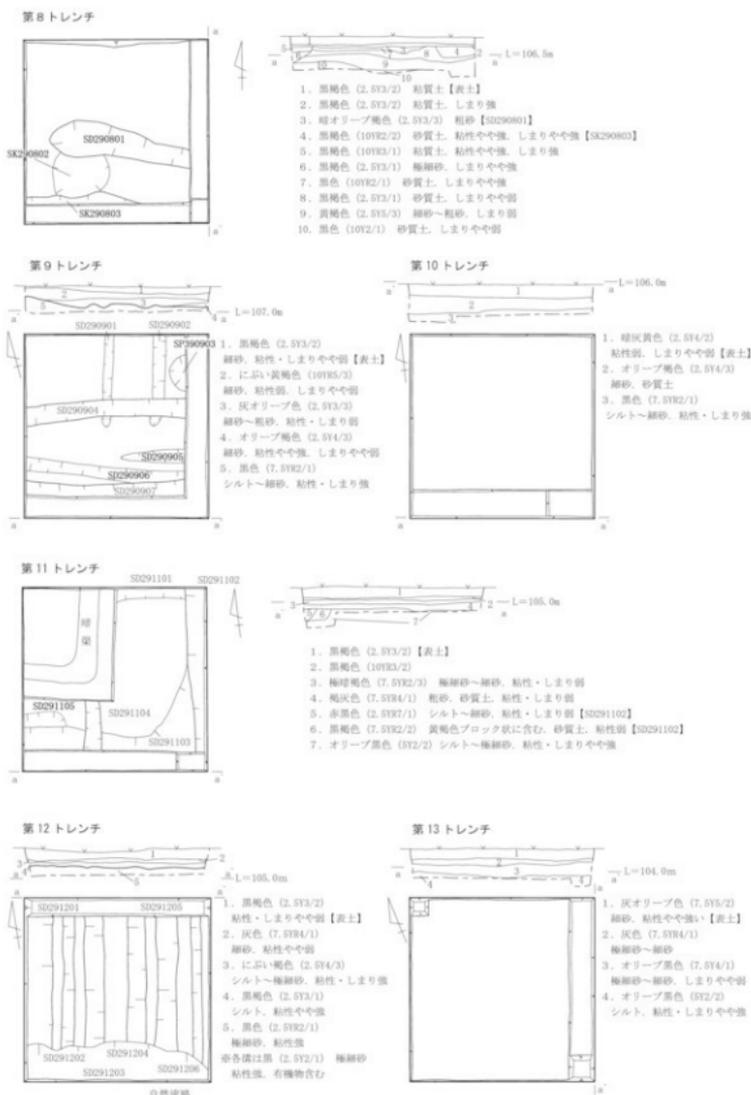
1. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 極細砂～細砂【表土】
2. 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土【造成土】
3. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細砂、粘質土
4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細砂～細砂、しまりやや弱
5. 黒色 (10YR2/1) 細砂、粘質土【SK290601】
6. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂、しまりやや強【地山】

第7トレンチ

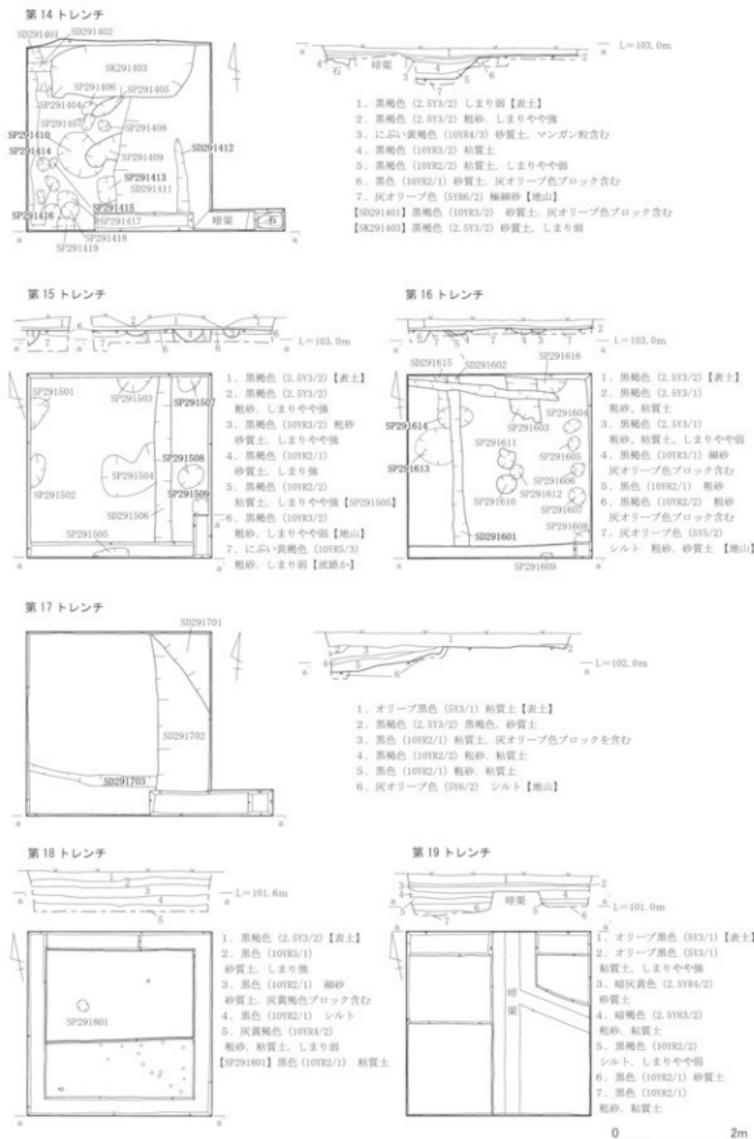


1. 灰オリーブ色 (5YR4/2) 極細砂～細砂【表土】
2. オリーブ色 (5Y3/4) 粗砂、しまり弱【泥濘小】
3. 浅灰色 (5Y7/3) シルト

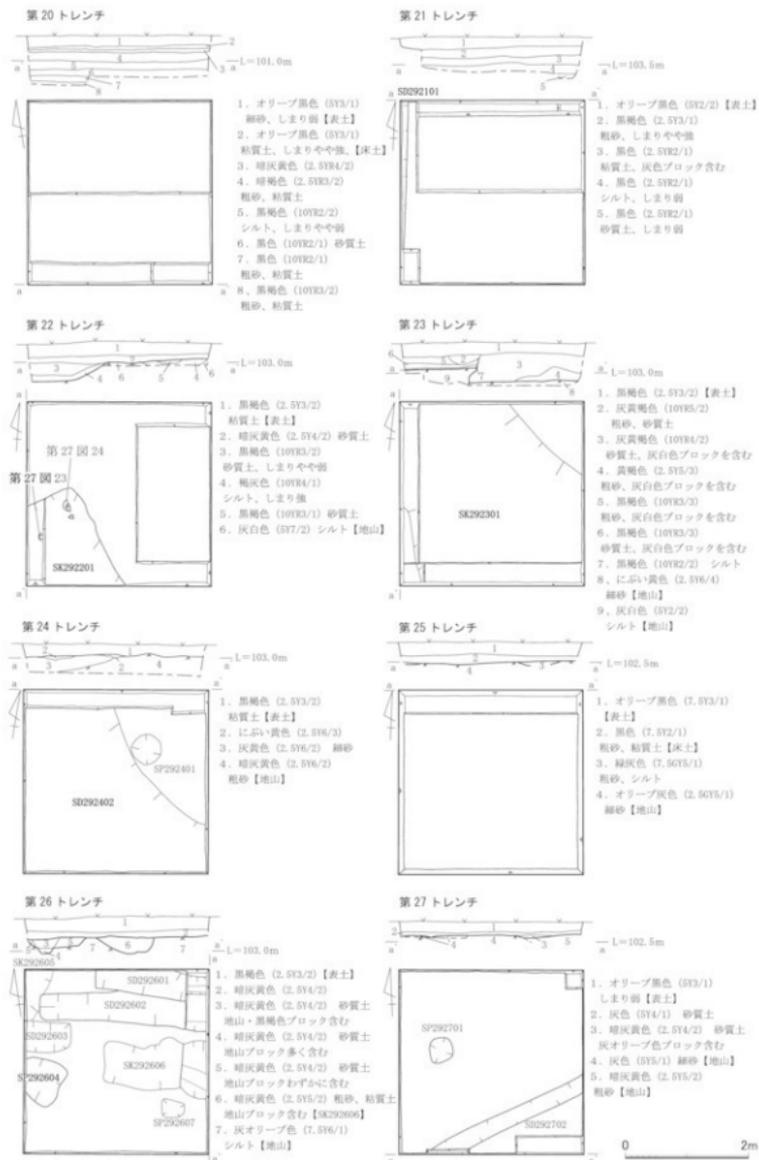
第22図 第29次調査 第2～7トレンチ平面・土層断面図 (1/80)



第23図 第29次調査 第8～13トレンチ平面・土層断面図 (1/80)

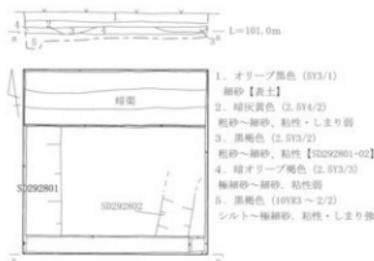


第24図 第29次調査 第14～19トレンチ平面・土層断面図 (1/80)

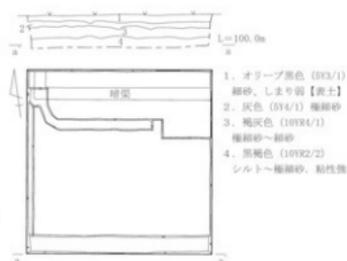


第 25 図 第 29 次調査 第 20～27 トレンチ平面・土層断面図 (1/80)

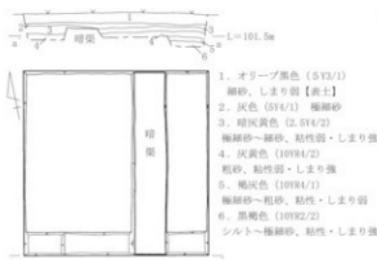
第28トレンチ



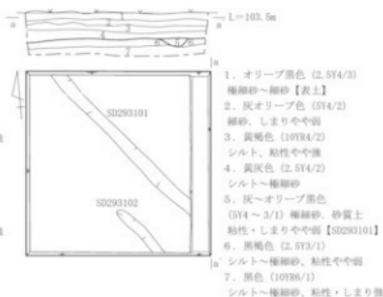
第29トレンチ



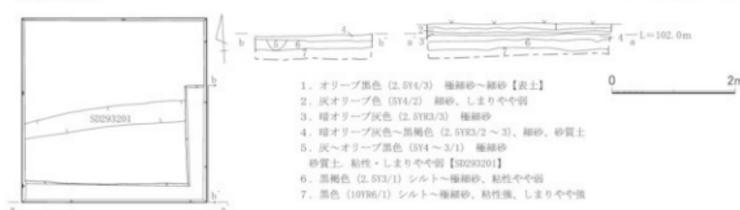
第30トレンチ



第31トレンチ



第32トレンチ



第26図 第29次調査 第28～32トレンチ平面・土層断面図 (1/80)

ほか複数の柱穴を検出した。柱穴の時期は不明だが、S P 291507・291508・291502などは主軸方向が正方位の掘立柱建物となる可能性がある。

第16トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、灰オリーブ色シルトの地山(第7層)を検出した。地山検出面からは複数の溝、小柱穴を検出した。これらの遺構の時期の詳細は不明だが、検出時の出土遺物から中世と考える。

第17トレンチ 表土を除去したところ、灰オリーブ色シルトの地山(第6層)を検出した。地山検出面からは南北方向の溝ないし落ち込みS X 291702を検出した。東端を確定するために調査区を拡張したが立ち上がりは確認できず、溝か落ち込みかの確定はできなかった。S X 291702に明確に伴う遺物はないが、検出面では古代の須恵器・土師器が出土しており、この時期に属する可能性がある。

第22トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、灰白色シルトの地山（第6層）を検出した。地山検出面からは土坑S K 292201を検出した。土坑検出面から第27図24、土坑の底部から第27図23が出土した。出土遺物から、S K 292201の時期は15世紀後半と判断できる。

第23トレンチ 表土を除去したところ、調査区の大半を占める土坑S K 292301を検出した。S K 292301の掘方断面形状は、上方がせり出す。格子目タタキをもつ須恵器製の体部片が出土した。

第24トレンチ 表土を除去したところ、暗灰黄色粗砂の地山（第4層）を検出した。地山検出面からは柱穴S P 2924011、溝S D292402を検出した。S D292402は堆積状況から流水があったことがわかる。出土遺物はなく時期は不明である。

第25トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、地表面下36cmでオリーブ灰色細砂（第4層）の地山を検出した。遺構は確認できないが、地山上にわずかに包含層が存在している。

第26トレンチ 表土を除去したところ、灰オリーブ色シルトの地山（第7層）を検出した。地山検出面からは複数の溝、土坑、小柱穴を検出した。これらの遺構からは須恵器・陶器の小片が出土したが、遺構の帰属時期は明らかではない。

第27トレンチ 表土及び第2層を除去したところ、灰オリーブ色シルトの地山（第4・5層）を検出した。地山検出面からは柱穴を検出した。いずれの遺構からも出土遺物はなく、時期は不明である。

第31トレンチ 第4層は須恵器や瓦器等を多量に包含する古代から中世にかけての包含層である。黒ボク土（第6層）上面まで掘削したところ、北に対して西に45°振った主軸を持つ溝を2条検出した。この黒ボク土掘削中に弥生土器・古式土師器が出土した。

第32トレンチ 第4層は須恵器や瓦器等を多量に包含する古代から中世にかけての包含層である。黒ボク土（第6層）上面まで掘削したところ、ほぼ東西方向に主軸を持つ溝を検出した。この黒ボク土掘削中に古式土師器が出土した。

（桐井理揮・中居和志）

（3）出土遺物

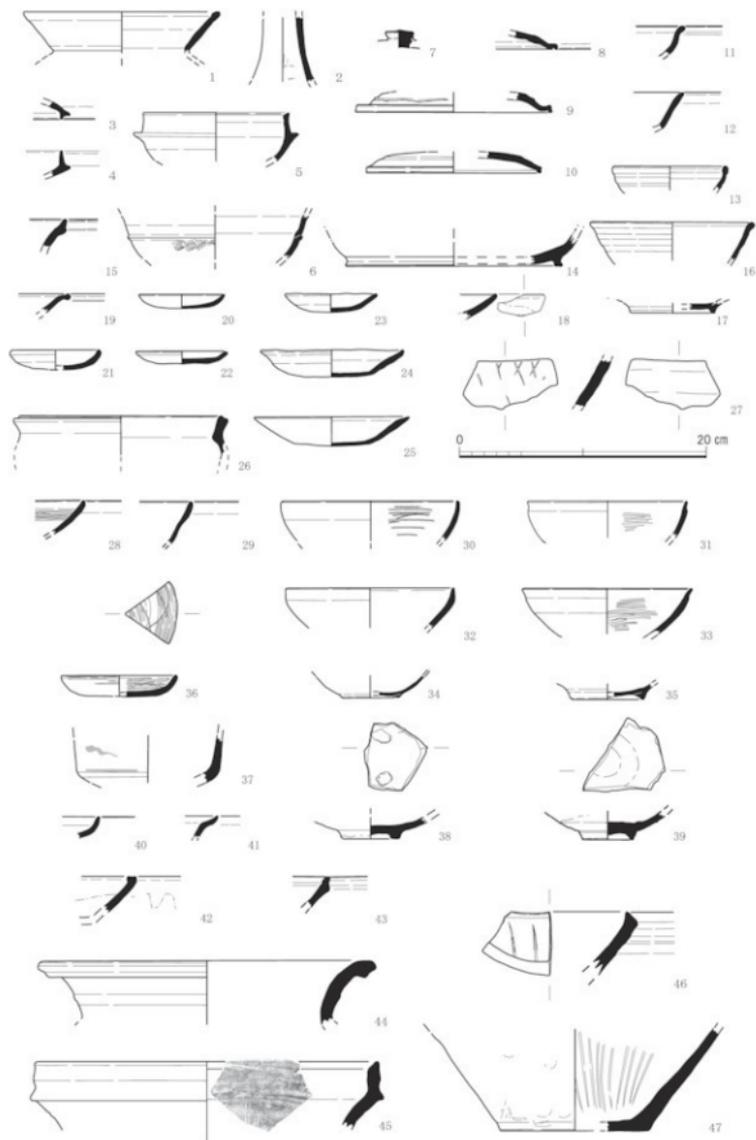
各トレンチから広い時期に及ぶ遺物が出土している。ただし、遺構を検出した面で掘削を停止し、それ以上の掘削を行っていないので、遺構に伴うものや完形に復元することができたものは多くない。その中でも主要なものを第27図・第28図に示した。

なお、個別の詳細な情報は付表6の遺物観察表を参照していただきたい。

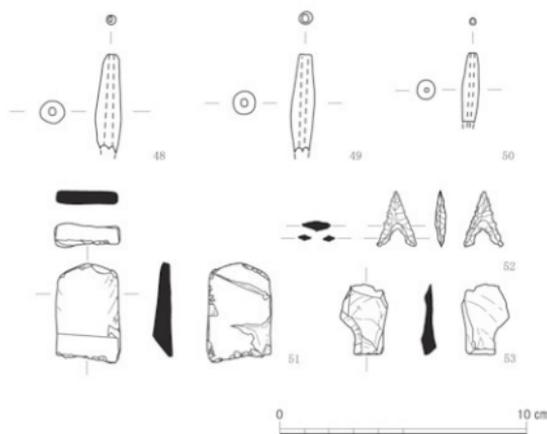
1は布留形甕の口縁部である。やや内湾気味に立ち上がり、口縁端部は内側に肥厚させる。古墳時代前期中段階と考える。2も古墳時代前期の土師器高杯と考えられる。

4～6はいずれも第6トレンチから出土した古墳時代の須恵器である。5はT K 23～47並行期の杯身、4はTK209並行期の杯身とみられる。6は波状文をもつ体部小片であり、後期の無蓋高杯の可能性が考えられる。

7～10は須恵器蓋、11～14は須恵器杯・碗である。9は蓋天井部に重ね焼きの痕跡を残す。14は底部径18cmを超す大形の杯Bの底部である。16、17はいずれも第5トレンチから出土した緑釉陶器である。須恵質の素地に淡緑色の釉がかかる。17は貼付け高台を持つ底部である。色調等から、



第27図 第29次調査出土遺物実測図1 (1/4)



第28図 第29次調査出土遺物実測図2（1/2）

19は薄手で「ての字」状口縁を有し、胎土が精良である。10世紀代に比定される。22はやや厚手のものである。口縁端部は丸く単純に仕上げる、17世紀以降のものである。23、24は、いずれも21トレンチのS K 292101 断削中から出土した。側面観が台形を呈し、やや厚手の体部をもつ。口縁端部は、強いナデのためわずかに上方に拡張される。年代は15世紀後半から16世紀前半と推定される。

26は28トレンチから出土した土師質の甕である。27は瓦質の播鉢である。播鉢は、図示不可能なものも含め、土師質、瓦質、陶製品が多く出土している。

28～35は瓦器碗である。口縁部形態は多岐にわたり、端部を丸く単純に取めるもの（30）、面取りするもの（28）、やや肥厚させるもの（29）、ナデにより薄くつまみ上げるもの（31～33）等がある。瓦器碗は多くのトレンチから出土しており、特に口縁部を薄くつまみ上げるいわゆる丹波型瓦器碗と呼称されるものが多い⁽²⁾。また、底部の多くは薄い粘土紐を貼り付けただけのもの（34）が主体を占め、やや古相を示す断面三角形の高台をもつもの（35）の割合は低い。36は瓦器皿である。内面は入念にミガキが施され、螺旋状の暗文が認められる。

37～47は陶磁器類である。37は青花碗である。39・40は白磁である。39は内面釉剥が認められ、底部外面は露胎している。41は青磁折口杯の口縁部である。42は、破片ながら古瀬戸卸目皿の口縁部と考えられる。45は、第14トレンチのS K 291403から出土した備前焼の播鉢である。V期、16世紀代のものである。46、47は丹波焼の播鉢である。

48～50は小形の管状土錘である。50は須恵質に焼成されている。

51は磨製の扁平片刃石斧である。石材はチャートである。上面と両側面は研磨され、背面及び裏面の一部には素材面を残す。弥生時代中期のものであろう。52は白色系チャート製の凹基石鏃である。縄文時代以前にさかのぼる可能性がある。53はチャートの剝片である。

緑釉陶器はいずれも9～10世紀代の平安京近郊産製品と考えられる。18は灰釉陶器の皿と考えられる。須恵質の素地を持ち、灰釉ツケガケの痕跡が認められる。これらの古代の遺物は、第5トレンチ及び小字大門・清草に設定した調査区からの出土が目立つ。第5トレンチは今回設定した調査区の中では最高所に位置しているが、緑釉陶器を含め古代の遺物が濃密に分布する。

19～25は土師器皿である。

2 まとめ

今回設定した調査区では、埋没谷部分に当たっている地点もあったが、ほぼ全域で遺物が出土しており、調査対象地全域に遺物包含層が分布していることが確認できた。こうした成果は、これまでに京都府教育委員会、亀岡市教育委員会が実施した調査結果とも矛盾しない。

今回の調査では古墳時代以前にさかのぼる遺物は散見したものの、遺構は検出されなかった。また、古代の成果として、遺構・遺物の分布範囲がこれまで想定されていたよりも北側まで広がったことは特筆される。遺跡北側から張り出す丘陵裾部に設定した第1～6トレンチは、木下良氏がかつて想定した国府城よりも北側に存在し、これまで調査が行われてこなかった地域であった。しかし、第1トレンチで掘立柱建物を2棟検出したのをはじめ、各トレンチで遺構、遺物が広がることが明らかとなった。出土遺物のなかには施釉陶器類も含み、この付近にも古代の千代川遺跡の中心部が存在した可能性がある。

また、中世の遺構面、包含層も、従来の想定より広い範囲に分布することが明らかとなった。そして、調査地の中には、中世の遺構面あるいは包含層以下の層が湿地状の堆積を示す、埋没谷のような地点も多く含まれる。これらの調査区においても、瓦器碗や陶磁器類などの中世遺物が散見される。したがって、この時期に千代川遺跡の地形造成が進んだ可能性がある。

(桐井理揮)

〔2〕平成29年度の調査（千代川遺跡第31次調査）

1 はじめに

平成29年度の調査は千代川町千原、北ノ庄において実施した。平成27・28年度と同様、3m四方の正方形のグリッド調査区を設定し、調査を実施した。調査期間は平成29年11月6日～平成30年3月14日である。トレンチは100箇所、調査面積は計900㎡である（第29図）。調査期間・整理期間等の関係から、詳細は次年度以降に報告することとし、今年度の報告では調査の概要のみを記す。

2 調査の概要

グリッド調査では3m四方の調査区を調査の同意を得られた耕作地に設定して行った。耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力にて掘削し、遺構面の検出を進めた。調査地は来年度以降の作付けを行うため、床土以下に遺構面が確認できない場合、埋戻しを考慮して調査区全面の掘り下げは行わず、約40cm幅の断削を行い、さらなる下位の遺構面の有無や層序の把握に努めた。多くの調査区で溝や柱穴を検出しており、基本的にどの調査区からも弥生時代から中世にかけての遺物が出土する包含層を確認した。

千原小字学堂、清草に設定した調査区では古代の遺構も検出しており、掘立柱建物に伴う柱穴も認められる。その埋土中からは 8 世紀代の須恵器が出土している。周辺では過去の亀岡市教育委員会の調査によって正方位の掘立柱建物が数棟検出されており、平安時代における千代川遺跡の中核部分に相当すると考えられる。

府道 73 号線の南側に設定した調査区では、多くの地点で弥生時代中期後半の土器や石器を多量に包含する土層が堆積していることを確認している。



第 29 図 平成 29 年度 千代川遺跡第 31 次調査トレンチ配置図（1/6,000）

3 まとめ

これまでの調査で、遺跡地内の広い範囲で各時代の遺構、遺物包含層が分布することが明らかとなってきた。それとともに、現在のような整然とした地割が整備される以前には、大小の谷状地形が存在したことも同時に明らかとなりつつあり、千代川遺跡の一带における土地利用の変遷について考える重要な成果を得ることができた。

また、確認できた遺構あるいは遺物包含層の多くが耕作土直下に近い位置に存在している点は、工事等での影響が及ぶ可能性が高く注意が必要であるといえる。今後これらの調査成果を総括し、各時代の千代川遺跡の様相を把握する作業が求められる。その成果をもとに、今後の会場整備の工事計画について関係機関と調整を図りながら、遺跡の保護を進めていく必要がある。

（桐井理揮）

（注）

- (1) 歴史的環境の執筆には主に以下の文献を参考にした
 - ・石崎善久・小池 寛 2013「池尻廃寺とその周辺」『第19回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 古代寺院と律令体制下の京都府～なぜ寺はそこにあるのか～』京都府埋蔵文化財研究会
 - ・亀岡市史編纂委員会 1965『亀岡市史』亀岡市
 - ・亀岡市史編さん委員会 2000『新修亀岡市史 資料編』第1巻
 - ・桐井理揮 2017「南丹地域における縄文・弥生移行期の様相」『第24回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 弥生文化出現期前後の集落について』京都府埋蔵文化財研究会
 - ・木下 良 1964「丹波国府址新考」『史明』4
 - ・木下 良 1966「丹波国府址—亀岡市千代川町に想定する—」『古代文化』第16巻第2号 古代学協会
 - ・高橋誠一 1986「亀岡盆地の桑里と丹波国府」『人文地理学の視図』
 - ・高橋照彦・中久保辰雄編 2012『篠窪跡群大谷3号窟の研究』大阪大学文学研究科考古学研究所報告第5冊 大阪大学考古学研究室篠窪調査団
 - ・財団法人京都府埋蔵文化財センター 1985「千代川遺跡第6、7次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第14冊
- (2) 石井清司・引原茂治・伊野近富 1985「亀岡盆地出土の瓦器について」『京都考古』第37号 京都考古刊行会
- (3) 佐野 元 1998「5 備前焼」『六古窯の時代』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- (4) 前掲木下文献 1966
- (5) 亀岡市教育委員会 1998「I 千代川遺跡第24次発掘調査報告」『丹波国府・国分寺跡関連遺跡発掘事前総合調査報告書』亀岡市文化財調査報告書第47集

付表6 第29次調査出土遺物観察表

報告 番号	種別	器種・ 器形	出土場所		法量		残存率	胎土	色調	焼成	備考	
			tr	遺構・層位	口径	器高						底径
1	土師器	壺	21	2層	160	-	6/12	粗	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	やや軟	布留形壺	
2	土師器	高杯	17	3層	-	-	6/12	やや粗	褐色 (5YR6/6)	やや軟		
3	須恵器	杯蓋	3	表土	-	-	1/12	密	灰色 (N5/1)	良好		
4	須恵器	杯身	6	表土	100	-	1/12	密	灰色 (7.5Y6/1)	良好		
5	須恵器	杯身	6	表土	118	-	1.5/12	密	灰色 (N6/)	良好		
6	須恵器	無蓋高杯	6	2層	-	-	1.5/12	密	灰色 (N6/)	良好	波状文を施文	
7	須恵器	壺	12	2層	-	1.4	-	完形	密 黄灰色 (2.5YR6/1)	良好		
8	須恵器	壺	17	2層	-	-	1.5/12	密	灰色 (N6/)	良好		
9	須恵器	壺	12	表採	160	-	1/12	密	灰色 (N6/)	良好		
10	須恵器	壺	11	3層	142	-	1/12	密	灰色 (N6/)	良好		
11	須恵器	壺	17	2層	-	-	1/12	密	灰白色 (2.5Y7/1)	良好		
12	須恵器	杯	5	3層	-	-	1/12	密	灰色 (2.5Y7/1)	良好		
13	須恵器	杯	5	3層	94	-	1/12	密	灰色 (2.5Y7/1)	良好		
14	須恵器	杯	18	2層	-	17.8	2/12	密	灰白色 (10YR7/1)	良好		
15	須恵器	壺?	5	4層	300	-	1/12	密	灰色 (N4/)	良好		
16	緑釉陶器	碗	5	3層	134	-	1/12	密	素地：黄灰色 (2.5Y6/1) 釉：オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	良好	素地は軟質	
17	緑釉陶器	碗	5	3層	-	7.0	1.5/12	密	素地：にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	良好	素地は軟質	
18	灰釉陶器	皿	20	3層	-	-	1/12	密	素地：褐色 (10YR5/1) 釉：灰白色 (10YR7/1)	良好	素地は須恵質	
19	土師器	皿	17	2層	-	-	1/12	密	灰色 (10YR7/1)	良好		
20	土師器	皿	14	3層	7.0	1.1	3.2	2/12	褐色 (7.5YR7/6)	良好	て字状口縁	
21	土師器	皿	12	2層	7.4	1.5	3.6	2/12	密	にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	良好	
22	土師器	皿	12	3層	7.4	1.5	3.7	3/12	密	にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	良好	
23	土師器	皿	22	S K 292201	7.5	1.5	3.2	完形	密	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	良好	
24	土師器	皿	22	S K 292201	11.6	2.3	5.2	完形	密	灰白色 (10YR8/2)	良好	
25	土師器	皿	28	無蓋	124	2.4	6.0	2/12	密	灰白色 (10YR8/2)	良好	
26	土師器	壺	2	2層	176	-	1/12	密	灰白色 (2.5Y7/1)	良好		
27	瓦質	楕鉢	4	表土	-	-	1/12	密	黒色 (10YR1/7/1)	良好		
28	瓦器	碗	14	4層	-	-	1/12	密	黒色 (10YR1/7/1)	良好		
29	瓦器	碗	12	2層	-	-	1.5/12	密	黒色 (10YR1/7/1)	良好		
30	瓦器	碗	21	2層	11.0	-	1.5/12	密	黒色 (10YR1/7/1)	良好		
31	瓦器	碗	5	3層	130	-	1/12	密	黒色 (10YR2/1)	良好		
32	瓦器	碗	30	3層	138	-	3/12	密	黒色 (2.5Y2/1)	良好		
33	瓦器	碗	5	3層	138	-	1/12	密	黒色 (10YR2/1)	良好		
34	瓦器	碗	13	2層	-	4.6	3/12	密	黒色 (10YR1/7/1)	良好		
35	瓦器	碗	13	2層	-	6.0	6/12	密	黒色 (10YR1/7/2)	良好		
36	瓦器	皿	30	3層	9.4	1.7	6.0	2/12	密	褐色 (10YR6/1)	良好	
37	青花	碗	6	表土	-	-	1.5/12	密	素地：灰黄褐色 (10YR6/2) 釉：灰白色 (10YR7/1)	良好		
38	陶器	碗	21	2層	-	-	6/12	密	灰褐色 (5YR6/2)	良好		
39	白磁	碗	13	2層	-	4.2	6/12	密	灰白色 (7.5YR8/1)	不良		
40	白磁	碗	6	表土	-	-	1.5/12	密	浅黄褐色 (10YR8/3)	良好		
41	青磁	杯	14	2層	-	-	1/12	密	素地：灰白色 (2.5Y7/1) 釉：オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	良好	折口杯	
42	陶器	節口皿	6	4層	-	-	1/12	密	素地：灰白色 (10YR8/2) 釉：灰オリーブ色 (7.5YR5/3)	良好		
43	陶器	楕鉢	17	2層	-	-	1/12	密	灰色 (N5/)	良好	東播系	
44	陶器	壺	28	S D 292801	27.4	-	1.5/12	密	素地：褐色 (7.5YR6/1) 釉：褐色 (7.5YR4/4)	良好	古瀬戸	
45	陶器	楕鉢	14	S P 291403	27.7	-	1/12	密	暗赤灰色 (5R4/1)	良好	備前、16世紀	
46	陶器	楕鉢	18	2層	-	-	1/12	密	内面：褐色 (5YR6/6) 外面：灰褐色 (5YR4/2)	良好	丹波	
47	陶器	楕鉢	20	2層	-	120	3/12	密	褐色 (2.5YR6/6)	良好	丹波	
48	土師質	土師	14	暗黒	-	-	11/12	密	浅赤褐色 (2.5YR7/4)	良好		
49	土師質	土師	30	3・4層	-	-	11/12	密	にぶい・褐色 (5YR7/5)	良好		
50	須恵質	土師	12	N R	-	-	11/12	密	褐色 (10YR6/1)	良好		
51	石器	石斧	21	2層	-	4.1	-	完形	-	-	扁平片刃、チャート製	
52	石器	鎌	5	表土	-	2.2	-	完形	-	-	チャート製	
53	石器	割片	20	3層	-	1.8	-	完形	-	-	チャート製	

4 平成 29 年府内遺跡試掘・確認調査等報告

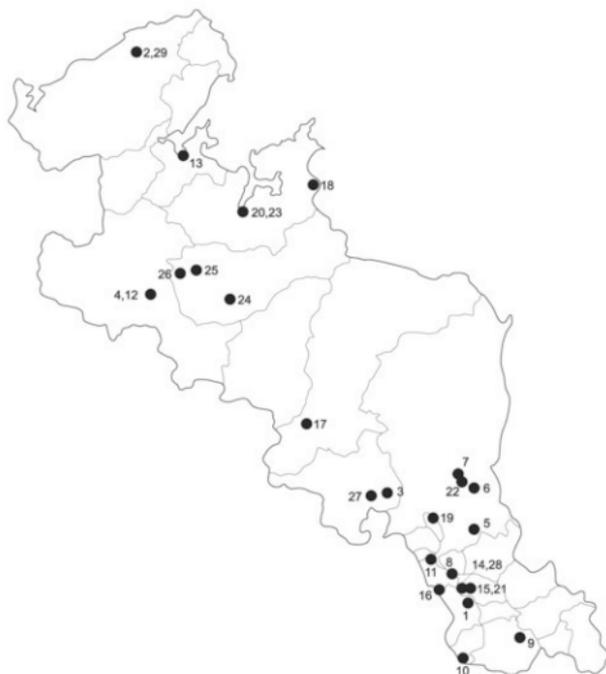
京都府教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地における開発事業に伴い、各事業主体者の協力を得ながら、国庫補助事業府内遺跡として、試掘・確認調査、分布調査等を実施している。

平成 29 年 1 月から 12 月にかけて当教育委員会では第 30 図、付表 7 に示すとおり総数 29 件の分布調査、試掘・確認調査等を実施した。高速道路建設工事及び道路拡幅工事に伴う調査が多く行われた。

7. 世尊寺跡は、本隆寺の建造物修理事業に伴い京都市と合同で調査を実施し、中世の遺構面と土坑を検出し、遺物が出土した。詳細は京都市が報告する予定である。このほか 1. 稲葉遺跡、5. 伏見城跡などの調査を実施したが、遺構及び遺物は確認されなかった。

次項では、特に成果の得られた試掘・確認調査について記載する。

(古川 匠)



第 30 図 平成 29 年試掘・確認調査地位置図 (番号は付表 7 に対応)

付表7 平成29年試掘・確認調査等一覧

	調査月日	遺跡名称	所在地	概要	調査原因	備考
1	1月24日	稲葉遺跡	京田辺市	顕著な遺構・遺物なし	日本郵政社宅改修	
2	1月26日	川向遺跡	京丹後市	顕著な遺構・遺物なし	道路新設	P51掲載
3	2月1日	篠道跡	亀岡市	顕著な遺構・遺物なし	歩道橋新設	
4	2月3日	老川遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	府営住宅改築	
5	2月6日	伏見城跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	学校フェンス設置	
6	2月16日	法住寺殿跡・六波羅政庁跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	交番改築	
7	2月27日	世尊寺跡	京都市	遺構面検出	建造物修理	
8	2月28日	上津屋遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	上津屋橋復旧工事	
9	3月1日	慈仁宮跡	木津川市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	
10	3月2日	柘榴川原遺跡・石原遺跡	精華町	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	
11	3月3日	木津川河床遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	公園整備	
12	3月7日	老川遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	府営住宅改築	
13	3月15日	宮津城跡	宮津市	石垣基部を検出	下水道工事	P53掲載
14	3月16・28日	水主神社東遺跡隣接地	城陽市	烏畑を検出	高速道路建設	P62掲載
15	4月27・28日	小幡尻遺跡隣接地	城陽市	烏畑を検出	高速道路建設	P63掲載
16	5月24・25日	美濃山遺跡隣接地	八幡市	顕著な遺構なし	高速道路建設	P61掲載
17	5月29日	園部城跡	南丹市	顕著な遺構・遺物なし	裁判所改築	
18	7月11日	松尾寺遺跡	舞鶴市	顕著な遺構・遺物なし	基地局設置	
19	7月18日	久々相遺跡	向日市	顕著な遺構・遺物なし	道路改修	
20	7月31日	田辺城跡	舞鶴市	顕著な遺構・遺物なし	学校改修	
21	8月1・2日	小幡尻遺跡隣接地	城陽市	烏畑を検出	高速道路建設	P63掲載
22	8月10日	平安京跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	府営住宅解体	
23	8月17日	田辺城跡	舞鶴市	顕著な遺構・遺物なし	学校改修	
24	11月13日	青野遺跡	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	道路改修	
25	11月13日	知坂古墳群	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	ため池改修	
26	12月4日	花ノ木古墳	綾部市	顕著な遺物なし	道路改修	P58掲載
27	12月6日	欠田遺跡	亀岡市	顕著な遺物なし	道路拡幅	P59掲載
28	12月18日	水主神社東遺跡	城陽市	顕著な遺構・遺物なし	河川改修	
29	12月18日	川向遺跡	京丹後市	顕著な遺構・遺物なし (中世墓の可能性あり)	道路新設	P51掲載

[1] ^{かわむかい}川向遺跡試掘確認調査（第2・3次調査）

1 はじめに

川向遺跡は、京丹後市丹後町成願寺川向に所在し、古墳時代から奈良時代にかけての散布地として周知されている遺跡である。京都府丹後土木事務所が進めている府道間人峰山線の建設に伴い、平成28年の第1次調査に引き続き試掘確認調査を実施した。調査箇所は、第2次調査が竹野川に架かる大門橋西詰め上流側、第3次調査が竹野川左岸の丘陵裾である。

第2次調査は平成29年1月26日に実施し、調査面積は27㎡である。第3次調査は平成29年12月18日に実施し、調査面積は16㎡である。調査にあたっては、京都府丹後土木事務所の協力を得た。

2 調査の概要

第2次調査は、耕作地に3m四方の調査区を3箇所設定した。第2-1～3トレンチとする。

第2-1トレンチは上層に砂が厚く堆積し、下層はシルト質である。遺物、遺構共に確認できない。第2-2トレンチはシルト質の湿地状堆積で、摩滅した土師器小片が1点のみ出土した。第2-3トレンチはシルト質の湿地状堆積で、摩滅した土師器小片が1点のみ出土した。

第3次調査は、丘陵裾に階段状に存在する4つの平坦面にそれぞれ2m四方の調査区を設定した。調査区はそれぞれ第3-1～4トレンチとする。

第3-1トレンチは地表面から1m以上の盛土で、最下層のバイラン土の地山からは湧水がある。遺物、遺構共に確認できない。第3-2トレンチは地表面から約90cmの盛土である。遺物、遺構共に確認できない。トレンチの西側の斜面には五輪塔の地輪や一石五輪塔などの石造物が複数確認できる。第3-3トレンチは表土直下に厚いバイラン土の堆積を検出した。バイラン土の堆積は、土層の状況から地山と判断できる。遺物、遺構共に確認できない。トレンチの西側斜面上には細長い平坦面が存在する。第3-4トレンチは南側への落ち込みとバイラン土の堆積を検出した。落ち込みは締りが弱いことから、近年の堆積と判断できる。バイラン土の堆積は、土層の状況から地山と判断できる。遺物、遺構共に確認できない。

第3次調査で対象とした各平坦面は、盛土の状況から近現代に造成された平坦面と判断できる。

3 まとめ

川向遺跡の調査では、第1次調査を含めていずれの調査区からも顕著な遺構、遺物は検出できなかった。ただし、第3次調査を行った平坦面の西側の丘陵裾には石造物が複数分布しており、原位置をとどめる可能性のある五輪塔地輪も確認できる。これらの石造物は、当地が中世以来の墓地であるこ

とを示しており、道路工事によって影響を受ける範囲については調査の必要性が高いと判断できる。

（中居和志）

注（1）京都府教育委員会2017「川向遺跡試掘確認調査（第1次調査）」『京都府埋蔵文化財調査報告書（平成28年度）』



第31図 川向遺跡位置図（国土地理院
1/25,000「網野」）



1. 暗灰色中粒砂
2. 暗灰黄色中粒砂 近現代遺物含む
3. 黄褐色粗砂【川砂】
4. 暗褐色シルト
5. 暗灰色極細砂 土器器小片をわずかに含む
6. 暗灰色シルト 暗褐色斑多い
7. 暗青灰色シルト

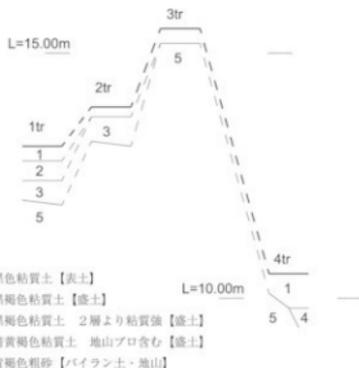
第33図 第2次調査区土層断面模式図（1/100）



第34図 第3次調査地西側斜面の地輪



第32図 川向遺跡調査地位置図（1/2,000）



1. 黒色粘質土【表土】
2. 黒褐色粘質土【盛土】
3. 黒褐色粘質土 2層より粘質強【盛土】
4. 暗黄褐色粘質土 地山プロ含む【盛土】
5. 黄褐色粗砂【パイラン土・地山】

第35図 第3次調査区土層断面模式図（1/100）

[2] ^{みやづじょうあと}宮津城跡試掘確認調査（第18次調査）

1 はじめに

宮津城跡は、宮津市鶴賀に所在する近世城館である。丹後国に入った細川藤孝によって天正8（1580）年以降に築城されたのが宮津城の始まりである。慶長5（1600）年には関ヶ原の戦いの前哨戦である舞鶴市田辺城での籠城戦の前に細川藤孝自らが焼き払っている。その後、丹後国は田辺城に入った京極高知の支配下に入り、高知が元和8（1622）年に亡くなると、3人の息子に分割されることとなった。宮津には京極高広が入り、城の再建が進められた結果、寛永2（1625）年には全体が完成したとされている。宮津藩は、京極、水井、阿部、奥平、青山、松平（本庄）家と藩主が頻繁に入れ替わりながら幕末を迎えるが、城の基本構造は京極氏の再建以後大きく変化していない。

明治時代にはいわゆる廃城令によって廃城とされ、建物などは撤去された。大正13年の国鉄宮津駅の開業以降は市街地化が進展し、城の痕跡は本丸西辺石垣の一部や三の丸の堀跡などがわずかに残存しているのみである。ただし、これまでの17次に及ぶ発掘調査の成果では、各所で石垣や堀などが検出されており、地下には城跡の遺構が良好に残存していることが確認されている。

今回の調査は、宮津湾流域下水道幹線管渠工事に伴う試掘確認調査として実施した。現地調査は平成29年3月15日に行い、調査面積は21㎡である。調査に際して京都府流域下水道事務所宮津湾浄化センターから協力を得た。

2 調査の概要

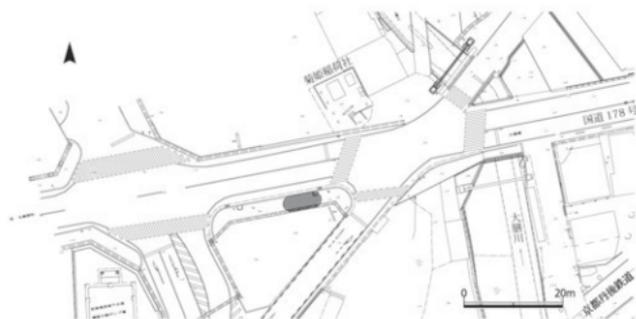
調査地は宮津城跡の東端を画する大膳川に隣接している。大膳川は三の丸の外側を画する堀を踏襲した川であり、調査地付近では三の丸の石垣に用いた石材を積み直した石積護岸も確認できる。調査地は、宮津城を描いた絵図によれば、城の東方面の玄関口にあたる波路門と三の丸に広がっていた武家屋敷地に相当する。当地の武家屋敷地は、万治3（1660）年ごろの『宮津城下絵図』には「山田弥次兵衛」、慶応3（1867）年の『宮津鶴賀城図』には、「川村為三郎」との記載があり、城主の移封に伴って屋敷の主は変化しているが、屋敷地の規模は幕末まで大きく変化がなかったことがわかる。

調査地の周辺での調査歴は少なく、わずかに公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施した第8次調査があるのみである。第8次調査では、上層から掘立柱建物や櫓、下層から焼土層が検出されており、上層が京極期以降の武家屋敷地、下層が細川期と想定されている（森島1991）。

調査地の現状は国道178号線の歩道であり、下水道幹線の立坑掘削予定地である。アスファルト敷の路面下約95cm（標高1.05m）まではガラスなどを含む近現代層である。その下層は灰黄褐色砂質土で、この層から掘削する黒色粘質土を埋土とする土坑SK1が断面で確認できる。さらに、地表面から約120cm（標高0.95m）の深さで安定面があり、この安定面から遺構を検出した。その結果、



第 36 図 宮津城と周辺城館位置図 (1/25,000)

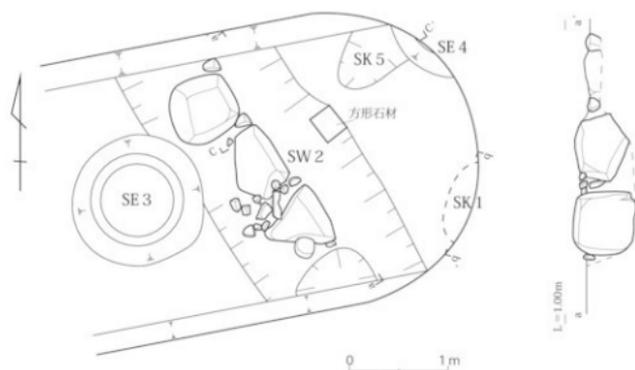


第 37 図 宮津城跡調査地位置図 (1/1,000)

調査区の中央東よりで南北方向に並ぶ石列 SW 2 を確認した（第 38 図）。SW 2 は 3 石分を調査で確認し、東側に面を持って並ぶ。石列南端の石のさらには南側には抜き取り痕がある。SW 2 の方位は北で西に約 32.8° 傾いている。石の種類はいずれも花崗岩で、矢穴等の加工は確認できない。各石の間には 10～20cm 大の礫を挟む。礫の大半は花崗岩が占めるが、一部チャートを含む。SW 2 の下部には桐木や根石などは確認できない。SW 2 の石材は、幅約 1.6m の溝状の掘方の中に設置しており、掘方内には多量の角礫等を含む。掘方東端には 1 辺約 30cm の方形に加工された石材もある。

なお、この方形の石材の下部は斜めに切断されている。掘方埋土の上面は締まりのよい灰黄褐色砂質土層で覆われるが、この灰黄褐色砂質土層は薄い層が複数重なった土層（第 39 図第 4 層）である。整地層と考える。

SW 2 の断面観察からは、石列の構築方法が判明した。まず灰黄色砂質土を掘削して溝状の掘方を



第38図 遺構平面・SW 2見透図 (1/50)

<C-C'断面>

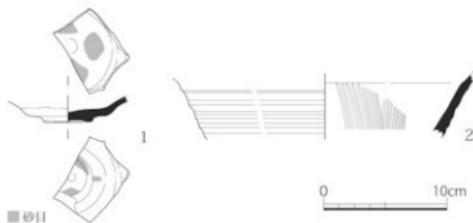
- 1.黄橙色(10YR6/4)粘質土 角礫多く含む【SE4】
- 2.灰黄色(2.5Y7/2)砂質土 炭化物多く含む、近代遺物含む
- 3.黄褐色(10YR5/3)砂質土 赤褐色ブロック含む【SK5】
- 4.灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 薄い褐色砂層を複数層含む
- 5.暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土 角・円礫多量に含【SW2掘方埋土】
- 6.灰黄色(2.5Y6/2)砂質土



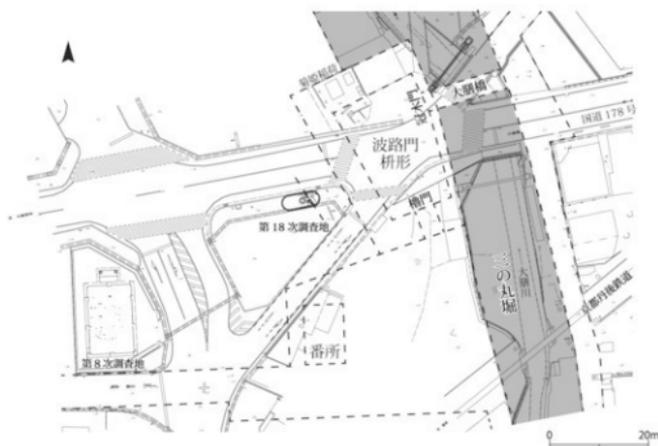
<b-b'断面>

- 1.褐灰色(10YR6/1)砂礫【路面の基盤】
- 2.にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土 10~20cm大の円礫、現代遺物含む
- 3.灰黄褐色(10YR4/2)砂質土 粗砂多く含む、炭化物少し含む
- 4.にぶい黄褐色(10YR6/3)砂質土
- 5.黒色(2.5Y2/1)粘質土【SK1】
- 6.灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
- 7.灰キリーブ色(5Y6/2)粗砂 ラミナ入る
- 8.にぶい黄褐色(10YR6/4)砂質土
粗砂含む、炭化物少し含む、締り強い【C-C'断面4層対応】

第39図 遺構検出状況(北西から)・土層断面図(1/50)



第40図 出土遺物写真・実測図(1/4)



第41図 調査地周辺の遺構想定復元図 (1/1,000)

作り、そこに多量の礫混じりの土を入れながら石列の石材を設置する。その後、灰黄褐色砂質土で掘方上面を叩き締めながら整地して面を形成する。SK5はこの整地面から掘削している。

SW2の性格は、東側に面を持つ石垣の最下段と評価できる。軟弱な砂地である当地において、石材の下部に胴木などの沈下防止対策がなく、石材の奥行きが短く栗石が少ないことからみて、高石垣にはならないと考える。また、今回の調査地内では、対になる西側の石垣が検出できなかった。そのため、この石垣は石畳ではなく敷地の段差に構築した石垣である可能性が高い。

SW2以外の遺構としては、SW2よりも新しい円形の井戸が2基ある。井戸SE3はSW2の西側にあり、石列掘方を切り込んで構築する。井戸枠は赤橙色のタタキである。SE3より西側では遺構を確認できない。SE4は調査区の北東端で検出し、井戸枠はモルタルである。また、SE4よりも古いSK5を確認したが、周辺の湧水が激しく平面形は不正確である。遺構の基盤となる灰黄色砂質土には遺物が含まれておらず、第8次調査と同様の下層遺構は存在しないと判断できる。遺構検出面の標高は第8次調査の上層とほぼ同一である。

出土遺物はあまり多くない。SW2の覆土やSE4の埋土中からは、近代の白磁碗などの遺物が出土した。SW2の裏込土からは、17世紀前半の唐津焼皿(第40図1)が出土した。このことから、SW2の構築は17世紀前半以降と判断できる。また、SW2よりも新しいSE3の掘方からは、近世後半の播鉢(第40図2)や近代遺物が出土した。このことから、SW2が解体されたのは明治時代の廃城時である可能性が高い。

3 調査の成果

今回検出したSW2の宮津城跡における位置づけを考えたい。当地は、前述のように各種絵図では

三の丸の武家屋敷地に該当するが、東方面からの主要な出入口である波路門にも隣接する。そのため、今回検出したSW2は武家屋敷地内の区画施設、または波路門そのものの可能性がある。

波路門の構造については、これまで発掘調査事例はなく正確な平面形は不明である。各種絵図の描写では、橋の正面に東に開く冠木門があり、そこから南北に細長い長方形平面の枳形虎口に入る。枳形虎口内部は石垣で構築されており、南側には櫓門を設けていたようである。また、各種絵図ではいずれも枳形虎口の西側に武家屋敷が接する表現となっている。

今回検出のSW2から波路門枳形東辺までの距離は推定で約30mである。SW2が波路門の枳形に伴う石垣である場合、南北に長い波路門枍形の南北長は30m以上となり、絵図に描かれる城郭全体と門の比率が合わない。

なお、『正保宮津城絵図案』には、波路門枍形の内側の南北長を「十三間二尺」=約24mとあることから、やはり枍形の東西長が約30mとは考えにくい。また、SW2が枍形の内側石垣ならば、枍形の土塁ないし石塁の西端は今回調査地よりもさらに西側になり、門の西側に位置する武家屋敷地の形状が絵図と合わない。以上のことから、SW2は、波路門本体の石垣ではない可能性が高いと考える。

SW2は、波路門本体でなければ波路門西側の武家屋敷地の区画施設の可能性がある。各種絵図には、波路門西側に直接武家屋敷地が接するように描かれているが、公的な施設である波路門枍形と私的な屋敷地との間には、何らかの区画施設が存在したと考えることができるであろう。今回の調査でSW2の東側に整地面を確認していることから、波路門枍形と武家屋敷地の間に通路状の空間があり、SW2の上部構造として屋敷地を画する塀などの施設が存在したと考える。

今回の調査では波路門枍形本体は確認できなかったが、検出したSW2の方位の傾きは、調査地の北側に位置する菊姫稲荷社の主軸方位と近似する。菊姫稲荷社は近年大きく改修されたものの、現状でも周辺から約80cmの高まりの上に神社が所在している。そこで絵図等を参考に波路門周辺を復元してみると、菊姫稲荷社の高まりが波路門枍形の北辺に該当することが分かる(第41図)。菊姫稲荷社は波路門枍形の土塁・石塁を利用しており、宮津城跡の地上で確認できる貴重な遺構といえる。

今回の調査では、工事に伴う小面積の調査という制約はあるものの、波路門枍形と屋敷地とを画する石垣の基部を検出することができた。宮津城跡は、地表面上から認識できる遺構が極めて少なく、地割の痕跡もわずかしか残らない。これまでの発掘調査の結果、遺構が良好に残存していることは明らかとなっているが、調査数が限定されていることから宮津城跡の詳細は不明な点が多い。そうした中で、今回の調査では宮津城跡を復元する上で重要な情報を得ることができた。今後も、こうした成果を積み上げていくことで、宮津城跡の全体像を明らかにしていくことができるであろう。

(中居和志)

【参考文献】

- 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1991「1. 宮津城跡第8次」『京都府遺跡調査概報』第43冊
宮津市史編さん委員会 2005『宮津市史 絵画編』
京都府立丹後郷土資料館 2017『特別展図録 宮津という地に居城を拵え-地中に眠る宮津城-』

[3] ^{はな}花^{きこふん}ノ木古墳試掘確認調査（第1次調査）

1 はじめに

花ノ木古墳は、綾部市鍛冶屋町花ノ木に所在する古墳である。京都府中丹東土木事務所が進めている府道小西西坂線の拡幅工事に伴い試掘確認調査を実施した。調査箇所は、犀川の支流伊路屋川右岸の低丘陵上にあたり、鍛冶屋集落の中心部に位置する。

花ノ木古墳の現状は、平地から約5mの丘陵上に位置し、直径約17m、墳丘高約2mの円墳である。墳丘上には無文の石碑が立ち、南側に石段を設ける。墳丘の西側には幅約4m、現存長約2mの造り出し状の張り出しがあり、張り出しの西端は府道に面する崖面となって削られている。

花ノ木古墳について既往の調査履歴はなく、時期を含め実態は不明である。周辺の遺跡としては、調査地の南西側に高稲場古墳群があるが、花ノ木古墳と同様に時期等の詳細は不明である。

調査は平成29年12月4日に実施し、調査面積は6㎡である。調査にあたっては、京都府中丹東土木事務所の協力を得た。

2 調査の概要

今回の道路拡幅工事で墳丘本体の掘削はないものの、張り出し部分が掘削される予定となった。そのため、掘削予定部分に幅1m、長さ4mの調査区を設けた。

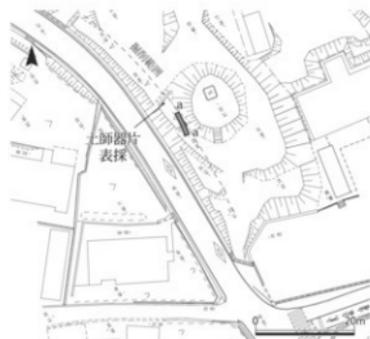
調査の結果、地表面下約70cmまでは近現代のモルタルや棧瓦などを含む盛土であった。さらに下層にやや締りの強い黄白褐色粘質土層を検出し、さらに下層は水平堆積のシルト質層、灰白色粘土層であった。また、調査区南端では南側への落ち込みを検出した。落ち込みからは土師器皿片が出土した。以上の状況から、張り出し部は近現代に形成されたもので、古墳と関係のないものであることが判明した。下層の黄白褐色粘質土層は、締まりの強さからみて古墳墳丘盛土である可能性が高い。さらに下層のシルト質層と灰白色粘土層は、墳丘北西側の崖面にも水平堆積状態で露出しており、地山と判断できる。調査区南端の落ち込みは、中世の土師器皿片を含むことから、中世以降に掘削されたものである。そして、調査区北側の表土中から土師器甕の小片を表採した。内面は指頭圧痕、外面はハケ調整でススが付着する。小片のため全形は不明ながら、布留形甕の可能性もある。

花ノ木古墳の調査は今回が初めての調査となった。張り出し部分は古墳に伴う遺構ではないことが判明したため、花ノ木古墳は円墳である可能性が高まった。また、墳丘の可能性の高い黄白褐色粘質土層の上面に葺石が存在せず、古墳周辺にも古墳に伴う石材が確認できないことから、当古墳は葺石を持たない盛土による古墳である可能性が高い。古墳の時期は明確な出土遺物がないため、正確な時期は不明だが、表採した土師器甕片を布留形甕と積極的に評価するなら、前期古墳の可能性もある。

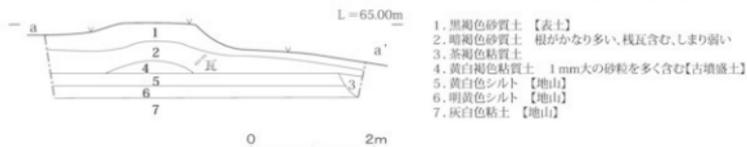
(中居和志)



第 42 図 花ノ木古墳位置図 (国土地理院
1/25,000 「河守」)



第 43 図 花ノ木古墳調査地位置図 (1/1,000)



第 44 図 調査区土層断面図 (1/80)

1. 黒褐色砂質土 【表土】
2. 暗褐色砂質土 根がかなり多い、残瓦含む、しまり弱い
3. 茶褐色粘質土
4. 黄白褐色粘質土 1mm大の砂粒を多く含む【古墳盛土】
5. 黄白色シルト 【地山】
6. 明黄色シルト 【地山】
7. 灰白色粘土 【地山】

[4] 矢田^{やだ}遺跡試掘確認調査 (第1次調査)

1 はじめに

矢田遺跡は、亀岡市上矢田町、下矢田町にまたがる散布地として周知されている遺跡である。京都府南丹土木事務所が進めている府道枚方亀岡線の拡幅工事に伴い試掘確認調査を実施した。

矢田遺跡について既往の調査履歴はなく、遺跡の実態は不明である。周辺の遺跡としては、調査地の南西側に古墳時代後期の横穴式石室をもつ君塚古墳がある。中世の遺跡としては、矢田遺跡内に矢田館跡、西側の丘陵上に矢田城跡などがあるが、矢田遺跡と同様に詳細は不明である。

調査は平成 29 年 12 月 6 日に実施し、調査面積は 6m²である。調査にあたっては、京都府南丹土木事務所の協力を得た。

2 調査の概要

道路拡幅予定地の耕作地に 1×3m の調査区を 2箇所設定した。

第 1 トレンチは、地表面下 30cm で暗茶褐色粘質土層を検出し、この層から掘削する柱穴を調査区

南端で検出した。南壁断面で柱穴を確認したことから、柱穴部分を南側に 40cm 拡張し、柱穴の平面形を確認した。柱痕跡や抜き取り痕は確認できない。地表面下 55cm では褐色粘質土、さらに下層には円礫を多量に含む黄褐色粘質土を検出した。土層の状況から褐色粘質土層、黄褐色粘質土層は地山と判断できる。出土遺物は、2 層中から土師質の小片が出土したのみである。

第 2 トレンチは、地表面下 45cm で円礫を多数含む暗灰褐色粘質土を検出した。第 1 トレンチの褐色粘質土に対応する地山と判断できる。遺構、遺物とも確認できない。

矢田遺跡ではこれまでに主だった調査は行われておらず、今回が初めての調査となった。遺構は調査区の南端で検出したが、安定した地山となる褐色粘質土は調査区南端で確認できたのみである。安定地盤及び遺構は調査区の南側にさらに広がると考える。ただし、遺構に伴う遺物は確認できず詳細な時期は不明である。調査区の大半は円礫が多量に混じった黄褐色粘質土であり、今回調査範囲とした場所の大半には遺構が存在しないと判断できる。

矢田遺跡はこれまで内容の不明な遺跡であったが、遺構の存在を確認できたことの意味は大きい。今後の開発等への対応に注意が必要である。

(中居和志)

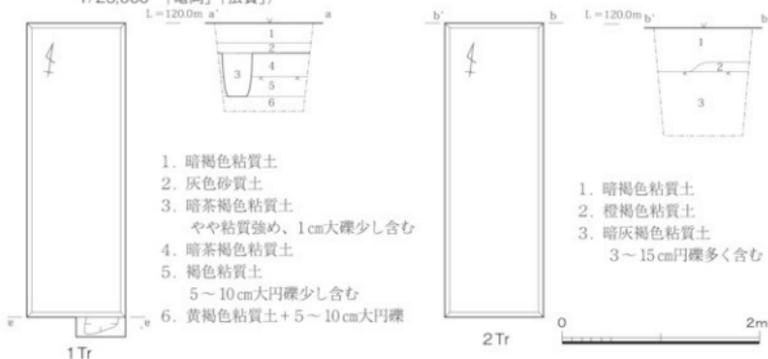


第 45 図 矢田遺跡位置図 (国土地理院)

1/25,000 「亀岡」[法費]



第 46 図 矢田遺跡調査地位置図 (1/1,000)



1. 暗褐色粘質土
2. 灰色砂質土
3. 暗茶褐色粘質土
やや粘質強め、1cm 大礫少し含む
4. 暗茶褐色粘質土
5. 褐色粘質土
5～10cm 大円礫少し含む
6. 黄褐色粘質土 + 5～10cm 大円礫

1. 暗褐色粘質土
2. 橙褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土
3～15cm 円礫多く含む

第 47 図 調査区平面・土層断面図 (1/50)

[5] ^{みのやま}美濃山遺跡隣接地試掘確認調査

1 はじめに

美濃山遺跡は、八幡市美濃山に所在する弥生時代から近世の集落跡である。遺跡は標高約52mの丘陵上に位置しており、近接して美濃山廃寺や美濃山廃寺下層遺跡が所在する。

今回の調査は、新名神高速道路整備事業に伴い、遺跡の広がりを確認するために実施した試掘確認調査である。調査は平成29年5月24日・25日に実施した。調査地は八幡市美濃山出口地内であり、調査面積は約296㎡である。調査にあたっては、西日本高速道路株式会社新名神京都事務所、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの協力を得た。

2 調査の概要

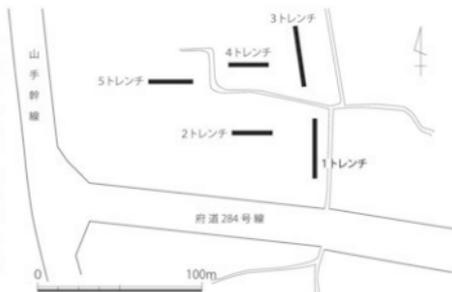
高速道路の工事が予定されている範囲に5箇所のトレンチを設定した(第49図)。

第1トレンチでは現地表下0.2～0.3mで地山である橙褐色極細砂層を確認した。北端約10mの範囲では、耕土の下層にわずかに土器片を含む暗褐色細砂層が0.1m、遺物を含まない淡黄褐色シルトまじり細砂層が0.3m堆積し、現地表下0.6mで地山に到達する。遺構は無い。第2・3トレンチでは現地表下0.2mで橙褐色極細砂層及び明橙色シルトの地山を確認した。第4トレンチでは現地表下0.4～0.6mで地山である黄褐色細砂層を検出した。第5トレンチでは現地表下0.1mで地山である橙褐色細砂層を検出した。西端約5mの範囲では、現地表下0.2mで固く締まった明橙褐色粗砂まじり細砂層の地山に到達する。第2～5トレンチでは遺構、遺物はない。

今回の試掘確認調査では、調査地の広い範囲で現代の耕作土の直下に基盤層が堆積することを確認した。また、第1トレンチで土器片がわずかに出土した以外には、顕著な遺構・遺物は検出されなかった。(岡田健吾)



第48図 美濃山遺跡隣接地位置図 (国土地理院 1/25,000 「淀」)



第49図 調査トレンチ配置図 (1/3,000)

[6] みぬしじんじゃびがし 水主神社東遺跡隣接地試掘確認調査

1 はじめに

水主神社東遺跡は、城陽市寺田に所在する弥生時代から近世の集落跡である。遺跡は木津川左岸に形成された沖積平野に位置し、13世紀後半ごろに形成された島畑が広い範囲で検出され、下層では古代の掘立柱建物や弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の溝が検出されている。西に隣接する下水主遺跡でも、弥生時代から古墳時代の流路や中世の島畑等、沖積平野での各時代の活動を示す遺構が検出されている。



第50図 水主神社東遺跡隣接地位置図（国土地理院 1/25,000「宇治」）

今回、新名神高速道路整備事業に伴い、水主神社東遺跡の東に隣接する地点の状況を確認する必要性が生じたため、試掘確認調査を実施した。調査期間は平成29年3月16日・28日である。調査地は城陽市寺田地内であり、調査面積は約144㎡である。調査にあたっては、西日本高速道路株式会社新名神京都事務所の協力を得た。

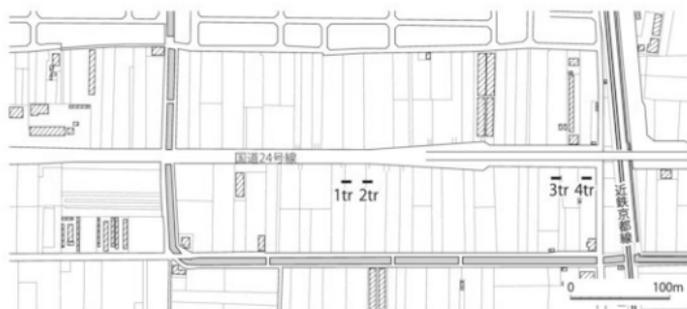
2 調査の概要

新名神高速道路の橋脚工事予定箇所に4箇所のトレンチを設定した（第51図）。

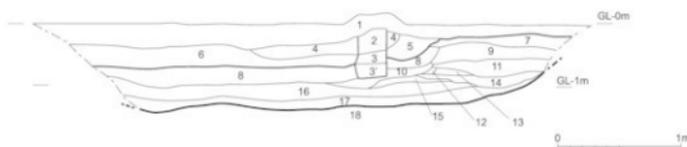
地表面から0.8m～1.2mの深度で遺構面を検出し、全てのトレンチで島畑を確認した。第1トレンチではトレンチ東端部で2面にわたる島畑を検出し、土層観察（第52図）から、地山を削り出し形成された島畑（第18層）の埋没後、盛土によって同一箇所に島畑（第7～17層）が形成されたことが判明した。島畑の検出面では瓦器椀の小片が出土しており、島畑の形成時期は中世に推定される。

試掘確認調査の結果、水主神社東遺跡の範囲内で検出されている島畑群が、さらに東に分布していることが判明した。城陽市教育委員会等の関係機関も現地で調査成果を確認し、水主神社東遺跡の範囲が、従来の想定より東に広がることを確認した。今後、当地の開発行為に際しては、適切な対応が必要となる。

（古川 匠）



第51図 水主神社東遺跡隣接地調査トレンチ配置図 (1/5,000)



- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1.暗褐色シルト質極細砂 | 10.暗灰色後極細砂(灰白色混含む、粘土土器片含む) |
| 2.暗褐色極細砂 | 11.暗青灰色極細砂(灰白色混含む、褐色色塵少量含む) |
| 3.暗灰色極細砂(褐色色塵非常に多く含む、3'はやや多く含む) | 12.暗青灰色極細砂 |
| 4.暗青灰色シルト質極細砂(黄褐色塵少量含む) | 13.暗灰色極細砂(褐色色塵少量含む) |
| 5.極暗青灰色極細砂 | 14.灰色シルト |
| 6.暗灰色シルト(褐色色塵多く含む) | 15.暗灰色極細砂質シルト |
| 7.暗青灰色極細砂 | 16.暗オリーブ灰色シルト |
| 8.オリーブ灰色極細砂 | 17.オリーブ灰色粘土 |
| 9.オリーブ灰色極細砂(褐色色塵非常に多く含む) | 18.灰黄色粘土(褐色色塵多く含む、地山) |

第52図 第1トレンチ北壁土層断面図 (1/100)

[7] ^{こひじり}小樋尻遺跡隣接地試掘確認調査

1 はじめに

小樋尻遺跡は、城陽市富野に所在する、縄文時代から中世の遺跡である。縄文時代から奈良時代には集落が断続的に形成され、中世には島畑が形成された。今回、新名神高速道路整備事業及び国道24号寺田拡幅事業に伴い、小樋尻遺跡の西に隣接する地点で試掘確認調査を実施した。調査期間は平成29年4月27日・28日及び8月1日・2日である。調査地は城陽市寺田地内であり、調査面積は約180㎡である。調査にあたっては、西日本高速道路株式会社新名神京都事務所及び国土交通省近畿地方整



第53図 小樋尻遺跡隣接地位置図(国土地理院 1/25,000「宇治」)

備局京都国道事務所の協力を得た。

2 調査の概要

新名神高速道路の橋脚工事予定箇所に3箇所（第1～3トレンチ）、国道24号幅員箇所に2箇所（第4・5トレンチ）のトレンチを設定した（第54図）。各トレンチの規模は南北4m、東西9mである。

地表面から0.8m～1.2mの深度で遺構面を検出し、第1、第2、第5トレンチで鳥畑を確認した。遺物は出土しなかったが、周辺の調査状況から、鳥畑の形成時期は中世に推定される。

3 まとめ

試掘確認調査の結果、鳥畑群が沖積地の広範囲に分布することが判明した。城陽市教育委員会等の関係機関も現地でも調査成果を確認し、小樋尻遺跡の範囲が、従来の想定より西に広がることを確認した。今後、当地での開発行為に際しては、適切な対応が必要となる。（奈良康正・古川 匠）



第54図 調査トレンチ配置図(1/2,500)



第1トレンチ(南西から)



第3トレンチ北壁東部(南から)

第55図 第1・3トレンチ鳥畑検出状況

5 平成 28・29 年における埋蔵文化財の発掘

[1] 平成 28・29 年の動向

平成 28 年度の京都府内における周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は 17,982 件であるが、包蔵地内において実施される土木・建築工事等に際して提出された文化財保護法第 93・94 条に基づく届出・通知は、付表 9 のとおり 2,834 (平成 27 年:2,583) 件であった。これは、前年と比較すると 251 件 (前年比約 10%) 増加している。

このうち、民間の土木・建築工事等に伴う法第 93 条の届出は 2,598 (平成 27 年:2,326) 件で、272 件 (前年比約 12%) の増加である。内訳件数は、京都市 1,429 件、乙訓地域 681 件、山城地域 260 件で、この 3 地域での届出件数の合計は 2,370 件となり、府内全体の約 90% を占める。民間の土木・建築工事の届出は、平成 27 年度と比較して、京都市で 196 件、乙訓地域で 69 件、山城地域で 15 件、丹後地域で 2 件、中丹地域で 11 件の増加となり、ほぼ府域全域で増加傾向を示したが、京都市及び乙訓地域での件数増加が顕著である。また、南丹地域のみが 24 件の減少となった。

一方、公共事業に係る土木・建築工事に伴う法第 94 条の通知は、平成 14 年の 318 件をピークに、平成 20 年には 177 件とおおむね半減したが、それ以降、平成 24 年には 229 件、平成 25 年には 236 件、平成 26 年には 237 件とほぼ横ばい傾向にあった。平成 27 年には、257 件とわずかながら増加していたが、平成 28 年には 236 件と再び減少に転じた。公共事業に係る通知は大規模開発を伴うものが多くみられ、通知数のみならず、開発規模等、内容に応じた対応が必要である。

府内の埋蔵文化財担当職員 (財団法人調査機関の職員含む) は、平成 7 年の 206 人をピークに市町村合併等により減少傾向にある。平成 29 年 4 月 1 日における府内の担当職員の配置数は、平成 27 年度と同数の 147 名 (公益財団法人・嘱託職員等含む) であり、配置市町 (組合) も前年同様に 26 市町村の内 19 (73%) である。定年による退職者の補充がなされるなど、人員的には現行体制を維持することができてはいるが、任期付職員及び若年職員の比率の高まりと、前述のとおり法 93 条に伴う届出件数等の増加と合わせて、文化財担当職員への負担は増加しているものと考えられ、その対応が課題となっている。また、担当職員には専門職員以外が含まれる点も留意する必要がある。

府内では、京都府、向日市、木津川市が、平成 29 年度に文化庁の国庫補助を受け、「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を実施している。この事業は、府民に史跡や埋蔵文化財を通じて地域の歴史により親しみ、理解を深めていただくことを目的として実施している。文化財の活用に対する要望が高まっている昨今、より多くの府内自治体で同事業の展開が期待される。

京都府では、上記事業の名称を「京都の史跡・埋蔵文化財活用事業」とし、その一環で「文化財 1 day バスツアー」及び「京都府遺跡案内」を実施した。前者は小学校高学年児童及び関係者を対象に、丹後地域及び山城地域の史跡等を当課職員の解説により巡るものである。また後者は、恭仁宮跡 (木津川市) を対象に実施し、ともに好評を博した。そのほか、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究

センターへの委託事業として、普及啓発事業と出土品再整理事業も実施した。

また、京都府では、近年各地で多発する地震や豪雨等の自然災害による被害や、過疎化に伴う担い手の減少による散逸の危機が懸念される文化財を保護するため、今年度から新たに「京都府暫定登録文化財」の制度を創設した。この制度は、保護対象を従来よりも広げることによって文化財保護のすそ野を広げることを目的としており、平成29年度は合計1,016件の登録を行った。このうち、考古資料は108件である。さらに、平成29年度には、考古資料11件、史跡1件、天然記念物及び名勝1件を府指定文化財に新たに指定した。

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年の設立以来、1,000件以上の発掘調査を実施し、府内の埋蔵文化財の保護と活用に大きな役割を果たしている。平成29年度は、17件の発掘調査等を実施した。農林水産省近畿農政局が進める国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」や、西日本高速道路株式会社が進める新名神高速道路建設事業をはじめとする大型公共事業に伴う発掘調査において、多くの重要な成果を得ている。その成果は、現地説明会の実施や、ホームページにおける配信、また、考古学講座の実施などにより府民へ還元している。

平成28年度に府内で実施された発掘調査成果の速報展示「発掘された京都の歴史2017」及び企画展示「木とともに生きる～道具のいまむかし～」が開催された。平成29年8月5日から27日に向日市文化資料館で、平成29年9月9日から24日にふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）にて巡回展示され、期間中に2,830名の参加者を得た。今回の展示は、「京都の史跡・埋蔵文化財活用事業」として当教育委員会からの委託事業として公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施した。また、発掘調査成果を府民に広く公開し、活用することを目的に埋蔵文化財セミナーも開催しており、今年度は6月（京丹後市）、8月（京都市）、平成30年2月（木津川市）の計3回実施した。

府立山城、丹後郷土資料館においても府内の発掘調査の成果についての講演会や速報展などを開催している。山城郷土資料館では、6月3日から7月9日まで、特別展「京都茶器物語－喫茶の考古学－」を開催し、中国からお茶が伝わって以来、日本で独自に展開したお茶の楽しみ方と、お茶文化とともに移り変わる器について、桃山茶陶から幕末・明治の蓮月焼・鹿背山焼までの出土品を中心に紹介された。また、例年、当課の史跡恭仁宮跡保存活用調査と連携し、山城内内の小学生以上を対象に実施していた恭仁宮発掘探検隊だが、今年度は悪天候により中止となった。丹後郷土資料館では、10月21日から12月10日まで、特別展「宮津という地に居城を拵え－地中に眠る宮津城－」を開催し、発掘調査の成果に加え、絵図や古文書などから、現在は失われた宮津城の築城から廃城までの姿を紹介した。

平成29年度には、宇治市が宇治古墳群を構成する二子山古墳、及び二子塚古墳の史跡指定を目指し、意見具申を行った。また、史跡乙訓古墳群を構成する古墳のうち、京都市芝古墳及び長岡京市長法寺南原古墳の2基が新たに追加指定され、既に指定されている長岡京市今里大塚古墳及び大山崎町烏居前古墳では条件の整った地域が一部追加指定された。このほかの史跡では、恭仁宮跡、丹波国分寺跡附八幡神社跡において追加指定がなされ、重要な遺跡の保護が図られている。

文化庁は、デジタル技術の急速な発展が、埋蔵文化財保護行政に多大な影響を及ぼしていることに鑑み、デジタル技術の導入について調査研究委員会を設置し、検討を開始している。手始めに『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について1～発掘調査におけるデジタルカメラの導入～』（報告）が平成29年3月に公表された。現在は、『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について2』として、発掘調査報告書のデジタル化について取りまとめが進められている。水中遺跡については、平成29年10月には『水中遺跡保護の在り方について』（報告）が公表され、水中遺跡保護の必要性、現状と課題、その在り方等についての基本的な考え方が示された。また、平成29年4月には、文化庁の本格移転の準備を進めつつ、新たな政策ニーズに対応した事務・事業を先行的に実施するため、京都市内に地域文化創生本部が設置された。文化による地方創生や文化財の活用等、新たな政策ニーズへの対応などを進めるため、平成30年度中に機能強化や抜本的な組織改編を行うとともに、遅くとも平成33年度中に京都府への本格移転を目指すことされている。

(奈良康正)

[2] 府内の主な発掘調査

平成29年1月から12月にかけて行われた主な発掘調査の成果について、時代ごとに概観する。

①縄文時代

長岡京市^{かみかみ}上里遺跡では、縄文時代後期前葉から中葉の土坑を検出した。過去の調査でも土坑が検出され、この時期の遺構の展開が予想される。城陽市^{こしろ}小桶尻遺跡では、市内で初めて縄文時代晩期の堅穴建物、土坑、埋甕が検出された。堅穴建物からは土器片、敲石、サスカイト製石鏃や剥片が出土した。

②弥生時代

京都市南区^{かみかみ}唐橋遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓4基を検出した。そのうち1基は一辺10m以上ある大型の方形周溝墓である。過去の調査でも周辺で方形周溝墓が確認されており、墓域の展開が想定される。左京区^{ささぎ}岡崎遺跡では自然流路や溝を検出した。流路から弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が、溝からは弥生時代後期末の土器が出土した。隣接地の調査でも自然流路の続きを確認し、縄文時代から古墳時代の土器が出土した。八幡市^{みやま}美濃山遺跡では、弥生時代後期の堅穴建物5棟を検出した。堅穴建物には周壁溝が二重、三重に巡るものがあり、建て替えが行われたことがわかる。

③古墳時代

京都市南区^{かみかみ}上久世遺跡では、古墳時代の堅穴建物や掘立柱建物を検出した。堅穴建物は20棟以上検出され、重複関係から複数回の建て替えが行われたことが判明した。西京区^{しほ}芝古墳では、裾部の調査により墳丘の規模が判明した。後円部東側では遺出の可能性のある突出部を確認した。向日市^{いつせ}国史跡^{こほら}五塚原古墳では前方部西側で人為的に掘削した可能性のある窪地を確認した。窪地は南北約35

m、東西約25mの規模で、南側では礫敷が伴う。周囲には堤状の高まりがあり、一体のものとして築造された可能性がある。宇治市^{ふたごやま}二子山古墳では南墳・北墳の裾で調査を実施した。南墳は直径約30mの円墳であることが判明した。盾形・甲冑形埴輪片などが出土した。また北側平面上で北へ延びる石列及び時期不明の大型の掘り込みを検出した。北墳は直径約40mの円墳であることを確認した。城陽市国史跡^{くつわくくるまつか}久津川車塚古墳では、後部西側で渡土堤と考えられる陸橋の施設を確認した。同様の施設は全国で10例程度しか確認されておらず、京都府内では初である。芝山遺跡^{しばやま}では、古墳時代前・中期の方墳2基と埴輪棺3基、後期の円墳2基を新たに確認した。方墳からは銅鏡や大型の勾玉などが出土した。小樋尻遺跡^{こひがし}では、庄内期の竪穴建物13棟、掘立柱建物1棟、溝2条と古墳時代後期の竪穴建物7棟、溝2条を検出した。庄内期・後期それぞれの溝から土器が大量に出土した。八幡市^{みやま}美濃山遺跡では、竪穴建物4棟と方墳状遺構1基を検出した。方墳状遺構は墳丘が確認されず、幅1～3mの溝が一辺9mの方形の周囲に巡る。溝の上層から奈良時代の土器が多量に出土しており、この時期に削平、埋没したとみられる。井手町^{みやとけつが}北大塚古墳群では、古墳時代後期の横穴式石室墳4基を検出し、群集墳であることが判明した。石室には天井石や側壁は残存しないが、耳環や須恵器、土師器が出土した。南丹市^{みなみ}カシツケ古墳では、埴輪や葺石を伴う中期古墳であることを確認した。原ヶ谷古墳^{はらがや}では主体部を調査し、葺石を持たない木棺直葬の中期古墳であることを確認した。京丹後市^{みやま}丹波丸山古墳では、古墳時代前期の円墳7基を調査した。1基では5基の埋葬施設を持ち、うち2基で丹後地域に多く見られる舟底状木棺の痕跡を確認した。京丹後市国史跡^{あみのちやうしやま}網野鏡子山古墳では前方部北東裾で基底石とみられる石列を検出した。

④古代

[飛鳥・奈良時代]長岡京市^{こうたけ}神足遺跡では、飛鳥時代の竪穴建物3棟、奈良時代の柱穴列や溝などを検出した。過去の調査でも竪穴建物や掘立柱建物が見つかっており、集落が展開すること判明した。城陽市^{こひがし}小樋尻遺跡では、飛鳥時代の竪穴建物2棟を検出した。竪穴建物の竈からは土師器高杯3個が伏せられた状態で出土し、周囲には土師器甕の破片が散らばっていた。奈良時代の溝、柵列、柱穴群も検出され、調査地周辺で継続的に集落が展開すると想定される。八幡市^{みやま}美濃山遺跡では、奈良時代の掘立柱建物8棟と柵を検出した。建物はいずれも小規模で、方位を違えることから、一般的な集落跡と考えられる。木津川市国史跡^{くにながやま}恭仁宮跡では、朝堂院東辺を区画する掘立柱塀の北端の柱穴を検出した。これにより、大極殿院の規模は従来より南北に長くなり、平城宮第一次大極殿院と類似する形態の可能性が高くなった。木津川市^{きつがは}岡田国遺跡では、奈良時代中期の道路跡や掘立柱建物群、溝群を検出した。道路跡は東西・南北方向に直交する交差点を確認した。建物群は道路と溝で区画された範囲に方位をそろえて建てられていた。溝群は東西方向に一定の間隔で並んでおり、建物群に付随して耕作を行っていた跡であると考えられている。公的な施設が存在したとみられ、恭仁京との関係が想定される。亀岡市^{かめおか}佐伯遺跡では、奈良・平安時代の掘立柱建物6棟を検出した。踏脚円面硯や墨書土器が出土し、公的な施設が存在したと考えられる。隣接する調査地では、奈良・平安時代の瓦の堆積や柱穴列を検出した。出土した瓦には、綾部市^{あやべ}綾中麿寺と同范のものが含まれる。また、瓦塔

の破片が出土している。柱穴列は瓦の堆積の下層で南北9間以上を確認した。掘立柱塼が存在したとみられ、寺院などの施設を区画するものと推測される。これまで未確認の古代寺院が存在した可能性がある。また、平安時代前期の溝を検出し、木簡や墨書土器が出土した。亀岡市千代川遺跡では、奈良・平安時代の溝や平安時代前期の掘立柱建物2棟を検出した。溝からは大量の土器とともに墨書土器が出土した。舞鶴市田畔遺跡では、飛鳥・奈良時代の竪穴建物5棟、掘立柱建物2棟を検出した。竪穴建物の竪からは、土器3個が伏せられた状態で出土した。

〔長岡京期〕向日市国史跡長岡宮跡第521次では、内裏外郭南面築地跡を確認した。遺構は築地基礎の盛土や雨落ち溝が見つかり、軒瓦が出土した。内裏内郭と外郭の距離は39mを測り、平安宮の内裏と構造が類似していることが判明した。長岡京市長岡京跡左京第594次では、二条条間南小路の両側溝と路面、町内溝などを検出した。右京第1158次では、掘立柱建物3棟や大型土坑群を検出した。建物のうち1棟は、規模が7間×2間で東面に庇の付く大型建物である。過去の調査でも同規模で南・北面に庇の付く大型建物が隣接地点で見つかっており、1町規模の貴族や皇族の邸宅が存在したとみられる。右京第1159次では、西二坊坊間小路の東西側溝と六条条間小路の南側溝を検出し、両者の交差点を確認した。交差点では、西二坊坊間小路の側溝が六条条間小路の側溝に優先していることが判明した。西二坊坊間小路の西側溝は幅約3.5m、深さ約1.2mを測り、長岡京の条坊側溝の中では最大規模である。

〔平安時代〕京都市上京区公家町遺跡では、平安時代前期の東西方向の溝を検出した。調査地は平安京外だが、溝は一条大路北側溝の延長線上にほぼ一致しており、京外にも道路が伸びていた可能性がある。中京区平安宮跡では、豊楽院清暑堂の基壇外装の延石抜き取り溝を確認した。これにより、清暑堂の西縁が確定し、基壇の東西幅は33～34mであると推定される。平安京左京二条三坊十五町跡では、平安時代後期の石敷きの雨落ち溝を検出した。調査地は大炊殿推定地であり、これに関連する遺構の可能性がある。右京三条三坊五町跡では、平安時代前期の掘立柱建物4棟を検出した。最も大型の建物は、当初は5間×2間の規模で南・北面に庇の付く建物で、後に7間×2間の規模で南面に庇の付く建物に建て替えられていることが判明した。これは平安京内で最大級の建物となる。周辺の過去の調査でも大型建物が複数検出され、1町規模の貴族の邸宅があったと考えられる。また、宅地内の溝から緑釉陶器や灰釉陶器が大量に出土した。南区国史跡西寺跡では、平安時代前期の井戸や東西方向の溝2条を検出した。溝の性格は、西寺大衆院の南限溝と、雨落ち溝もしくは区画溝と考えられる。左京九条三坊九町跡では、平安時代末期のガラス製水滴が出土した。中国産とみられ、類品は国内に伝比叡山出土の1例しかない。調査地ではほかにも中国産陶磁器や各地の土器が多数出土しており、物流の拠点であったと考えられる。また、仏堂とみられる建物跡や池跡が検出され、八条院町に関連する施設があった可能性がある。左京区白河街区跡・円勝寺跡・成勝寺跡では、平安時代後期から室町時代の円勝寺の南限とみられる溝を検出した。北限の溝はすでに確認されており、境内は南北約100mであったと推定される。輪羽口やベンガラなどが出土し、寺院の修理・維持管理をする施設があったと推測される。隣接する調査地では、平安時代後期～鎌倉時代の溝を検出した。二条大路末の南側溝であるとみられ、5時期の再掘削が判明した。白河街区跡では、平安時代後期から鎌倉時代

の南北方向の 2 条の平行する溝を検出した。白河街区の街路に関連する遺構と推定される。如意ヶ嶽の山中では、礎石建物 2 棟が検出された。周辺では平安時代前期の土器や瓦が出土し、「檜尾古寺」跡に関連する遺構の可能性がある。大山崎町国史跡**大山崎瓦窯跡**では、平安時代前期の瓦窯 2 基を新たに確認した。これにより、12 基の瓦窯の存在が明らかとなった。また、瓦の廃棄土坑を検出した。約 40 枚の軒丸瓦が出土し、一部は嵯峨院所用瓦と同范であることが判明した。宮津市**安国寺遺跡**では、平安時代前期の方形柱穴 2 基を検出した。昨年の調査で見つかった柱穴列と一直線に並ぶことから、一連の建物跡であるとみられる。柱穴の規模から、丹後国府に関連する建物跡である可能性が高い。

⑤中世

京都市上京区**公家町遺跡**では、「天正拾八年十月吉日」と線刻された瓦が出土した。豊臣秀吉の寺町・公家町造営に伴う資料とみられ、考古資料から造営時期が特定されるのは初である。中京区**平安京左京四三条三坊二町跡**では、鎌倉時代後期から室町時代前期の地下室を検出した。床面には直径 20cm の礫を並べ、周辺には小礫を敷き詰めるという、特異な構造であることを確認した。下京区**左京五条三坊六町跡**では、平安時代から江戸時代の井戸、土坑、掘立柱建物などを多数検出した。室町時代後期の土坑からは水晶の剥片が大量に出土した。水晶を扱う工房があったと推定される。**左京八条四坊二町跡**では、鎌倉時代から江戸時代の東洞院大路の路面と東側溝を確認した。溝は室町時代に掘り直され、江戸時代初頭に埋没したことが判明した。南区**左京九条三坊九町跡**では、鎌倉時代から室町時代前期の多数の掘立柱建物や池跡を検出し、土地利用の変遷が明らかとなった。建物は鎌倉時代に最も増加するが、その後減少して室町時代前期には農地へと変わることが判明した。伏見区**伏見城跡**では、城下町の区域で武家屋敷に伴う石垣と石組溝を検出した。調査地は山内一豊か堀秀政の屋敷跡であると推定される。別の武家屋敷地では、豊臣期の石垣、根石と徳川期の石垣の裏込、石組溝を検出した。また、豊臣期の石垣前面に接する焼土層が確認され、慶長五年（1600）の伏見城の戦いに伴うものと推定された。石組溝からは大量の瓦が出土した。向日市**物集女城跡**では、主郭内から室町時代から戦国時代の礎石を伴う柱穴や土堀に付随するとみられる溝を検出した。物集女城関連の建物遺構が検出された初の事例である。長岡京市**乙訓寺**では、東西方向の溝 2 条を検出した。それぞれ中世・近世の乙訓寺の南限溝であると考えられる。宇治市国史跡**宇治川太閤堤跡**では、護岸施設である石出しと杭出しの遺構を確認した。水流を川の中央に集め、護岸を保護する当時の技術が明らかとなった。

⑥近世

京都市上京区**公家町遺跡**では、江戸時代前期の東西方向の溝と並行する柱穴列を検出した。絵図から、松木家と四辻家の邸宅の境界溝であると推測される。また、織部焼や京焼などの陶器の優品がまともって出土した。中京区**平安京左京二条四坊十一町跡**では、桃山時代から江戸時代前期の土坑や井戸を検出した。土坑からは、鑞羽口や鉄滓など鍛冶に関する遺物が出土した。また、大和型の羽釜がまともって出土しており、炭化物や朱が付着しているものがみられた。（岡田健吾）

付表8 平成28年度埋蔵文化財担当者及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧

(平成29年4月1日現在)

市町村	年度等	26				27				28				周知の埋蔵文化財包蔵地
		職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	
京 都 府		9		32	41	9		32	41	9		32	41	
京 都 市		10		35	45	12		37	49	12		37	49	1,381
丹 後	京丹後市	3			3	3			3	3			3	6,236
	伊根町				0				0				0	19
	与謝野町	2	1		3	1	1		2	1	1		2	1,716
	宮津市	1			1	2			2	2			2	334
中 丹	舞鶴市	1			1	2			2	2			2	873
	福知山市	3			3	3			3	3			3	1,721
	綾部市	2			2	1			1	1			1	1,378
南 丹	亀岡市	1	1		2	2	1		3	2	1		3	1,249
	南丹市	1			1	1			1	1			1	882
	京丹波町				0				0				0	130
乙 訓	向日市	2	1	5	8	3	1	5	9	3	1	5	9	95
	長岡京市	3		6	9	3	1	5	9	3	1	5	9	170
	大山崎町	1			1	2			2	2			2	33
山 城	宇治市	4	3		7	4	3		7	4	3		7	305
	久御山町		1		1				0				0	9
	城陽市	2			2	2			2	2			2	231
	八幡市		2		2	1	2		3	1	2		3	169
	京田辺市	1			1	1			1	1			1	263
	宇治田原町				0				0				0	87
	井手町		1		1		1		1		1		1	103
	木津川市	3	1		4	3	1		4	3	1		4	453
	精華町	2			2	1	1		2	1	1		2	105
	和東町				0				0				0	23
	笠置町				0				0				0	7
	南山城村				0				0				0	10
	合 計		51	11	78	140	56	12	79	147	56	12	79	147

※周知の埋蔵文化財包蔵地の件数については、公開された遺跡地区により把握したものである。

※各市町村欄には、市町村単位での周知の埋蔵文化財包蔵地数を示し、合計欄にその総計を示している。

付表9 平成28年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧

市町村	土木工事による発掘			埋蔵文化財発掘調査			文化財認定	
	届出	通知	計	届出	報告	計		
丹後	京丹後市	13	4 (3)	17 (3)	2	7	9	5
	宮津市	4 (1)	3	7 (1)	0	1	1	0
	与謝野町	3	2 (1)	5 (1)	0	3	3	1
	伊根町	0	0	0	0	0	0	0
	小計	20 (1)	9 (4)	29 (5)	2	11	13	6
中丹	舞鶴市	10	1 (1)	11 (1)	1	0	1	1
	福知山市	49 (2)	13 (4)	62 (6)	1	6	7	0
	綾部市	10 (3)	1	11 (3)	0	1	1	1
	小計	69 (5)	15 (5)	84 (10)	2	7	9	2
南丹	亀岡市	107 (24)	3 (1)	110 (25)	1	4	5	4
	南丹市	31	3 (1)	34 (1)	0	0	0	0
	京丹波町	1 (1)	0	1 (1)	0	0	0	0
	小計	139 (25)	6 (2)	145 (27)	1	4	5	4
乙訓	向日市	241 (10)	27 (1)	268 (11)	13	0	13	13
	長岡京市	345 (21)	23 (3)	368 (24)	18	0	18	16
	大山崎町	95 (6)	2	97 (6)	0	5	5	6
	小計	681 (37)	52 (4)	733 (41)	31	5	36	35
山城	宇治市	73 (11)	17	90 (11)	0	3	3	2
	久御山町	1 (1)	2	3 (1)	0	0	0	0
	城陽市	42 (4)	0	42 (4)	3	4	7	5
	八幡市	50 (5)	12	62 (5)	2	6	8	5
	京田辺市	62 (5)	3 (2)	65 (7)	0	2	2	0
	宇治田原町	2	0	2	1	1	2	3
	井手町	4	3 (1)	7 (1)	2	0	2	2
	木津川市	25 (4)	11 (1)	36 (5)	1	2	3	1
	精華町	1 (1)	0	1 (1)	0	1	1	0
	和東町	0	0	0	0	0	0	0
	笠置町	0	0	0	0	0	0	0
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0
	小計	260 (31)	48 (5)	308 (36)	9	19	28	18
	京都市	1,429 (124)	106 (16)	1,535 (140)	39	137	176	37
合計	2,598 (223)	236 (36)	2,834 (259)	84	183	267	102	

※（ ）内は発掘調査を指示した件数である。

付表 10 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧

地域	年度 25	26			27			28			合計
		届出	通知	小計	届出	通知	小計	届出	通知	小計	
丹 後	22	7	9	16	18	7	25	20	9	29	92
中 丹	59	42	14	56	58	12	70	69	15	84	269
南 丹	168	129	4	133	161	2	163	138	6	144	608
乙 訓	661	518	47	565	612	55	667	681	52	733	2,626
山 城	355	266	33	299	244	43	287	259	48	307	1,248
京都市	1,235	1,038	130	1,168	1,233	138	1,371	1,429	106	1,535	5,309
合 計	2,500	2,000	237	2,237	2,326	257	2,583	2,598	236	2,834	7,654

付表 11 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧

地域	年度 25	26			27			28			合計
		届出	報告	小計	届出	報告	小計	届出	報告	小計	
丹後	5	0	4	4	2	3	5	2	11	13	27
中丹	6	1	8	9	1	7	8	2	7	9	32
南丹	19	3	9	12	2	0	2	1	4	5	38
乙訓	44	37	7	44	32	7	39	31	5	36	163
山城	31	5	12	17	7	17	24	9	19	28	100
京都市	185	29	110	139	41	128	169	39	137	176	669
合 計	290	75	150	225	85	162	247	84	183	267	1,029

付表 12 埋蔵文化財認定件数一覧

地域	年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	合計
丹 後		11	14	5	12	3	3	2	3	2	6	61
中 丹		9	7	11	4	2	5	2	7	5	2	54
南 丹		32	24	8	7	8	5	6	11	4	4	109
乙 訓		38	56	42	43	42	38	46	32	46	35	418
山 城		39	30	27	25	25	23	25	21	13	18	246
京都市		43	32	98	101	53	61	63	41	39	37	568
合 計		172	163	191	192	133	135	144	115	109	102	1,456

付表13 平成29年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧

事業主体	発掘調査等		地域の特色ある埋蔵文化財活用事業
	事業名	内容等	事業内容等
京都府	恭仁宮跡ほか	各種開発確認、農業基盤整備本調査、保存目的、詳細分布調査等	遺跡見学会、バスツアー、普及啓発冊子作成
京都市	平安京跡ほか	各種開発確認、個人住宅、零細企業、保存目的、詳細分布調査等	
向日市	長岡京跡ほか	個人住宅、各種開発確認、零細企業発掘調査、保存目的、出土遺物保存処理	体験学習、市民考古学講座、史跡案内人配置、講演会、石室公開
長岡京市	長岡京跡ほか	各種開発確認、保存目的、出土遺物保存処理	
大山崎町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的	
宇治市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
城陽市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
八幡市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
木津川市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	鏡複製品作成、普及啓発冊子作成
井手町	町内遺跡	個人住宅、各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
亀岡市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査、詳細分布調査等	
南丹市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的、出土遺物保存処理	
京丹波町	町内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等	
綾部市	市内遺跡	各種開発確認、出土遺物保存処理	
福知山市	市内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	
宮津市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
京丹後市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査、保存目的、詳細分布調査等	
与謝野町	町内遺跡	農業基盤整備本調査、保存目的	

付表14 平成29年度(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧

【発掘調査・委託事業】

番号	遺跡名	所在地	委託者	関連工事名
1	芝山遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
2	下水主遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
3	美濃山遺跡	八幡市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
4	阿良須遺跡	福知山市	国土交通省近畿地方整備局 福知山河川国道事務所	河川築堤事業
5	上野遺跡	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
6	岡田園遺跡ほか	木津川市	国土交通省近畿地方整備局 京都国道事務所	道路建設事業
7	北大塚古墳	井手町	府教育委員会	施設建設事業
8	佐伯遺跡	亀岡市	農林水産省近畿農政局	ほ場整備事業
9	丹波丸山古墳群	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
10	月出遺跡	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
11	寺町旧城・法成寺跡	京都市	府教育委員会	施設建設事業
12	女布遺跡	京丹後市	府農林水産部	ほ場整備事業
13	東光寺跡	舞鶴市	国土交通省近畿地方整備局 福知山河川国道事務所	道路建設事業
14	伏見城跡	京都市	府健康福祉部	施設建設事業
15	平安京跡	京都市	府警察本部	施設建設事業
16	水主神社東遺跡	城陽市	国土交通省近畿地方整備局 京都国道事務所	道路建設事業
17	三日市遺跡	亀岡市	府南丹土木事務所	道路建設事業
18	出土文化財再整理事業	-	府教育委員会	出土品再整理
19	普及啓発事業	-	府教育委員会	普及啓発事業

【普及啓発】

- 1 刊行図書
『京都府遺跡調査報告集』第 171 冊～第 176 冊
『京都府埋蔵文化財情報』第 131・132 号
『もっと知りたい 京都の遺跡』創刊号・第 2 号
- 2 埋蔵文化財セミナー・シンポジウム
第 135 回『丹後国独立!?』～遺跡が語る古代の丹後～
平成 29 年 6 月 10 日（土） 於：京都府立丹後郷土資料館
菱田哲郎「律令国家のなかの丹後国」（京都府立大学）
河森一浩「丹後国府を探る～宮津市府中地区の調査～」(宮津市教育委員会)
筒井崇史「丹後の先進技術～塩・鉄・織物～」
第 136 回『秀吉の京都大改造』～首都構想の謎に迫る～
平成 29 年 11 月 26 日（日） 於：イオンモール京都桂川
鋤柄俊夫「秀吉の城づくりと町づくり～秀吉の目指した首都とは～」(同志社大学)
綾部侑真「寺町の形成とその意義」
古川 匠「発掘調査と地表探査から迫る聚楽第の姿」（京都府教育委員会）
第 137 回『木津川流域の遺跡を読み解く』
平成 30 年 2 月 24 日（土） 於：相楽会館
大坪州一郎「奈良の都と木津川」（木津川市教育委員会）
石井清司「木津川流域にひろがる古代寺院」
村田和弘「木津川沿いの古道と遺跡」
- 3 展覧会・体験講座
発掘された京都の歴史 2017 ～木とともに生きる～
平成 29 年 8 月 5 日～ 27 日 於：向日市文化資料館
平成 29 年 9 月 9 日～ 24 日 於：府立山城郷土資料館
夏休み考古学体験講座 勾玉をつくろう！
平成 29 年 8 月 16 日～ 18 日 於：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 研修室
- 4 共同研究
田原葉月・綾部侑真・引原茂治・武本典子「平安京域における 16～17 世紀にかけての輸入陶磁器」
筒井崇史・内藤 京「出土土器からみた官衙と集落の比較検討」
竹村亮仁・荒木瀬奈「京都府内における横穴式石室導入期の古墳の検討」

付表15 平成28年度発掘調査報告書等刊行状況

【報告書等】

- ・『京都府埋蔵文化財調査報告書』平成28年度 京都府教育委員会 平成29年3月(恭仁京跡、女布遺跡、千代田遺跡、鹿野山瓦窯跡群、川向遺跡)
- ・『京都府遺跡調査報告集』第168集 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成29年3月(下水主遺跡、女谷・荒坂横穴群、御毛通古墳群)
- ・『京都府遺跡調査報告集』第169集 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成29年3月(平安京跡、東本願寺前古墓群)
- ・『京都府遺跡調査報告集』第170集 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成29年3月(長岡京跡、殿長遺跡、井ノ内遺跡、今里遺跡、下水主遺跡)
- ・『京都市内遺跡発掘調査報告』平成28年度 京都市文化市民局 平成29年3月
- ・『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成28年度 京都市文化市民局 平成29年3月
- ・『京都市内遺跡試掘調査報告』平成28年度 京都市文化市民局 平成29年3月
- ・『平成28年度重要遺跡出土文化財整理報告』京都市文化市民局 平成29年3月
- ・『平安京左京四条三坊四町跡・烏丸小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-15 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成28年5月(平安京、烏丸小路遺跡)
- ・『平安京右京六条四坊一町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-1 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成28年8月(平安京、西京極遺跡)
- ・『平安京右京七条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-2 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成28年9月(平安京、烏丸小路遺跡)
- ・『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-3 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成28年9月(法住寺殿跡)
- ・『平安京右京九条一坊九町跡・唐橋遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-4 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成28年12月(平安京跡、唐橋遺跡)
- ・『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年1月(植物園北遺跡)
- ・『平安京右京八条三坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-7 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年2月(平安京跡)
- ・『平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-8 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年3月(平安京跡、烏丸小路遺跡)
- ・『史跡教王護国寺境内・平安京跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年3月(史跡教王護国寺境内、平安京跡)
- ・『平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年3月(平安京跡、烏丸御池遺跡)
- ・『御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-11 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年3月(御土居跡)
- ・『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-12 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29年3月(白河街区跡、吉田上大路町遺跡)
- ・『平安京左京八条一坊一町跡・御土居跡』国際文化財株式会社西日本支店 平成28年11月(平安京跡、御土居)
- ・『平安京左京八条二坊十五町跡』国際文化財株式会社西日本支店 平成28年7月20日(平安京跡)
- ・『平安京左京一条四坊十三町跡』国際文化財株式会社西日本支店 平成29年3月(平安京跡)
- ・『京大大学構内遺跡調査研究年報2015年度』京大大学文化財総合研究センター 平成29年3月(京大古田南構内)
- ・『平成28年度京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書』京都市文化市民局 平成29年3月(鳥羽羅宮跡)
- ・『史跡城跡(天守台跡)』伏見城研究会発掘調査報告書2017 伏見城研究会 平成29年2月
- ・『長岡京跡・大蔵遺跡』イビソク京都市内遺跡発掘調査報告13株式会社イビソク 平成28年9月(大蔵遺跡、長岡京跡)
- ・『平安京左京五条三坊七町跡・烏丸小路遺跡』白楽天町集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 イビソク京都市内遺跡発掘調査報告第15集 株式会社イビソク 平成29年3月(平安京跡、烏丸小路遺跡)
- ・『平安京右京三条一坊十町 西ノ京永本町の調査』古代文化調査会 平成28年8月(平安京跡)
- ・『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-13 公益財団法人京都市埋

- 蔵文化財研究所 平成29年3月
- ・「京都大学構内遺跡調査研究年報2015年度」京都大学文化財総合研究センター 平成29年3月（熊鷹院川原町遺跡、吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡）
 - ・「長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選」7 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成28年10月（今里遺跡、神足遺跡、勝龍寺城跡、長岡京跡）
 - ・「雲宮遺跡発掘調査報告書（補遺編）」古代学協会研究報告第13輯 公益財団法人古代学協会 平成29年3月
 - ・「長岡京跡・西小路遺跡」向日市埋蔵文化財調査報告書第103集 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 平成28年5月（長岡京跡、修理式遺跡、南条遺跡、芝々本遺跡、西小路遺跡、鶴田遺跡、中福知遺跡、洗川遺跡）
 - ・「長岡京跡・中海道遺跡」向日市埋蔵文化財調査報告書第105集 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 平成28年3月（長岡京跡、中海道遺跡、笹屋遺跡、中福知遺跡）
 - ・「向日市埋蔵文化財調査報告書第106集 長岡京跡ほか」向日市教育委員会 平成29年3月（長岡京跡、長岡京跡、五塚原古墳、物集女城跡、中海道遺跡）
 - ・「長岡京市埋蔵文化財調査報告書」第57集 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成28年10月（友岡遺跡、長岡京跡）
 - ・「長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選」8 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 平成29年3月
 - ・「長岡京市文化財調査報告書」第70冊 長岡京市教育委員会 平成29年3月（井ノ内車塚古墳、長岡京跡）
 - ・「大山崎町埋蔵文化財調査報告書第50集 -平成28年度国庫補助事業調査報告-」大山崎町教育委員会 平成29年3月（石倉集石遺跡、白味才遺跡、大山崎遺跡群）
 - ・「城陽市埋蔵文化財調査報告書」第71集 城陽市教育委員会 平成28年6月（小橋風遺跡）
 - ・「城陽市埋蔵文化財調査報告書」第72集 城陽市教育委員会 平成29年3月（青塚古墳、石神遺跡、北垣内遺跡、塚本東遺跡）
 - ・「平成28年度国庫補助事業発掘調査報告書」八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書第64集 八幡市教育委員会 平成29年3月（馬場遺跡）
 - ・「市内遺跡発掘調査報告書」亀岡市文化財調査報告書第93集 亀岡市教育委員会 平成29年3月（篠栗業生産遺跡群（芽ヶ尾地区）、高野林城跡、井手遺跡、千代川遺跡、東加舎遺跡、西加舎遺跡）
 - ・「南丹市内遺跡発掘調査報告書11」南丹市文化財調査報告書第26集 南丹市教育委員会 平成29年3月（宮越古墳、カシツケ古墳）
 - ・「福知山市文化財調査報告書」第63集 福知山市教育委員会 平成29年3月（川北遺跡）
 - ・「平成28年度 市内遺跡発掘調査報告書」京丹後市文化財調査報告書第14集 京丹後市教育委員会 平成29年3月（左坂南古墳群、大宮亮神社遺跡、井谷遺跡、丹波丸山古墳群）
 - ・「女布遺跡発掘調査報告書Ⅲ」京丹後市文化財調査報告書第15集 京丹後市教育委員会 平成29年3月（女布遺跡）
 - ・「湯田山1号墳発掘調査概報Ⅱ」京丹後市文化財調査報告書第16集 京丹後市教育委員会 平成29年3月（湯田山1号墳）
 - ・「平成28年度与謝野町国庫補助事業発掘調査報告書」与謝野町文化財報告書 与謝野町教育委員会 平成29年3月（梅谷遺跡、地蔵山遺跡）
- 【雑誌等】**
- ・「京都府埋蔵文化財情報第130号」公益財団法人京都府埋蔵文化財センター 平成28年10月（平成27年度京都府内の埋蔵文化財調査（森 正）／追悼 上田正昭先生（井上満郎）／前理事長・上田正昭先生の御逝去を悼む（小谷昌弘・磯野浩光）／平成27年度発掘調査略報（阿良須遺跡第1次／平安京跡（平安京左京一条三坊二町）／美濃山遺跡第4次／女谷・荒坂横穴群第14次／下水主遺跡第9次・水主神社東遺跡第7次／祖田遺跡・砂川遺跡）／長岡京跡調査だより・126／現地公開状況（平成28年3月～平成28年8月）／普及啓発事業（平成28年3月～平成28年8月）／センター動向（平成28年3月～平成28年8月））
 - ・「京都府埋蔵文化財情報第131号」公益財団法人京都府埋蔵文化財センター 平成29年3月（「日本海沿岸における弥生時代水製品にみる地域間交流－桶形容器を中心に－」（高野陽子・福山博章）／「日本海沿岸の貿易陶磁」（織部信真・竹村亮仁・伊野近富）
 - ・「近世城郭から考える諸問題」第23回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 京都府埋蔵文化財研究会 平成28年12月（福知山城について（松本学博）／田辺城跡（松本達也）／宮津城下の成立と展開について（東高志）／神足城館について（福島克彦・原秀樹）／木幡山伏見城大名屋敷の空間復元について－「鳥津石馬頭」屋敷地の発掘調査事例を中心に－（山下大輝）／伏見城開運、山城大塚・小山石切丁場（一瀬和夫・藤崎根根美）／城郭石垣の課題（森島康雄）／大阪城と加茂・笠置の切石（芝野康之）／成相寺田代目の調査（河森一浩）／上中城の発掘調査（園下多美穂・神所尚輝）
 - ・「洛史 研究紀要第11号－京都市埋蔵文化財研究所設立40周年記念号－」公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平成29

- 年 3 月 (京都市伏見区深草「仁明陵北側地点」出土埴輪の検討-「仁明陵北古墳」と「深草瓦町古墳」-(辻川哲朗) / 古墳時代の土器転用カマド-京都市西京極遺跡の事例-(柏田有香) / 平安京跡出土の牛馬骨の解釈に関する問題点 (丸山真史) / 北山七重大塔の所在地について (上) (東洋一) / 不良品の大量 (吉崎伸) / 聚楽第武家屋敷敷地出土軒平瓦に関する一試論-大相の瓦工人による造瓦の可能性-(山下大輝) / 洛西竹林公園石仏調査レポート (丸川義広) / 木野・榎枝カワラケ (土師器皿) 製作技法の復元的研究 (東洋一) / 韓国の「製瓦匠」からみる近代日韓製瓦技術の交流 (李銀漢) / 「京都牧畜場」鉢ガラス瓶について (関広高世)
- ・「都城 28」平成 28 年 10 月 (「長岡京廃都に伴う祭祀の一形態-長岡京跡左京第 486 次調査検出の祭祀跡-」(松崎俊郎))
 - ・「長岡京市埋蔵文化財センター年報」平成 27 年度 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター平成 29 年 3 月
 - ・「木津川・淀川流域における弥生-古墳時代集落・墳墓の動態に関する研究」同志社大学歴史資料館調査研究報告集第 14 集 平成 29 年 3 月 (京都盆地の弥生時代動態 (伊藤淳史) / 淀川流域の弥生時代遺跡群の動態 (濱田延光) / 弥生墓制からみた淀川・木津川水系の集団関係 (藤井整) / 山城地域の古墳時代集落の動態 (古川匠) / 交野の古墳時代集落動態 (宇野隆志) / 金属器生産からみた木津川・淀川流域の弥生-古墳時代集落 (真鍋成史) / 集落と墳墓の立地からみた弥生-古墳の社会変化 (若林邦彦) / 木津川・淀川流域の弥生-古墳時代集落遺跡調査データ (若林邦彦・手島美香))
 - ・「京都橘大学大学院研究論集」第 15 号 平成 29 年 3 月 (ゴーランド・コレクション報告 玉類について (竹村亮仁) / 伏見桃山城 (桃山陵墓地) および山科石切場の欠穴からみた砕石技術の変遷 (試案) (福家恭・高田祐一・広瀬脩希) / 「桃山陵墓地」への立入り調査の報告 (中川亀造・永井太一郎・池部龍夫・久保孝・青地一郎・武内良一) / 伏見桃山城跡の石材 (奥田高) / 木幡伏見城跡の桃山陵墓地内観察と「豊徳」期城郭提唱の意義 (森岡秀人) / 京都橘大学共同研究プロジェクトによる伏見桃山城 (桃山陵墓地) の見学会の概要 (一瀬和夫・垣内彰那))
 - ・「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像-研究史の再構築」平成 29 年 3 月 (「明治期の公文書にみる鹿谷古墳群出土品」(土屋隆史) / 「京都でのワークショップについて」(菱田哲郎))
 - ・「丹波」第 10 号 丹波の文化を伝承する会 平成 29 年 3 月 (「羽衣伝説」雑感 (吉野健一) / 丹波地域王権の祭儀-浅後谷南遺跡の導水祭祀-(高野陽子) / 海部氏「論注系図」の疑問 (藤村裕孝) / 京丹後市出土の鏡 (吉田誠))
 - ・「丹後の海」の歴史と文化」平成 29 年 3 月 (「宮津市府中地区の板碑調査から」(菱田哲郎))
 - ・「古代文化」第 68 巻第 2 号 平成 28 年 6 月 (「平安京跡左京四条一坊二町出土の木簡」(吉野秋二))
 - ・「古代文化」第 68 巻第 3 号 平成 28 年 12 月 (「平安京の宅地分布と園地」(家原圭太))
 - ・「奈良文化財研究所紀要 2016」平成 28 年 6 月 (「奈良山須志器窯の分布調査」(神野恵・尾野善裕))
 - ・「都城制研究 (11) 日本古代の都城を造る」平成 29 年 3 月 (「長岡・平安京の造成の実態」(西森正晃))
- 【図録等】**
- ・「山城の二大古墳群-乙訓古墳群と久津川古墳群-」府立山城郷土資料館 平成 28 年 10 月
 - ・「35 年のあゆみ (1981 ▶ 2016)」公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成 29 年 3 月
 - ・「maibun35 kyoto-fu」公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成 29 年 3 月
 - ・「第 30 回小さな展覧会 平成 26・27 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報」公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 平成 28 年 8 月
 - ・「天下人の城 附 第 34 回京都市指定・登録文化財」京都市文化財ボックス第 31 集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 平成 29 年 3 月
 - ・「川と人々の暮らし」平成 28 年度夏期特別展図録 城陽市歴史民俗資料館 平成 28 年 7 月
 - ・「明智光秀の生涯と丹波」福知山市 平成 29 年 3 月

付表16 平成28年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧

(92条に基づく報告)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	嵯峨遺跡	京都市右京区嵯峨 天竜寺若宮町25- 1・3・4・6・7、 29-9、20-71、 21-1、33	有限会社京都平安文 化財代表取締役	植山 茂・入江正剛	平成28年3月22日～ 平成28年11月30日
2	平安京跡	京都市上京区下長 者町通新町西入敷 ノ内町42番地	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	中川和哉・岡崎研一・ 綾部佑真・田原業月	平成28年4月4日～ 平成28年10月28日
3	芝山遺跡	城陽市富野中ノ芝 71ほか	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	岩松 保・増田孝彦・ 筒井崇史・橋本 稔・ 清水早織	平成28年4月14日～ 平成29年1月30日
4	組田遺跡	宇治田原町岩山組 田、柳定寺砂川	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	岩松 保・加藤雅士	平成28年4月11日～ 平成28年8月30日
5	法住寺殿跡	京都市東山区 三十三間堂廻り町 642、657	公益財団法人京都市 埋蔵文化財研究所長	布川豊治・中谷正和	平成28年4月4日～ 平成28年5月27日
6	長岡京跡関連遺跡	長岡京市下海印寺 菩提寺13番1	公益財団法人長岡京 市埋蔵文化財セン ター理事長	中島皆夫	平成28年4月18日～ 平成28年5月11日
7	長岡京跡・東代遺跡	長岡京市天神三丁 目33-1ほか	公益財団法人長岡京 市埋蔵文化財セン ター理事長	中島皆夫	平成28年4月25日～ 平成28年5月20日
8	阿良須遺跡	福知山市大江町北 有路大坪ほか	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	中川和哉・竹原一彦	平成28年4月20日～ 平成28年9月20日
9	丹波丸山古墳群	京丹後市峰山町丹 波大糸	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	細川康晴・高野陽子・ 引原茂治・荒木瀬奈	平成28年5月9日～ 平成28年10月28日
10	佐伯遺跡	亀岡市神田野町佐伯	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	細川康晴・村田和弘・ 黒坪一樹	平成28年5月2日～ 平成29年2月27日
11	長岡京跡	長岡京市神足太田 1-1、1-27、 2-7	公益財団法人長岡京 市埋蔵文化財セン ター理事長	木村泰彦	平成28年5月9日～ 平成28年6月2日
12	平安京跡・西寺跡・ 唐橋遺跡	京都市南区唐橋門 脇町23番地2	公益財団法人京都市 埋蔵文化財研究所長	李銀眞	平成28年5月9日～ 平成28年6月30日
13	平安京跡・西院遺跡	京都市右京区西院 南寿町19・20	古代文化調査会代表	水谷明子	平成28年5月9日～ 平成28年7月8日
14	東光寺跡	舞鶴市京田東光寺 ほか	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	中川和哉・石井清司・ 藤井陽輔	平成28年5月23日～ 平成28年9月29日
15	岡田国遺跡・天神 山古墳群	木津川市木津馬場 南ほか	公益財団法人京都府 埋蔵文化財調査研究 センター理事長	中川和哉・福山博章・ 藤井陽輔	平成28年5月25日～ 平成29年2月28日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
16	長岡京跡・井ノ内遺跡・井ノ内古墳群・井ノ内館跡・上里遺跡	長岡京市井ノ内広海道35-1、40-4、40-5	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	中島晋夫	平成28年6月7日～平成28年8月25日
17	平安京跡	京都市下京区七条御所ノ内西町71-7(京都市立西大路小学校)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	関広尚世	平成28年5月9日～平成28年7月15日
18	平安京跡・御土居跡・堂ノ口町遺跡	京都市下京区朱雀分木町80番、38番、26番2	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	柏田有香・後川恵太郎・松本啓子・東洋一・木下保明	平成28年5月9日～平成29年7月28日
19	平安京跡・烏丸線小路遺跡	京都市下京区高辻通堀川東入西高辻町602番地(元格致小学校)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	近藤章子	平成28年5月17日～平成28年8月31日
20	寺町旧城・法成寺跡	京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町131ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	府中和哉・岡崎研一	平成28年6月6日～平成28年9月9日
21	小倉町別当町遺跡(北白川縄文遺跡群)	京都市左京区北白川下別当町34	関西文化財調査会代表	吉川義彦	平成28年5月19日～平成28年6月25日
22	長岡京跡・北山遺跡	向日市向日町南山82-1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	梅本康広	平成28年5月23日～平成28年7月1日
23	長岡京跡関連遺跡・谷田遺跡・奥海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺太鼓山14、18番地	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	原 秀樹	平成28年6月15日～平成28年7月14日
24	長岡京跡・殿長遺跡	向日市寺戸町北垣内	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	細川康晴・引原茂治	平成28年6月20日～平成28年7月22日
25	長岡京跡・鶏冠井清水遺跡	向日市上植野町尻引11番	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	松崎俊郎	平成28年6月8日～平成28年6月17日
26	北大塚古墳・大塚遺跡	井手町大字井手小字大塚ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・竹村亮仁	平成28年7月11日～平成28年9月15日
27	平安京跡・東市跡	京都市下京区七条通猪熊東入西八百原町135-1・2	学校法人龍谷大学専務理事	國下多美樹	平成28年6月27日～平成28年10月31日
28	平安京跡・御土居跡	京都市下京区親喜寺町ほか	国際文化財株式会社代表取締役	河野凡洋	平成28年6月24日～平成28年8月31日
29	長岡京跡・井ノ内遺跡・今里遺跡	長岡京市今里5丁目21から25	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・増田孝彦	平成28年8月4日～平成28年9月30日
30	奥海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺南垣外9番1、9番2、10番	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	木村泰彦	平成28年7月19日～平成28年8月8日
31	平安京跡・本能寺城跡	京都市中京区三条通油小路下る三条油小路町156番	国際文化財株式会社代表取締役	辻 広志	平成28年8月1日～平成28年11月30日
32	長岡京跡	長岡京市天神五丁目13番1ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	木村泰彦	平成28年8月29日～平成28年10月11日
33	奥海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺東条12の一部ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	原 秀樹	平成28年8月11日～平成28年10月31日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
34	五塚原古墳・長岡京跡	向日市寺戸町芝山3-1、6ほか	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	梅本康広	平成28年8月8日～平成28年10月28日
35	女布遺跡	京丹後市久美浜町女布黒田	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	細川康晴・引原茂治	平成28年8月1日～平成28年9月5日
36	伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳	京都市伏見区奉行前町3番	古代文化調査会代表	土村憲章	平成28年8月22日～平成28年10月28日
37	長岡京跡・神足遺跡・近世勝龍寺城跡	長岡京市東神足二丁目17-2	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	小田桐淳	平成28年9月5日～平成28年10月31日
38	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市開田三丁目地内	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	原 秀樹	平成28年9月1日～平成28年9月30日
39	御土居跡	京都市北区紫野花ノ坊町31番地ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	関広高世・持田 透	平成28年9月1日～平成28年12月2日
40	白河街区跡・吉田上大路町遺跡	京都市左京区岡崎吉田近衛町26-54	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	中谷正和	平成28年9月12日～平成28年11月4日
41	長岡京跡・乙訓郡衛跡・	向日市上横野町御塔道地区	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	松嶋俊郎	平成28年8月29日～平成28年9月5日
42	平安京跡	京都市中京区御幸町通御池上る亀屋町386番4、麩屋町通御池上る上白山町249番	株式会社イビソク代表取締役	吉村 晶・石井明日香	平成28年8月22日～平成28年12月30日
43	平安京跡・烏丸織小路遺跡	京都市中京区車庫町245-2ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	松吉祐希・辻 裕司	平成28年8月22日～平成28年10月1日
44	公家町遺跡	京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665-3、665-8	古代文化調査会代表	小松武彦	平成28年9月12日～平成29年1月31日
45	修理式遺跡	向日市寺戸町寺田59番地	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	松嶋俊郎	平成28年10月3日～平成28年10月14日
46	上久世遺跡	京都市南区久世上久世町118、119、125-1、128、129、131、134-13、134-14、1249	一般社団法人歴史文化研究所代表理事	高見澤太基	平成28年9月26日～平成29年2月28日
47	伏見城跡	京都市伏見区村上町395ほか	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	中川和哉・岡嶋研一・竹村亮仁	平成28年10月3日～平成28年12月15日
48	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨狗子田町3-2	公益財団法人京都府埋蔵文化財研究所長	李 銀眞	平成28年9月26日～平成28年10月28日
49	伏見城跡	京都市伏見区常盤町40番地3、桃山町泰長老176番地5	関西文化財調査会代表	吉川義彦	平成28年10月11日～平成28年12月20日
50	平安京跡・西寺跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋門脇町23番地2	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	近藤奈央	平成28年10月3日～平成28年10月21日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
51	長岡京跡・友岡遺跡	長岡京市花山三丁目35-1ほか7筆	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	木村泰彦	平成28年10月17日～平成28年10月31日
52	長岡京跡・南粟ヶ塚遺跡	長岡京市久貝二丁目401-1の一部ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	小田桐淳	平成28年11月1日～平成28年11月20日
53	円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡	京都市左京区岡崎円勝寺町(京都市美術館)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	柏田有香・李 銀濱・辻 裕司	平成28年10月24日～平成29年3月31日
54	美濃山遺跡	八幡市美濃山出島地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・増田孝彦・橋本 稔	平成28年12月1日～平成29年2月27日
55	長岡京跡・井ノ内遺跡・井ノ内古墳群	長岡京市井ノ内小西52番、53番1	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	山本輝雄	平成28年11月7日～平成28年12月2日
56	物集女城跡・中海遺跡	向日市物集女町中条14	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	中島信親	平成28年11月10日～平成29年1月18日
57	平安京跡・烏丸丸太町遺跡	京都市中京区夷川通富小路西入依屋町302、303、304番	古代文化調査会代表	水谷明子	平成28年11月1日～平成28年12月17日
58	長岡京跡関連遺跡・西山田遺跡	長岡京市下海印寺菩提寺2ほか6筆	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	原 秀樹	平成28年11月9日～平成29年1月10日
59	中臣遺跡	京都市山科区勸修寺西栗栖野町113番、271番	有限会社京都平安文化財代表取締役	卜田健司	平成28年11月10日～平成28年12月17日
60	長岡京跡	向日市上植野町北ノ田4-1ほか	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	松崎俊郎	平成28年11月28日～平成28年12月16日
61	長岡京跡・渋川遺跡	向日市寺戸町渋川16、17、24番地	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	梅本康広・松崎俊郎	平成28年11月24日～平成28年12月28日
62	長岡京跡・高田遺跡	向日市森本町高田17番地	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	中塚 良	平成28年11月28日～平成28年12月9日
63	長岡京跡・南垣内遺跡	向日市寺戸町西野辺1-4(一部)、1-8(一部)、2-2	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	梅本康広	平成28年11月28日～平成28年12月22日
64	平安京跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区室町通高辻上る山王町554番、558番	古代文化調査会代表	家崎孝治	平成28年12月12日～平成29年3月25日
65	平安京跡	京都市右京区花園伊町41-7	国際文化財株式会社代表取締役	河野凡洋	平成29年1月10日～平成29年1月31日
66	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市開田四丁目2番3、3番1、3番4、3番14	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	山本輝雄	平成29年1月10日～平成29年3月21日
67	長岡京跡・井ノ内遺跡・上里遺跡・南内畑古墳	長岡京市井ノ内南畑34番地1	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	小田切淳	平成29年1月10日～平成29年1月20日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
68	平安京跡	京都市上京区御前通下立売下る下之町412-1	国際文化財株式会社代表取締役	長林 大	平成28年11月21日～平成28年12月30日
69	嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡	京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町15-36	関西文化財調査会代表	吉川義彦	平成29年1月16日～平成29年2月15日
70	上久世遺跡・上久世城跡	京都市南区久世上久世町405番地ほか（京都市立久世西小学校）	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	関広高世	平成29年1月23日～平成29年2月24日
71	平安京跡	京都市中京区麩屋町通御池上る上白山町243、245、247番	株式会社イビソク代表取締役	吉村 晶・石井明日香	平成29年2月20日～平成29年4月21日
72	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条南山王町5番1、3、4	株式会社イビソク代表取締役	兼康保明	平成29年2月14日～平成29年4月22日
73	北野廃寺・北野遺跡	京都市北区北野下白梅町41番地	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	中谷正和	平成29年2月15日～平成29年3月31日
74	大覚寺4号墳（狐塚古墳）	京都市右京区嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-1、10-4	学校法人龍谷大学専務理事	國下多美樹	平成29年2月21日～平成29年3月12日
75	芝山遺跡	城陽市富野北ノ芝地内	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・筒井崇史・岡村美知子・内藤 京	平成29年4月10日～平成29年7月28日
76	小樋尻遺跡	城陽市富野小樋尻地内	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・筒井崇史・岡村美知子・竹村亮二	平成29年4月24日～平成29年8月30日
77	長岡京跡・下海印寺遺跡	長岡京市下海印寺北条27ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター理事長	原 秀樹	平成29年3月6日～平成29年3月27日
78	北大塚古墳	井手町大塚ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・竹村亮二・加藤雅士	平成29年4月5日～平成29年5月30日
79	平安京跡・御土居跡	京都市下京区郷之町ほか地内	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	山下大輝	平成29年1月23日～平成29年3月15日
80	中海道遺跡	向日市物集女町中条6-3	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	梅本康宏・中塚 真	平成29年2月23日～平成29年3月16日
81	長岡京跡	向日市上植野町妙峠1番5	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター理事長	松崎俊郎	平成29年2月23日～平成29年3月3日
82	美濃山遺跡	八幡市美濃山出島地内	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター理事長	岩松 保・増田孝彦・荒木瀬奈	平成29年4月17日～平成29年9月29日
83	平安宮跡・二条城北遺跡	京都市上京区九条大町通黒門東入薬屋町535-2ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所長	関広高世	平成29年3月21日～平成29年5月1日
84	平安京跡	京都市中京区新町通六角下る六角町369ほか	有限会社京都平安文化財代表取締役	小森俊寛	平成29年3月15日～平成29年5月15日

(99条に基づく報告)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	平安京跡・西京極遺跡	京都市右京区西院東貝川町90・91番	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年3月9日～平成28年3月9日
2	多敷町遺跡	京都市右京区太秦堀ヶ内町13・7・11・13・29・30、12・75・78～80、13・14	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年2月24日～平成28年2月24日
3	上京遺跡	京都市上京区今出川通室町西入堀出シ町302ほか	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年3月14日～平成28年3月19日
4	大蔵遺跡	京都市南区久世城町497-1、814-2、814-4	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年3月24日～平成28年3月24日
5	大深町須恵器窯跡	京都市北区西賀茂南今原町74	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年3月22日～平成28年3月22日
6	平安京跡	京都市下京区下之町14番地の2ほか 地内	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年3月15日～平成28年3月16日
7	平安京跡	京都市下京区下之町22番地の4ほか 地内	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年3月16日～平成28年3月16日
8	平安京跡	京都市下京区小楠荷町61番地ほか 地内	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年3月14日～平成28年3月14日
9	平安宮跡・聚楽第跡	京都市上京区上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町519番地	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年4月5日～平成28年4月5日
10	塚本遺跡・塚本東遺跡	城陽市寺田地内	城陽市教育委員会 教育長	浅井猛宏・小泉裕司	平成28年3月23日～平成28年9月30日
11	上松遺跡	福知山市字長田小字上松1261番地	福知山市教育委員会 教育長	永谷隆夫・山田喜大	平成28年3月30日～平成28年3月30日
12	正明寺遺跡	福知山市字正明寺1712の4、1715の19	福知山市教育委員会 教育長	永谷隆夫・山田喜大	平成28年3月28日～平成28年3月28日
13	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田中内畑町115番	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年4月6日～平成28年4月6日
14	小倉町別当町遺跡	京都市左京区北白川下別当町34	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年4月4日～平成28年4月4日
15	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条西山王町11番の一部	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年4月8日～平成28年4月8日
16	平安京跡・山ノ内遺跡	京都市右京区西院四条畑町10番2、22番1、55番、西院日照町54番6、58番1	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月12日～平成28年4月12日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
17	革嶋遺跡	京都市西京区川島 玉頭町49、78-2	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年3月29日～ 平成28年3月29日
18	平安宮跡	京都市中京区西ノ 京石馬寮町2-6、 2-7、2-8	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年3月30日～ 平成28年3月30日
19	平安京跡	京都市中京区壬生 坊城町14-2、13 -7、13-14	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年4月1日～ 平成28年4月1日
20	大蔵遺跡	京都市南区久世 城町497-1、814 -2、814-4	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年4月11日～ 平成28年4月22日
21	広隆寺旧境内遺跡	京都市右京区太秦 蜂岡町31番地ほか	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月14日～ 平成28年4月14日
22	平安宮跡	京都市上京区下立 売通日暮西入中村 町549-1ほか	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年4月18日～ 平成28年4月18日
23	白河北城跡・白河 街区跡	京都市左京区蓮華 蔵町46-5	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月25日～ 平成28年4月25日
24	平安宮跡	京都市上京区上長 者町千本西入五番 町168-1、169 -1	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月26日～ 平成28年4月26日
25	下津林遺跡	京都市南区久世高 田町336（陸上自 衛隊駐屯地）	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年4月19日～ 平成28年4月22日
26	方広寺跡・六波羅政 庁跡・法住寺殿跡	京都市東山区妙法 院前側町425	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月28日～ 平成28年4月28日
27	平安京跡・山ノ内 遺跡	京都市中京区西ノ 京徳大寺町1	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年4月27日～ 平成28年4月27日
28	和泉式部町遺跡	京都市右京区太秦 森ヶ東町50-2	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年5月9日～ 平成28年5月9日
29	大蔵遺跡	京都市南区久世 築山町102番地1	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年5月10日～ 平成28年5月10日
30	平安宮跡・鳳瑞遺跡	京都市中京区聚楽 廻東町6番1ほか 4筆	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年5月12日～ 平成28年5月12日
31	平安京跡・本能寺 城跡	京都市中京区三条 通油小路町156番、 158番、160番、 162番、164番	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年5月16日～ 平成28年5月16日
32	中久世遺跡	京都市南区久世 城町96	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年5月18日～ 平成28年5月18日
33	平安京跡・西ノ京 遺跡	京都市中京区西ノ 京桑原町1	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年5月19日～ 平成28年5月19日
34	平安京跡	京都市中京区西洞 院通竹屋町下る毘 沙門町387、389- 1	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年5月20日～ 平成28年5月20日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
35	平安宮跡・鳳瑞遺跡	京都市中京区聚楽廻松下町3番13号、14号、15号、16号	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年5月13日～ 平成28年5月13日
36	平安京跡・堀川御池遺跡	京都市中京区二条油小路町284ほか	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成27年11月16日～ 平成28年5月11日
37	男山城跡	与謝野町字男山1533、1534、1534-乙、1536、1537、3177-2、3178番地	与謝野町教育委員会 教育長	白数真也	平成27年8月3日～ 平成28年3月31日
38	平安宮跡	京都市中京区西ノ京冷泉町15、16、17、18、19、20、21番	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年5月30日～ 平成28年5月30日
39	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区烏丸通姉小路下ル場之町586-2ほか	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年5月23日～ 平成28年5月25日
40	平安宮跡・聚楽第跡	京都市上京区中立売日暮東入新白水丸町462-31ほか	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月7日～ 平成28年6月7日
41	平安宮跡・聚楽第跡	京都市上京区上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町532	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月6日～ 平成28年6月6日
42	吉祥院天満宮境内	京都市南区吉祥院政所町3番地3	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年5月27日～ 平成28年5月27日
43	平安京跡・東市跡	京都市下京区七条通猪熊東入西八百屋町135番地1、2	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年6月1日～ 平成28年6月3日
44	長岡京跡・円明寺跡	大山崎町薬師前11の一部、12-1の一部、14-1の一部、16の一部、17-1の一部、18の一部、18-1の一部	大山崎町教育委員会 教育長	角早季子	平成28年5月23日～ 平成28年6月30日
45	木津川河床遺跡	八幡市八幡科手29、30-4の一部、30-2の一部、32-2、33-2	八幡市教育委員会 教育長	西岡巧次	平成28年5月18日～ 平成28年5月18日
46	板列遺跡	与謝野町字岩滝714、715番地	与謝野町教育委員会 教育長	白数真也	平成28年4月18日～ 平成29年3月31日
47	梅谷遺跡	与謝野町字三河内1054、1055番地	与謝野町教育委員会 教育長	加藤晴彦	平成28年6月7日～ 平成29年3月31日
48	左坂南古墳群	京丹後市大宮町周積小字左坂10039番地ほか	京丹後市教育委員会 教育長	岡林峰夫	平成28年6月1日～ 平成28年6月30日
49	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊勢宿町32-22	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年5月9日～ 平成28年5月31日
50	平安京跡	京都市上京区上長者町通千本西入五番地179	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月8日～ 平成28年6月8日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
51	白河街区跡・吉田上大路町遺跡	京都市左京区吉田近衛町26-54	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月9日～平成28年6月9日
52	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条西山王町1番地	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月20日～平成28年6月21日
53	平安京跡	京都市下京区高倉通高辻下る葛籠屋町517-2ほか	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年6月14日～平成28年6月14日
54	平安京跡	京都市上京区下長者町通千本西入六番町368・368-2・368-4	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年6月15日～平成28年6月15日
55	平安京跡・聚楽遺跡	京都市上京区下立売通千本東入田中町449・452番	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年6月16日～平成28年6月16日
56	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条東山王町13	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年6月17日～平成28年6月17日
57	木津川河床遺跡	八幡市八幡垣内山12番1、12番4、14番2、15番1の一部	八幡市教育委員会教育長	西岡巧次	平成28年6月13日～平成28年6月13日
58	平安京跡	京都市右京区西院笠目町6	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年6月23日～平成28年6月23日
59	伏見城跡	京都市伏見区深草大亀谷万帖敷町370番	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年6月28日～平成28年6月28日
60	平安京跡	京都市南区吉祥院西ノ庄東屋敷町3番地	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年7月7日～平成28年7月7日
61	長岡京跡	京都市伏見区淀柳爪町29・30番	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年7月8日～平成28年7月8日
62	法住寺殿跡	京都市東山区三十三間堂廻り町642、657	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年7月4日～平成28年7月4日
63	公家町遺跡	京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665-3、665-8	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年7月5日～平成28年7月5日
64	中臣遺跡	京都市山科区東野森町1-4、10-1、11-1、11-3	京都市文化市民局長	黒須聖希子	平成28年7月19日～平成28年7月19日
65	中臣遺跡	京都市山科区西野山中臣町20-1	京都市文化市民局長	黒須聖希子	平成28年7月20日～平成28年7月20日
66	長岡京跡	京都市南区久世城町289-1、289-3、289-5、290-2	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年7月27日～平成28年7月27日
67	伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳	京都市伏見区奉行前町3番	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年6月30日～平成28年6月30日
68	大蔵遺跡・大蔵城跡	京都市南区久世大蔵町331-1、331-3、332-1、333-1、602	京都市文化市民局長	黒須聖希子	平成28年8月10日～平成28年8月10日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
69	馬場遺跡	八幡市八幡馬場102-5ほか	八幡市教育委員会教育長	西岡巧次	平成28年7月19日～平成28年8月31日
70	平安京跡	京都市右京区西院北矢掛町23	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年7月11日～平成28年7月11日
71	伏見城跡	京都市伏見区常盤町40番地3	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年7月13日～平成28年7月14日
72	伏見城跡	京都市伏見区桃山町泰長老176番地5	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年7月15日～平成28年7月15日
73	平安京跡	京都市中京区御幸町通御池上る亀屋町395番1ほか、御幸町通押小路下る亀屋町390番、麩屋町通御池上る上白川町249番地	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年3月28日～平成28年6月27日
74	平安京跡	京都市下京区麩屋町通綾小路下る俵原町299	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年7月12日～平成28年7月12日
75	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区向替町姉小路下る柿本町392、394、396	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年7月4日～平成28年7月26日
76	醍醐ノ森瓦窯跡	京都市北区西賀茂中川上町70番1	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年8月5日～平成28年8月5日
77	長岡京跡・羽東師菱川城跡	京都市伏見区羽東師菱川町43-5、6、7、8	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年5月9日～平成28年7月6日
78	平安京跡	京都市南区東九条東岩本町21ほか	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年8月8日～平成28年8月8日
79	平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区千本通下立売下る小山町908-30	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年8月18日～平成28年8月18日
80	長岡京跡・石倉集石遺跡	大山崎町字円明寺小字鳥居前84番	大山崎町教育委員会教育長	古閑正浩	平成28年9月1日～平成28年9月9日
81	木津川河床遺跡	八幡市八幡王井53-3	八幡市教育委員会教育長	八十島豊成	平成28年8月9日～平成28年8月9日
82	今里遺跡	八幡市下奈良岡田地内	八幡市教育委員会教育長	八十島豊成	平成28年8月17日～平成28年10月31日
83	石神遺跡	城陽市中石神11番地の一部	城陽市教育委員会教育長	小泉裕司	平成28年8月30日～平成28年8月30日
84	上久世遺跡	京都市南区久世上久世町118、119、125-1、126、128、129、131、134-13から14、1249	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年8月2日～平成28年8月3日
85	平安京跡・西ノ京遺跡	京都市右京区西院金福町8	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年8月18日～平成28年8月18日
86	井尻遺跡	宇治市伊勢田町井尻3	宇治市教育委員会教育長	杉本 宏・荒川 史・松村 真・松宮加奈	平成28年7月27日～平成28年8月31日
87	長岡京跡	大山崎町若宮前1-1、2-1	大山崎町教育委員会教育長	角早季子	平成28年8月30日～平成28年9月16日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
88	平安京跡・西寺跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋門脇町17-5	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年8月25日～平成28年8月25日
89	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町13番3から4	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年9月12日～平成28年9月12日
90	平安京跡・鳳端遺跡	京都市上京区下立売通七本松西入西東町339ほか	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年9月8日～平成28年9月8日
91	平安京跡・御土居跡	京都市下京区郷之町ほか地内	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年9月13日～平成28年9月13日
92	大宮亮神社遺跡	京丹後市大宮町周積小字宮ノ下1291番地ほか	京丹後市教育委員会教育長	岡林峰夫	平成28年9月27日～平成28年10月4日
93	北垣内遺跡	城陽市久世北垣内63番地の一部	城陽市教育委員会教育長	小泉裕司	平成28年9月23日～平成28年9月23日
94	平安京跡・烏丸丸太町遺跡	京都市中京区俵屋町302ほか	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年9月15日～平成28年9月15日
95	平安京跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区西洞院通仏光寺下本柳水町784番地ほか	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年9月14日～平成28年9月14日
96	大徳寺旧境内	京都市北区大徳寺町22	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年9月5日～平成28年9月5日
97	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨狗子田町3番2	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年8月22日～平成28年8月22日
98	平安京跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区室町通高辻上る山王町554、558番	京都市文化市民局長	赤松佳奈	平成28年9月5日～平成28年9月5日
99	平安京跡・烏丸綾小路遺跡・竜臥城跡	京都市下京区新開町397	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年9月9日～平成28年9月9日
100	平安京跡	京都市上京区御前通下立売下下之町412-1	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年10月3日～平成28年10月3日
101	平安京跡・塩小路若山城跡	京都市下京区東洞院通七条下る東塩小路町848	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年10月4日～平成28年10月4日
102	平安京跡	京都市右京区西京極東大丸町26-1	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年10月7日～平成28年10月7日
103	禪定寺城跡	縦喜郡宇治田原町禪定寺糀谷	宇治田原町教育委員会教育長	塚本 史	平成28年8月24日～平成28年10月20日
104	平安京跡・唐橋遺跡	京都市南区唐橋平垣町24番地	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年9月26日～平成28年9月28日
105	平安京跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区松原通新町東入中之町173-1ほか5筆	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年10月11日～平成28年10月11日
106	平安京跡	京都市右京区花園寺ノ前町80番、大養安井小山町12番	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年10月25日～平成28年10月25日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
107	長岡京跡	京都市南区久世東土川町78、79、79-1、79-2、79-3、80-2、81	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年10月13日～平成28年10月14日
108	平安京跡	京都市下京区朱雀北ノ口町33	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年10月24日～平成28年10月24日
109	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条南山王町5-1	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年10月26日～平成28年10月27日
110	伏見城跡・指月城跡	京都市伏見区桃山町泰長老桃山東合同宿舍敷地内	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成28年8月22日～平成28年10月25日
111	塚本東遺跡	城陽市寺田乾出北42番地の1、44番地	城陽市教育委員会教育長	小泉裕司	平成28年11月1日～平成28年11月1日
112	安国寺遺跡	宮津市字小松308番地ほか	宮津市教育委員会教育長	河森一浩	平成28年10月24日～平成28年11月30日
113	女布遺跡	京丹後市久美浜町女布小字北尻416番地ほか	京丹後市教育委員会教育長	新谷勝行	平成28年10月26日～平成28年11月2日
114	平安京跡	京都市下京区四条通堀川西入ル唐津屋町535	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年11月1日～平成28年11月1日
115	平安京跡	京都市右京区西京極葛野町6-1、6-2、6-3、6-4、6-7	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年10月31日～平成28年10月31日
116	得長寿院跡・白河街区跡・岡崎遺跡	京都市左京区岡崎徳成町15-2、15-9	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年11月8日～平成28年11月8日
117	西町遺跡	西町三丁目南大坪39番地ほか	綾部市教育委員会教育長	三好博喜	平成28年10月24日～平成28年11月30日
118	伏見城跡	京都市伏見区片桐町1	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年10月17日～平成28年10月20日
119	上久世遺跡・上久世城跡	京都市南区久世上久世町405番地ほか	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年11月11日～平成28年11月11日
120	川北遺跡	福知山市字川北小字石橋1458-2ほか17筆	福知山市教育委員会教育長	松本学博・鷺田紀子	平成28年10月11日～平成28年12月28日
121	北野廃寺	京都市北区北野下白梅町41番地ほか	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年11月9日～平成28年11月9日
122	平安京跡	京都市上京区中立売通堀川西入役人町216-2番地ほか15筆	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年11月24日～平成28年11月24日
123	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊勢宿町33番52	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年11月25日～平成28年11月25日
124	平安京跡	京都市下京区万屋町332ほか	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年11月14日～平成28年11月14日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
125	平安京跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区東堀川通五辻下る五軒町385	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年11月15日～平成28年11月15日
126	井谷遺跡	京丹後市丹後町井谷小字中坪69番地ほか	京丹後市教育委員会教育長	新谷勝行	平成28年11月21日～平成28年11月21日
127	中臣遺跡	京都市山科区勸修寺西栗栖野町271	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年11月29日～平成28年11月29日
128	平安京跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条西岩本町15	京都市文化市民局長	奥井智子	平成28年12月5日～平成28年12月7日
129	川向遺跡	京丹後市丹後町成願寺	京都府教育委員会教育長	福島孝行	平成28年12月8日～平成28年12月8日
130	鹿背山瓦窯群	木津川市城山台	京都府教育委員会教育長	福島孝行	平成28年12月6日～平成28年12月6日
131	周山庵寺・周山古墳群・高梨経塚・高梨遺跡	京都市右京区京北周山町中山39番地の4（周山中学校敷地）	京都市文化市民局長	新田和央	平成28年11月16日～平成28年11月21日
132	平安宮跡・二条城北遺跡	京都市上京区九太町通黒門東入薬屋町535-2ほか	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年12月2日～平成28年12月2日
133	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田浄菩提院町203	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成28年12月1日～平成28年12月1日
134	長岡京跡	京都市南区久世東土川町366番1	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年11月10日～平成28年11月10日
135	千代川遺跡	亀岡市千代川町地内	亀岡市教育委員会教育長	中澤 勝・飛鳥井拓	平成28年9月8日～平成29年3月31日
136	平安京跡	京都市下京区本神明町430ほか	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年12月12日～平成28年12月12日
137	嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡	京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町15-36	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年12月13日～平成28年12月13日
138	平安京跡・公家町遺跡	京都市上京区京都御苑438	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年12月15日～平成28年12月15日
139	平安京跡	京都市上京区二番町198-2	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成28年12月20日～平成28年12月20日
140	平安京跡	京都市南区吉祥院西ノ庄西浦町81	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年12月16日～平成28年12月16日
141	平安京跡・聚楽第跡・平安宮跡	京都市上京区大宮通上長者町上る和水町439-7、439-11	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成28年12月19日～平成28年12月19日
142	長岡京跡・百々遺跡	大山崎町茶屋前16、17、26、32、33、35、36、37-1、40、42、42-3、鉄電36、38	大山崎町教育委員会教育長	角早季子	平成29年1月5日～平成29年3月31日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
143	慈仁宮跡	木津川市加茂町河原東大門	京都府教育委員会教育長	古川 匠	平成28年10月20日～平成28年12月19日
144	川向遺跡	京丹後市丹後町成願寺	京都府教育委員会教育長	福島孝行	平成29年1月26日～平成29年1月26日
145	稲葉遺跡	京田辺市田辺十曾3	京都府教育委員会教育長	福島孝行	平成29年1月24日～平成29年1月24日
146	土遺跡	福知山市宇土小字前小田	福知山市教育委員会教育長	松本学博	平成29年1月10日～平成29年2月28日
147	方広寺跡・六波羅政庁跡・法住寺殿跡	京都市東山区妙法院前柳町425	京都市文化市民局長	神所高暉・馬瀬智光	平成28年10月31日～平成28年12月1日
148	上奈良遺跡	八幡市上奈良北ノ口4番7	八幡市教育委員会教育長	西岡巧次	平成28年12月13日～平成28年12月13日
149	平安宮跡・二条城北遺跡	京都市上京区日暮通丸太町上る南伊勢町、松屋町通丸太町上る三丁目、丸太町通松屋町東入左馬松町778-2ほか	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成29年1月10日～平成29年1月10日
150	平安京跡	京都市下京区南門前町467ほか	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成29年1月11日～平成29年1月11日
151	長岡京跡・淀城跡	京都市伏見区淀池上町128ほか	京都市文化市民局長	黒須亜希子	平成29年1月13日～平成29年1月13日
152	鳥羽離宮跡	京都市伏見区中島前山町134の一部	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年1月12日～平成29年1月12日
153	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	京都市伏見区竹田田中殿町91番2	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成29年2月6日～平成29年2月6日
154	平安京跡	京都市南区吉祥院中河原里北町3、4、5、7の一部、8の一部	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成29年2月7日～平成29年2月7日
155	上久世遺跡	京都市南区久世上久世80番	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成29年1月25日～平成29年1月25日
156	平安京跡	京都市中京区新町通六角下る六角町369ほか	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成29年1月27日～平成29年1月27日
157	平安京跡・烏丸町遺跡・九条河原城跡	京都市南区東九条河西町4番、5番、21番2	京都市文化市民局長	奥井智子	平成29年2月9日～平成29年2月9日
158	長岡京跡	大山崎町字円明寺小字里ノ後19ほか	大山崎町教育委員会教育長	角早季子	平成29年1月30日～平成29年3月31日
159	藤山1号墳・藤山2号墳（藤山城跡）	精華町大字南福八妻小字藤山89番地	精華町教育委員会教育長	村川俊明	平成29年1月16日～平成29年4月4日
160	二子山古墳・山本古墳	宇治市宇治山本35、36、37、40、42、48、62	宇治市教育委員会教育長	杉本宏・荒川史・大野壽子・松村真・松宮加奈・嵯峨根絵美	平成29年2月7日～平成29年3月24日
161	広野遺跡	宇治市広野町東裏65-23	宇治市教育委員会教育長	杉本宏・荒川史・松村真・松宮加奈	平成29年1月27日～平成29年2月17日
162	篠遺跡	亀岡市篠町篠	京都府教育委員会教育長	福島孝行	平成29年2月1日～平成29年2月1日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
163	中臣遺跡	京都市山科区西野山中臣町41-1、46、50、中島井町126	京都市文化市民局長	奥井智子	平成29年1月17日～平成29年1月20日
164	平安京跡・壬生遺跡	京都市中京区壬生西土居ノ内町24-3ほか	京都市文化市民局長	奥井智子	平成29年1月23日～平成29年1月23日
165	長岡京跡	京都市伏見区納所星柳ほか	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年1月30日～平成29年1月30日
166	平安京跡	京都市右京区太秦安井西沢町14-5、14-23	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年2月1日～平成29年2月1日
167	長岡京跡	京都市南区久世東土川町272-1、272-2	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年2月2日～平成29年2月2日
168	伏見城跡	京都市伏見区深草大亀谷万敷町369-2	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成29年2月8日～平成29年2月8日
169	平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区下立先通智恵光院西入下丸屋町502番	京都市文化市民局長	熊谷舞子	平成29年2月10日～平成29年2月10日
170	平安京跡	京都市下京区東堀川通木津屋橋下る御方組屋町1	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成29年2月13日～平成29年2月15日
171	高台寺境内（雲居寺跡）	京都市東山区下川原町八坂鳥居前下る下河原町526番地	京都市文化市民局長	鈴木久史	平成29年2月16日～平成29年2月16日
172	東加舎遺跡	亀岡市本梅町東加舎 地内	亀岡市教育委員会教育長	中澤 勝・飛鳥井拓	平成29年2月21日～平成29年3月31日
173	広沢古墳群	京都市右京区嵯峨広沢池下町32-3、32-4の各一部	京都市文化市民局長	奥井智子	平成29年2月23日～平成29年2月23日
174	長岡京跡	京都市伏見区横大路地先	京都市文化市民局長	奥井智子	平成29年2月20日～平成29年2月21日
175	法住寺殿跡	京都市東山区今熊野池田町12	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年3月6日～平成29年3月6日
176	平安京跡	京都市右京区太秦安井一町町14	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年3月8日～平成29年3月8日
177	平安京跡・衣田町遺跡	京都市下京区七条御所ノ内西町14	京都市文化市民局長	新田和央	平成29年3月10日～平成29年3月10日
178	芝古墳（芝1号墳）	京都市京都市西京区大原野石見町632-3	京都市文化市民局長	熊井亮介	平成29年1月16日～平成29年3月10日
179	新田遺跡	京田辺市松井川田地内	京都府教育委員会教育長	奈良康正	平成29年3月13日～平成29年3月13日
180	松ヶ端遺跡	福知山市宇今安小字松ヶ端	福知山市教育委員会教育長	松本学博・鷺田紀子	平成29年2月15日～平成29年3月31日
181	立石遺跡	福知山市大字私市小字立石17番地ほか20筆	福知山市教育委員会教育長	山田喜大	平成29年3月13日～平成29年3月24日
182	女布遺跡	京丹後市久美浜町女布	京都府教育委員会教育長	桐井理揮・中居和志	平成29年9月6日～平成29年11月27日
183	千代川遺跡	亀岡市千代川町千原	京都府教育委員会教育長	中居和志・桐井理揮	平成28年8月22日～平成29年2月28日

図 版

図版第1 恭仁宮跡第97次



(1) I L 22 U-s トレンチ全景 (西から)



(2) I L 06 U-s トレンチ全景 (南から)

図版第2 恭仁宮跡第97次



(1) I L 06 U-s トレンチ全景 (北から)

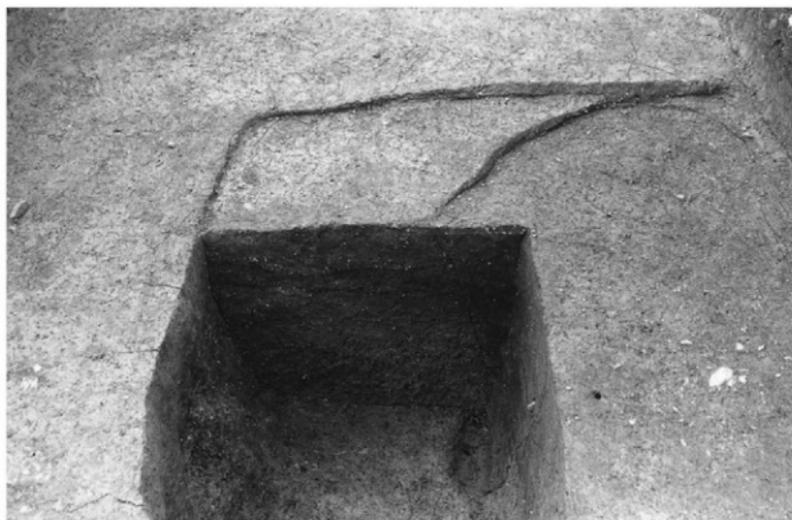


(2) I L 06 U-s トレンチ SA 5501 近景 (北から)

図版第3 恭仁宮跡第97次



(1) I L 06 U-s トレンチ S P17301 (南東から)

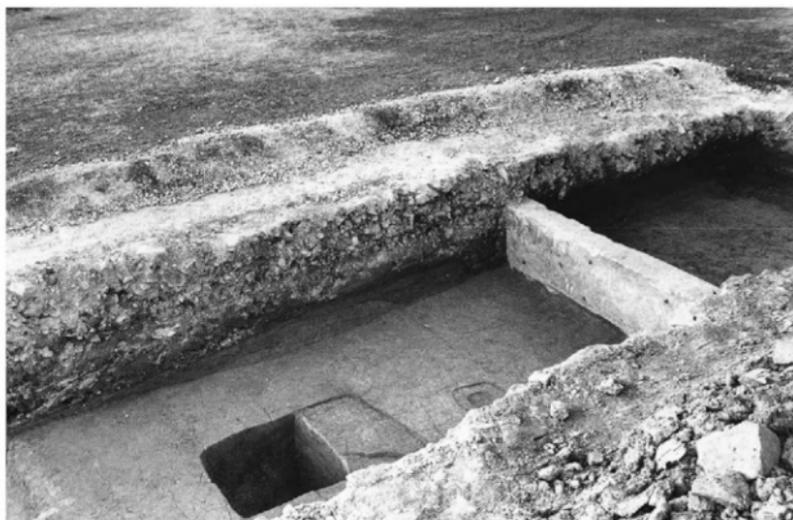


(2) I L 06 U-s トレンチ S P17301 東西土層断面 (南から)

図版第4 恭仁宮跡第97次



(1) I L 06 U-s トレンチ S P17301 南北土層断面 (西から)



(2) I L 06 U-s トレンチ西壁断面 (南東から)

図版第5 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第7次）



(1) 調査地遠景(北から)



(2) 調査地遠景(西から)



(3) 第1トレンチ土層
断面(北西から)

図版第6 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第7次）



(1) 第2トレンチ南東
壁土層断面（北西か
ら）



(2) 第3トレンチ南東
壁土層断面（北西か
ら）



(3) 第4トレンチ南東
壁土層断面（北西か
ら）

図版第7 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第7次）



(1) 第5トレンチ南東
壁土層断面（北西か
ら）



(2) 第6トレンチ調査
前（東から）



(3) 第6トレンチ南壁土
層断面（北東から）

図版第8 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第7次）



(1) 第6トレンチ遺構
検出状況（南から）



(2) 第6トレンチSP
2・4掘削状況（東
から）



(3) 第6トレンチSP
3・4掘削状況（南東
から）

図版第9 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第7次）



(1) 第6トレンチ遺構
完掘状況(南東から)

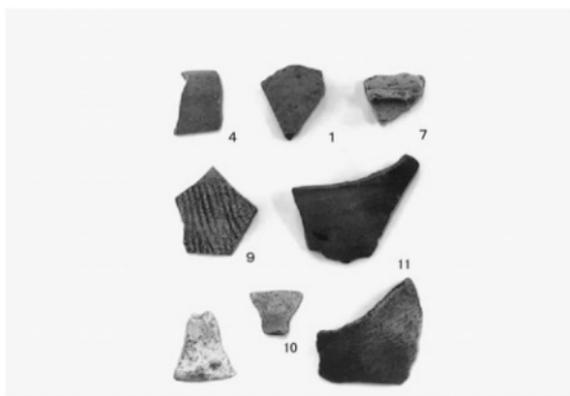


(2) 第6トレンチ全景
(南西から)

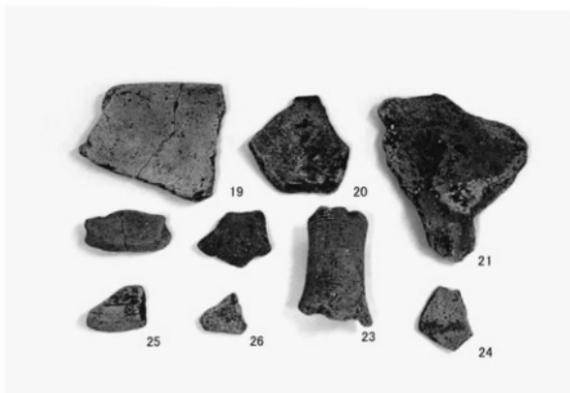


(3) 第6トレンチ全景
(北東から)

図版第 10 府営農業農村整備事業関係遺跡（女布遺跡第 7 次）



(1) 第 6 トレンチ出土遺物



(2) 地点 A 出土遺物①



23



21

(3) 地点 A 出土遺物②

図版第 11 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡（千代川遺跡第 29 次）



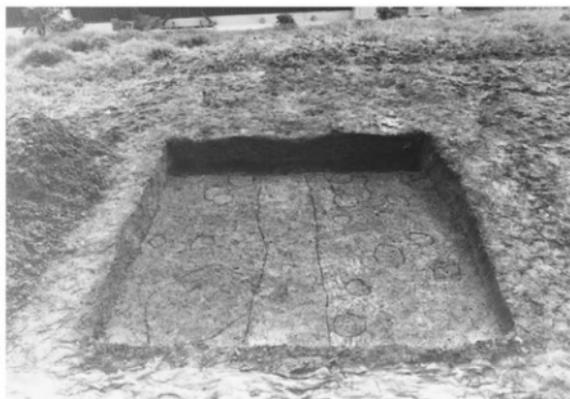
(1) 調査地遠景（北西から）



(2) 調査地遠景（南東から）



(3) 調査地遠景（北西から）



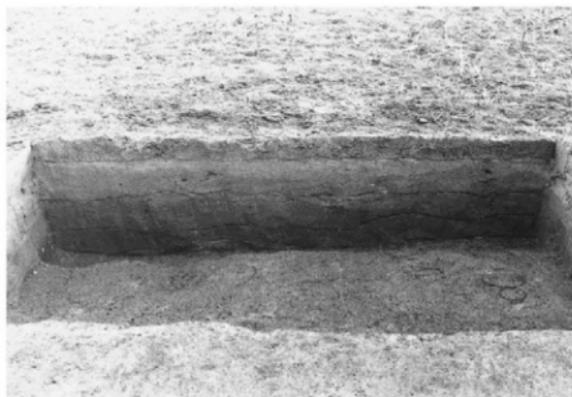
(1) 第2トレンチ遺構
検出状況（北から）



(2) 第3トレンチ遺構
検出状況・断面（南
から）



(3) 第4トレンチ遺構検
出状況（東から）



(1) 第5トレンチ南壁
土層断面（北から）



(2) 第6トレンチ遺構
検出状況（西から）



(3) 第6トレンチ東壁
土層断面（西から）



(1) 第 8 トレンチ遺構
検出状況（西から）



(2) 第 9 トレンチ東壁
土層断面（西から）



(3) 第 10 トレンチ南壁土
層断面（北西から）



(1) 第 11 トレンチ遺構
検出状況（北から）



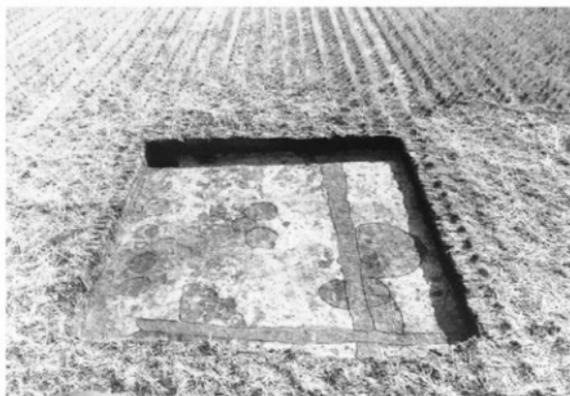
(2) 第 14 トレンチ遺構
検出状況（北から）



(3) 第 14 トレンチ南壁
断面（北西から）



(1) 第15トレンチ遺構
検出状況（北から）



(2) 第16トレンチ遺構
検出状況（北から）



(3) 第16トレンチ南壁
断面（北から）



(1) 第 17 トレンチ南壁
断面（北西から）



(2) 第 18 トレンチ南壁
断面（北西から）



(3) 第 19 トレンチ掘削状況・
北壁断面（南から）



(1) 第20トレンチ掘削状況・
南壁断面（北から）



(2) 第22トレンチ北壁
断面（南から）



(3) 第23トレンチ南・西壁
断面（北東から）



(1) 第 26 トレンチ遺構
検出状況（西から）



(2) 第 26 トレンチ遺構
断面状況（西から）



(3) 第 27 トレンチ遺構
検出状況（北から）



(1) 第30トレンチ南壁
断面（北から）



(2) 第31トレンチ遺構
検出状況（西から）



(3) 第32トレンチ遺構
検出状況（西から）

報告書抄録

調査書名								
京都府埋蔵文化財調査報告書（平成29年度）								
調査書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名 奈良康正・古川 匠・中居和志・岡田健吾・桐井理輝・北山大照								
編集機関 京都府教育委員会								
所在地 〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西人敷ノ内町 075-414-5903								
発行年月日 西暦 2018年3月31日								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
藤仁宮跡	木津川市 加茂町河整	26214	173	34度45分45秒	135度51分55秒	20170901-1219	350	保存活用
女布遺跡	京丹波市 久美浜町女布	26212	1506	35度36分06秒	134度57分17秒	20170526-0908	58	農業関連（府営農業農村整備事業に伴う事前調査）
千代川遺跡	亀岡市千代川町 千屋・坪田・北ノ庄	26236	22	35度03分09秒	135度32分26秒	20160822- 20170228	670	農業関連（国営緊急農地再編整備事業に伴う事前調査）
千代川遺跡	亀岡市千代川町 千屋・坪田・北ノ庄	26236	22	35度03分09秒	135度32分26秒	20171101- 20180314	900	農業関連（国営緊急農地再編整備事業に伴う事前調査）
川向遺跡	京丹波市 成願寺川向	26212	3506	35度42分23秒	135度08分09秒	20170126-1218	43	府道新設
宮津城跡	宮津市鶴賀	26235	87	35度32分08秒	135度11分56秒	20170315	21	下水道
花ノ木古墳	鞍部市 殿治町花ノ木	26233	A23	35度20分31秒	135度12分03秒	20171204	6	府道拡幅
矢田遺跡	亀岡市下矢田町	26236	166	35度00分09秒	135度34分40秒	20171206	6	府道拡幅
美濃山遺跡隣接地	八幡市美濃山出口	26210	-	34度50分38秒	135度42分49秒	20170524-0525	296	高速道路整備事業
水主神社東遺跡隣接地	城陽市寺田	26237	-	34度50分47秒	135度46分10秒	20170316-0328	144	高速道路整備事業
小幡民道跡隣接地	城陽市富野	26237	-	34度50分48秒	135度46分40秒	20170427-0428 20170801-0802	180	高速道路整備事業・国道拡幅
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
藤仁宮跡	宮部	奈良時代中葉	柱穴	土師器、須恵器、瓦、埴		朝堂院北限柱穴の検出		
女布遺跡	集落	弥生～近世	柱穴、溝	弥生土器、須恵器、土馬		弥生土器がまとまって出土		
千代川遺跡	集落	縄文～中世	柱穴、溝、土坑	土師器、須恵器、緑釉陶器等		古代の掘立柱建物跡2棟を確認		
川向遺跡	散布地	古墳～奈良	-	-		近隣に石造物を確認		
宮津城跡	平城	中世～近世	石垣	唐津焼皿・陶器破片		武家屋敷地の区画を検出		
花ノ木古墳	古墳	古墳	-	土師器罍		古墳盛土を確認		
矢田遺跡	散布地	-	-	土師器		-		
美濃山遺跡隣接地	-	-	-	-		-		
水主神社東遺跡隣接地	-	中世	高欄	瓦器類		高欄を確認		
小幡民道跡隣接地	-	中世	高欄	-		高欄を確認		
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・藤仁宮跡では、朝堂院北限の柱穴を検出し、これまで不明だった朝堂院と大徳院の境界を復元する新たなデータが得られた。 ・女布遺跡では、古代の柱穴を確認したほか、丹後地域で類例の少ない弥生時代後期前半の土器がまとまって出土した。 ・千代川遺跡では、古代の掘立柱建物跡2棟を検出し、古代の遺構が遺跡の北側まで広がることが明らかとなった。 ・宮津城跡では、波路門枳形と屋敷地を測する石垣基部を検出した。 ・水主神社東遺跡隣接地及び小幡民道跡隣接地では中世の高欄を検出し、埋蔵文化財包蔵地の範囲が広がったことを確認した。 							

報告書抄録 (英文)

Title	Kyoto Pref. Cultural Properties Report (Heisei 29)					
Writer	Yasumasa Nara, Takumi Furukawa, Kazushi Nakai, Kengo Okada, Riki Kiri, Daiki Kitayama					
Copyright	Kyoto Prefectural Board of Education 〒 602-8570 Yabunouchicho Shimachi-nishūru Shimodachiuri-tori Kamigyo-ward Kyoto-city Japan					
The date of issue	31.Mar.2018					
Site	Location	North latitude	East latitude	Excavated term	Excavated area (㎡)	Origin of excavation
Kuni Palace site	Reizei Kamo-town Kizugawa-city Kyoto-pref	34° 45' 45"	135° 51' 55"	20170901-1219	350	Investigation for preservation and application
Nyou site	Nyou Kumihama-town Kyotango-city Kyoto-pref	35° 35' 52"	134° 57' 26"	20170526-0908	58	Pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager
Chiyo-kawa site	Chiyo-kawa-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 09"	135° 32' 26"	20160822- 20170228	670	The government-managed Kameoka agricultural land reorganization consolidation project
Chiyo-kawa site	Chiyo-kawa-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 09"	135° 32' 26"	20171101- 20180314	900	The government-managed Kameoka agricultural land reorganization consolidation project
Kawamukai site	Tango-town Kyotango-city Kyoto-pref	35° 42' 23"	135° 08' 09"	20170126-1218	43	Road construction
Miyazu castle	Tsuruga Miyazu-city Kyoto-pref	35° 32' 08"	135° 11' 56"	20170315	21	Sewerage construction
Hananoki kofun	Hananoki, Kagoyachi, Ayabe-city	35° 20' 31"	135° 12' 03"	20171204	6	Road construction
Yada site	Shimoyata-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 00' 09"	135° 34' 40"	20171206	6	Road construction
Immediate area of Mi-noyama site	Minoyama Yawata-city Kyoto-pref	34° 50' 38"	135° 42' 49"	20170524-0525	296	Road construction
Immediate area of Mi-nushijunyahagushi site	Terada Joyo-city Kyoto-pref	34° 50' 47"	135° 46' 10"	20170316-0328	144	Road construction
Immediate area of Kohjiri site	Tono Joyo-city Kyoto-pref	34° 50' 48"	135° 46' 40"	20170427-0428 20170801-0802	180	Road construction
Site	Sort (class)	Period	Features	Artificial description		
Kuni Palace site	palace	nara	posthole type wall, posthole	haji ware, sue ware, roof tile, brick		
Nyou site	dwelling cluster	yayoi-early modern times	posthole, ditch	yayoi ware, sue ware, clay horse		
Chiyo-kawa site	dwelling cluster	jomon-medieval times	posthole, ditch, hole	haji ware, sue ware, green glazed pottery		
Kawamukai site	the distribution area of relics	kofun-nara times	—	—		
Miyazu castle	castle	medieval and early modern times	stone wall	karatsu ware		
Hananoki kofun	kofun	kofun	—	haji ware		
Yada site	the distribution area of relics	—	—	haji ware		
Immediate area of Mi-noyama site	—	—	—	—		
Immediate area of Mi-nushijunyahagushi site	—	medieval times	island-like field	gaki ware		
Immediate area of Kohjiri site	—	medieval times	island-like field	—		

KYOTO PREF. CULTURAL PROPERTIES REPORT

COPYRIGHT ©Kyoto Prefectural Board of Education, 2018

Kyoto Prefectural Board of Education

Shinmachi Shimodachiuri Kamigyo-ward Kyoto 602-8570, Japan

edited by Cultural Properties Division Department of Guidance

Kyoto Prefectural Department of Education

Published by Kyoto Prefectural Board of Education

No Parts of this publication may be reproduced or by any means Without prior
permission of copyright owner

京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 29 年度）

発行 平成 30 年 3 月 31 日

編集 京都府教育庁指導部
文化財保護課

発行 京都府教育委員会

〒 602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

印刷 株式会社図書印刷同朋舎

〒 600-8805 京都府京都市下京区中堂寺鍵田町 2

**KYOTO PREF.
CULTURAL PROPERTIES REPORT**

**KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION
JAPAN**